

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
福岡県バス 対策協議会	堀川バス(株) 昭和自動車(株) 西鉄バス佐賀(株) 西鉄バス佐賀(株)・西 鉄バス久留米(株) 西鉄バス久留米(株) 西鉄バス筑豊(株) 西鉄バス宗像(株) 西鉄バス大牟田(株) 西鉄バス北九州(株) 西鉄バス二日市(株) JR九州バス(株) (株)甘木観光バス	56系統 ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価 のとおり	A評価：56系統 B評価：0系統 C評価：0系統	A評価：25系統 B評価：28系統 C評価：3系統 【参考：前年度】 A評価：25系統 B評価：22系統 C評価：4系統	別添一次評価 のとおり	運転者や事務員など人手不足が進む中、企画乗車券の販売、イベントとのタイアップ、バスの乗り方教室の開催、時刻表や沿線情報チラシの配布を行う等利用促進に取り組まれていることを評価します。 目標達成に向けた今回の取組みについては、具体的な取組みの結果やその効果に加え、工夫した内容などについても記録されると、より効果的な改善につながるものと思慮されます。 目標を達成できた系統と達成できていない系統がありますが、それぞれの要因について分析し、評価書に記録することは重要です。一部の系統において人口減少や人件費、燃料高騰の影響を受けていますが、地域の実情を考慮のうえ、その他に原因がないかどうかについても分析し、その他要因への改善点を検討いただくと、より効果的な改善につながることを期待されます。 さらに、目標を達成できた系統、要因の分析や取組みの改善が良くてきている系統については、他系統においても参考・活用されることを期待します。 今後は、アフターコロナを見据えた目標設定や評価指標の見直しも検討いただきながら、県と市町村が連携を図り事業者や住民と共に地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、地域の特性・実情に最適な交通手段が確保・維持されることを期待します。	評価指標 【収支率】 【輸送人員】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月24日

協議会名: 福岡県バス対策協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
堀川バス株式会社	羽犬塚～ゆめタウン前～福島～黒木	八女市が行っている「通学定期券補助事業」や交通系ICカード購入及び利用を学校や家庭へ呼びかけ、チラシの配布を実施した。 沿線学校へ訪問し、通学利用者、小中高生の休日の利用呼びかけや、チラシ配布を実施した。イベント時にバスの体験乗車会を実施し、バス利用の呼びかけを行った。筑後広域公園で利用促進のキャンペーンを実施し利用の呼びかけを行った。	A 計画通り適切に実施された。	A 【目標】収支率31.6% 輸送人員65,668人 【実績】収支率36.3%(+4.7%) 輸送人員89,871人 利用者が一部回復し収支率及び輸送人員の目標を達成した。	引き続き、「通学定期券補助事業」、交通系ICカードの利用や割引サービス等HPやチラシ配布等での周知を図り、利用促進の呼びかけを行う。八女市が運行している乗合タクシーとの接続を図り利便性を高め、利用促進の呼びかけを行う。バス体験乗車会を実施し、バス利用の呼びかけを行う。
堀川バス株式会社	羽犬塚～蒲原～黒木～柴庵	八女市が行っている「通学定期券補助事業」や交通系ICカード購入及び利用を学校や家庭へ呼びかけ、チラシの配布を実施した。 沿線学校へ訪問し、通学利用者、小中高生の休日の利用呼びかけや、チラシ配布を実施した。イベント時にバスの体験乗車会を実施し、バス利用の呼びかけを行った。筑後広域公園で利用促進のキャンペーンを実施し利用の呼びかけを行った。	A 計画通り適切に実施された。	B 【目標】収支率39.1% 輸送人員74,767人 【実績】収支率30.0%(▲9.1%) 輸送人員57,352人 利用者の減少、一部減便の影響、経費の増加もあり、輸送人員、収支率ともに目標を達成できなかった。	次年度は系統の変更もあり、羽犬塚～蒲原～黒木間が幹線系統となる。収支率を改善させるべく引き続き、「通学定期券補助事業」、交通系ICカードの利用や割引サービス等HPやチラシ配布等での周知を図り、利用促進の呼びかけを行う。八女市が運行している乗合タクシーとの接続を図り利便性を高め、利用促進の呼びかけを行う。バス体験乗車会を実施し、バス利用の呼びかけを行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
堀川バス株式会社	福島～鎌水・西鉄久留米～久留米駅	ICカード導入による利便性向上や1日乗車券、運転免許返納割引証の発行により利用促進のチラシを配布し、バス利用の呼びかけを行った。路線情報を掲載した公共交通マップを配布し、交通系ICカードの購入や利用の呼びかけを行った。	A	計画通り適切に実施された。	B 【目標】収支率55.3% 輸送人員50,525人 【実績】収支率53.5%(▲1.8%) 輸送人員53,446人 利用者が一部回復し、輸送人員の目標は達成したが、物価高騰等による経費の増加により収支率は目標を達成できなかった。	引き続き、交通系ICカードの導入や割引サービス等をHPやチラシ配布等で周知を図り、利用促進の呼びかけを行う。
堀川バス株式会社	福島～田ノ原～十亀車庫前	八女市が行っている「通学定期券補助事業」や交通系ICカード購入及び利用を学校や家庭へ呼びかけ、チラシの配布を実施した。沿線学校へ訪問し、通学利用者、小中高生の休日の利用呼びかけや、チラシ配布を実施した。イベント時にバスの体験乗車会を実施し、バス利用の呼びかけを行った。筑後広域公園で利用促進のキャンペーンを実施し利用の呼びかけを行った。	A	計画通り適切に実施された。	B 【目標】収支率35.2% 輸送人員58,393人 【実績】収支率30.5%(▲4.7%) 輸送人員55,034人 利用者の減少、経費の増加により収支率及び輸送人員の目標を達成できなかった。	引き続き、「通学定期券補助事業」、交通系ICカードの利用や割引サービス等HPやチラシ配布等での周知を図り、利用促進の呼びかけを行う。八女市が運行している乗合タクシーとの接続を図り利便性を高め、利用促進の呼びかけを行う。バス体験乗車会を実施し、バス利用の呼びかけを行う。
堀川バス株式会社	瀬高駅前～西鉄柳川～亀の井ホテル柳川	柳川市及びみやま市のコミュニティバスに接続する幹線バスの周知を行った。沿線学校や住民に対し、バス利用の呼びかけを行った。バスの乗り方教室や無料バスの運行を実施し、路線バスを広く周知し、利用の呼びかけを行った。	A	計画通り適切に実施された。	A 【目標】収支率42.1% 輸送人員99,771人 【実績】収支率46.8%(+4.7%) 輸送人員128,726人 インバウンドを始めとする観光客の増加により利用者が回復し収支率及び輸送人員の目標を達成した。	引き続き、交通系ICカードの導入や割引サービス等の情報についてHPやチラシ配布等で周知を図る。無料バスを実施しバス利用の機会を設けて利用促進の呼びかけを行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車(株)	前原～前原駅前・加布里～芥屋の運行 R6 車両購入なし	路線の適正化について糸島市と協議を重ねているが、今後、糸島市が策定する予定である利便増進実施計画も踏まえ具体的な施策を協議していくこととしており、令和6年度においては実施することができなかったが、糸島半島のバス路線が1日乗り放題となるデジタルチケット「まるっとおむすびフリーパス」について、バス車内でのポスター掲示やSNSでの特集動画を放映するなど販促活動に努めた。	A	概ね計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率31.08% 輸送人員50,624人 【実績】収支率39.36%(+8.28%) 輸送人員70,732人 利用人員は昨年度と比較して13,091人の利用増となった。 昨年度と比較し人件費や燃料費が増加したものの、芥屋海水浴場や沿線の観光地への利用増加により、輸送人員が回復し運送収入が増えたことで目標収支率を達成することができた。	糸島市交通計画に基づき、利用実態に即した利用促進策やダイヤ改正を検討していく。また、現在販売しているデジタルチケットの普及活動も継続的に起こない、更なる利用者の増加を図っていく。
昭和自動車(株)	前原～師吉公民館前・初～船越の運行 R6 車両購入なし	路線の適正化について糸島市と協議を重ねているが、今後、糸島市が策定する予定である利便増進実施計画も踏まえ具体的な施策を協議していくこととしており、令和6年度においては実施することができなかったが、糸島半島のバス路線が1日乗り放題となるデジタルチケット「まるっとおむすびフリーパス」について、バス車内でのポスター掲示やSNSでの特集動画を放映するなど販促活動に努めた。	A	概ね計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率18.84% 輸送人員26,667人 【実績】収支率23.91%(+5.07%) 輸送人員33,604人 利用人員は昨年度と比較して2,983人の利用増となった。 昨年度と比較し人件費や燃料費が増加したものの、沿線のカキ小屋への観光客輸送人員が回復し運送収入が増加したことにより目標収支率を達成することができた。	糸島市交通計画に基づき、利用実態に即した利用促進策やダイヤ改正を検討していく。また、現在販売しているデジタルチケットの普及活動も継続的に起こない、更なる利用者の増加を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車(株)	前原～師吉公民館前・野北～ 伊都営業所の運行 R6 車両購入なし	路線の適正化について糸島市と協議を重ねているが、今後、糸島市が策定する予定である利便増進実施計画も踏まえ具体的な施策を協議していくこととしており、令和6年度においては実施することができなかったが、糸島半島のバス路線が1日乗り放題となるデジタルチケット「まるっとおむすびフリーパス」について、バス車内でのポスター掲示やSNSでの特集動画を放映するなど販促活動に努めた。	A	概ね計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率18.69% 輸送人員23,372人 【実績】収支率18.99%(+0.3%) 輸送人員30,037人 利用人員は昨年度と比較して4,087人の利用増となった。 昨年度と比較し人件費や燃料費が増加したものの、観光地として人気のある糸島へ観光利用が増加し運送収入が増えたことにより目標収支率を達成することができた。	糸島市交通計画に基づき、利用実態に即した利用促進策やダイヤ改正を検討していく。また、現在販売しているデジタルチケットの普及活動も継続的にこない、更なる利用者の増加を図っていく。
昭和自動車(株)	前原駅北口～波多江～九大東 ゲートの運行 R6 車両2台購入	路線の適正化について糸島市と協議を重ねているが、今後、糸島市が策定する予定である利便増進実施計画も踏まえ具体的な施策を協議していくこととしており、令和6年度においては実施することができなかったが、糸島半島のバス路線が1日乗り放題となるデジタルチケット「まるっとおむすびフリーパス」について、バス車内でのポスター掲示やSNSでの特集動画を放映するなど販促活動に努めた。	A	概ね計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率39.45% 輸送人員53,342人 【実績】収支率57.76%(+18.31%) 輸送人員96,035人 利用人員は昨年度と比較して6,297人の利用増となった。 昨年度と比較し人件費や燃料費が増加したものの、路線沿線にマンションや学生寮が建設され通学利用が増え運送収入が増加したことにより目標収支率を達成することができた。	増加している通学利用者に対する利便性の向上や細やかなダイヤの設定を行い更なる利用者の増加を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車(株)	周船寺小学校～高田～九大東 ゲートの運行 R6 車両2台購入	路線の適正化について糸島市と協議を重ねているが、今後、糸島市が策定する予定である利便増進実施計画も踏まえ具体的な施策を協議していくこととしており、令和6年度においては実施することができなかったが、糸島半島のバス路線が1日乗り放題となるデジタルチケット「まるっとおむすびフリーパス」について、バス車内でのポスター掲示やSNSでの特集動画を放映するなど販促活動に努めた。	A 概ね計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率43.30% 輸送人員53,679人 【実績】収支率57.76%(+14.46%) 輸送人員125,158人 利用人員は昨年度と比較して10,821人の利用増となった。 昨年度と比較し人件費や燃料費が増加したものの、路線沿線にマンションや学生寮が建設され通学利用が増え運送収入が増加したことにより目標収支率を達成することができた。	増加している通学利用者に対する利便性の向上や細やかなダイヤの設定を行い更なる利用者の増加を図っていく。
西鉄バス佐賀(株)	JR久留米～久留米警察署～ 西鉄鳥栖	◇実施できたこと ・令和6年9月28日「バスの日イベントin鳥栖」を実施。 ・「こども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客さまに随時配布を行っている。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ◇目標 ・収支率: 65.7% ・輸送人員: 令和4年度実績141,569人以上を維持する。 ◇実績 収支率69.17%(+3.47%) 輸送人員186,892人(+45,323人)	◇利用促進 ・さがMaaS事業実行委員会の取り組みに参加し、令和6年10月(1ヵ月間限定)にスマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「SAGA2024路線バスとくとく24H乗車券」を発売した。 今後も、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる施策を実施していきたい。 ・鳥栖市と共に実施をしている「バスの日イベントin鳥栖」において、毎年鳥栖市内で完結する路線のみを対象に無料バスを行っているが、来年度以降、本系統も無料バスの対象となるよう検討を行う。 ◇その他 ・令和6年11月25日 基里小学校にてバスの乗り方教室を実施した。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス佐賀(株)	鳥栖駅～綾部・国立東佐賀病院前～西鉄久留米	◇実施できたこと ・令和6年9月28日「バスの日イベントin鳥栖」を実施。 ・「こども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客様に随時配布を行っている。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ◇目標 ・収支率:42.4% ・輸送人員:令和4年度実績75,787人以上を維持する。 ◇実績 ・収支率41.05%(▲1.35%) ・輸送人員96,932人(+21,145人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・さがMaaS事業実行委員会の取り組みに参加し、令和6年10月(1ヵ月間限定)にスマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「SAGA2024路線バスとくどく24H乗車券」を発売した。 ・今後、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる施策を実施していきたい。 ・鳥栖市と共に実施をしている「バスの日イベントin鳥栖」において、毎年鳥栖市内で完結する路線のみを対象に無料バスを行っているが、来年度以降、本系統も無料バスの対象となるよう検討を行う。 ◇その他 ・令和6年11月29日 麓小学校にてバスの乗り方教室を実施した。
西鉄バス佐賀(株)	佐賀第二合同庁舎～寄人橋～西鉄久留米	◇実施できたこと ・「こども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客様に随時配布を行っている。 ・関係する自治体と協議を行い、令和5年10月1日に労働改善につながるダイヤ改正を実施した。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ◇目標 ・収支率:53.6% ・輸送人員:令和4年度実績125,088人以上を維持する。 ◇実績 - 収支率53.39%(▲0.21%) - 輸送人員157,180人(+32,092人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・さがMaaS事業実行委員会の取り組みに参加し、令和6年10月(1ヵ月間限定)にスマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「SAGA2024路線バスとくどく24H乗車券」を発売した。 ・今後、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる取り組みを実施していきたい。 ・佐賀県と共に、令和6年11月16日、17日に佐賀市内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「佐賀市内バス無料DAY」を実施した。今後も日頃バスを利用していないお客様がバスを利用するきっかけとなるような取り組みを行ってきたい。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス佐賀(株) 西鉄バス久留米(株)	佐賀第二合同庁舎～目達原～ 西鉄久留米	◇実施できたこと ・「こども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客さまに随時配布を行っている。 ・西鉄バス公式X(旧Twitter)を活用し、沿線の催し情報の発信を行った。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ◇目標 ・収支率:61.4% ・輸送人員:令和4年度実績137,926人以上を維持する。※ともに西鉄バス佐賀のみの実績 ◇実績 - 収支率67.42%(+6.02%) - 輸送人員166,695人(+28,769人)	◇利用促進 ・さがMaaS事業実行委員会の取り組みに参加し、令和6年10月(1ヵ月間限定)にスマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「SAGA2024路線バスとくどく24H乗車券」を発売した。今後も、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる取り組みを実施していきたい。 ・佐賀県と共に、令和6年11月16日、17日に佐賀市内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「佐賀市内バス無料DAY」を実施した。今後も日頃バスを利用していないお客さまがバスを利用するきっかけとなるような取り組みを行っていきたい。
西鉄バス久留米(株)	早津江～布橋～西鉄柳川	◇実施できたこと ・R5年12月22日、23日の2日間、柳川市・みやま市連携でバス無料乗車イベントを実施。2日間で366名利用 ・MaaSの取組、my routeアプリを活用し「有明のりのりきつぷ」を発売した。 ・西鉄バス窓口、市役所窓口にて公共交通マップの配布を行った。 ◇実施できなかったこと ・商業施設でのチラシ配布(理由) 他の取組を優先的に実施した結果、商業施設でのチラシ配布を行うことができなかった。	A 実施できなかった点もあったが、事業は概ね計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A ◇目標 ・収支率33.81% ・輸送人員43,539人以上を維持する。 ◇実績 - 収支率40.15%(+6.34%) - 輸送人員70,588人(27,049人増加)	◇利用促進 ・令和6年11月22日、23日の2日間柳川市、みやま市連携でバス無料乗車イベント実施。2日間で427名利用(対前年+61名) - チラシ配布、Xでの事前周知を行った。路線バスにおいても観光需要獲得を図りたい。 参考)路線バス沿線観光施設御花 ◇その他 運行する大川支社は乗務員の高齢化が深刻。2025年2月1日に運賃改定を行い、待遇改善を図りさらなる採用強化に務めていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス久留米(株)	大野島農協前～堤・水田天満宮 恋木神社～羽犬塚駅前	◇実施できたこと ・筑後市が「筑後市公共交通マップ」を作成。窓口での配布等を行っている。 ・R5年12月2日 ゆめマート筑後においてちっごのりものフェスタ開催。西鉄バス久留米、堀川バス、JR九州、タクシー2社が参加し、こども運転士体験会など開催。参加者数約400名。 ・R5年9月21日 ゆめマート筑後においてちっごのりものフェスタ開催。西鉄バス久留米、堀川バス、JR九州、タクシー2社が参加し、昨年度から一部内容変更し、バス教室を実施。参加者数約400名。また、筑後市が主体となり公共交通アンケートを行った。 ・令和6年3月23日以降、土日祝もこども50円バスを実施した。保護者同伴での利用も見受けられた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B ◇目標 ・収支率26.58% ・輸送人員32,167人以上を維持する。 ◇実績 収支率22.97%(▲3.61%悪化) 輸送人員37,496人(5,329人増加) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 大川市でのPR等が行えていないため、利用促進の連携を行いたい。昨年利用促進が行えていなかった大木町にて、令和6年11月10日に、さるこいフェスタに参加し、バスグッズ販売等によるバスファンづくりに務めた。これを機にさらなる公共交通利用促進を行いたい。 ◇利便性向上 JR線(羽犬塚駅)とバスの接続が一部できていないとの利用者からの意見があるため、ダイヤの見直しを検討したい。 ◇その他 運行する大川支社は乗務員の高齢化が深刻。2025年2月1日に運賃改定を行い、待遇改善を図りさらなる採用強化に務めたい。
西鉄バス久留米(株)	大川橋～下林・大善寺～JR久留米	◇実施できたこと ・路線バス車内に沿線イベント等のチラシを吊下げした。吊り下げのチラシについては最寄りバス停の記載を作成団体に依頼した。また、公共交通マップを西鉄バス各支社の窓口、および西鉄久留米バスセンター、定期券窓口を設置し、配布を行った。 ・R5年12月～R6年7月にかけて福岡県MaaSの取組で「久留米GoGoきっぷ」を発売。また、令和6年2月12日にJR久留米駅にてJRのりものパラダイスに参加。MaaS利用促進のため、イベント当日を含めた3連休に乗車券が100円で購入できる割引施策を実施し321枚を発売した。その結果、累計で575枚の発売に繋がった。 ・令和6年3月23日以降、土日祝もこども50円バスを実施した。保護者同伴での利用も見受けられた。 ・R5年11月、大川支社にて城島小学校バス教室を実施	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A ◇目標 ・収支率40.03% ・輸送人員88,258人以上を維持する。 ◇実績 収支率40.47%(+0.44%改善) 輸送人員113,336人(25,078人増加)	◇利便性向上 令和6年12月下旬に、運行する大川支社にてノンステップバスを1台導入。 ◇その他 運行する大川支社は乗務員の高齢化が深刻。2025年2月1日に運賃改定を行い、待遇改善を図りさらなる採用強化に努めたい。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス久留米(株)	今村天主堂～北野～西鉄久留米	◇実施できたこと ・路線バス車内に沿線イベント等のチラシを吊下げた。吊り下げるチラシについては最寄りバス停の記載を作成団体に依頼した。また、公共交通マップを西鉄バス各支社の窓口、および西鉄久留米バスセンター、定期券窓口に設置し、配布を行った。 ・R5年12月～R6年7月にかけて福岡県MaaSの取組で「久留米GoGoきっぷ」を発売。また、令和6年2月12日にJR久留米駅にてJRのりものパラダイスに参加。MaaS利用促進のため、イベント当日を含めた3連休に乗車券が100円で購入できる割引施策を実施し321枚を発売した。その結果、累計で575枚の発売に繋がった。 ・R6年5月30日 障害者雇用支援センターにて(屋内型)バス教室を実施した。 ・令和6年3月23日以降、土日祝もこども50円バスを実施した。保護者同伴での利用も見受けられた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率50.78% ・輸送人員46,164人以上を維持する。 ◇実績 収支率50.42%(▲0.36%) 輸送人員57,400人(11,236人増加) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 今年度、福岡県MaaSの取り組みに参加。自治体・交通事業者と連携し、スマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「久留米GoGo! きっぷ」「田主丸もぎもぎきっぷ」を発売。課題や反省点のブラッシュアップを行い、次回施策に取り組みたい。 ◇その他 今村天主堂が改修工事中。工事期間は2021年より8年～10年間で予定されている。
西鉄バス久留米(株)	上原～草野駅前～JR久留米	◇実施できたこと ・西鉄バス窓口、市役所窓口にて公共交通マップの配布を行った。また、当路線の運行営業所である吉井営業所にて、令和5年12月にバス車内および吉井営業所待合所にクリスマス装飾を行い、バスの利用促進に努めた。 ・R5年12月～R6年7月にかけて福岡県MaaSの取組で「久留米GoGoきっぷ」を発売。また、令和6年2月12日にJR久留米駅にてJRのりものパラダイスに参加。MaaS利用促進のため、イベント当日を含めた3連休に乗車券が100円で購入できる割引施策を実施し321枚を発売した。その結果、累計で575枚の発売に繋がった。 ・令和6年3月23日以降、土日祝もこども50円バスを実施した。保護者同伴での利用も見受けられた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率78.33% ・輸送人員94,176人以上を維持する。 ◇実績 収支率64.21%(－14.12%) 輸送人員98,257人(4,081人増加) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進・復興支援 令和5年7月大雨の影響により、迂回運行を行い、竹野小学校前バス停通過、5分の遅延が発生していたが、令和5年11月24日より通常運行再開。 今年度、福岡県MaaSの取り組みに参加。自治体・交通事業者と連携し、スマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「田主丸もぎもぎきっぷ」を復興支援策として発売。課題や反省点のブラッシュアップを行い、次回施策に取り組みたい。 ◇その他 運行する吉井支社は乗務員の採用が他のエリアと比較すると少ない。2025年2月1日に運賃改定を行い、待遇改善を図りさらなる採用強化に努めたい。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス久留米(株)	JR久留米～久留米市役所～ 羽犬塚駅前	◇実施できたこと ・筑後市が「筑後市公共交通マップ」を作成。窓口での配布等を行っている。 ・R5年12月2日 ゆめマート筑後においてちっごのりものフェスタ開催。西鉄バス久留米、堀川バス、JR九州、タクシー2社が参加し、こども運転士体験会など開催。参加者数約400名。 ・R6年9月21日 ゆめマート筑後においてちっごのりものフェスタ開催。西鉄バス久留米、堀川バス、JR九州、タクシー2社が参加し、昨年度から一部内容変更し、バス教室を実施。参加者数約400名。また、筑後市が主となり公共交通アンケートを行った。 ・令和5年10月6日 西鉄バス久留米船小屋車庫において、筑後市水洗小学校児童が来営しバス教室を実施した。 ・令和6年3月23日以降、土日祝もこども50円バスを実施した。保護者同伴での利用も見受けられた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率56.90% ・輸送人員42,939人以上を維持する。 ◇実績 収支率56.46%(▲0.44%) 輸送人員53,932人(10,993人増加) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 今年度、福岡県MaaSの取り組みに参加。自治体・交通事業者と連携し、スマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「久留米GoGo! きっぷ」「田主丸もぎもぎきっぷ」を発売。課題や反省点のブラッシュアップを行い、次回施策に取り組みたい。 ◇その他 今年度も関係自治体の筑後市とバス営業所内でのバス教室を実施した。乗務員不足により出前授業は近年難しくなっているため、モデルケースの1つとして引き続き利用促進に取り組みたい。 また、R6年12月には新たに久留米市と連携し、バス営業所内でのバス教室を実施。モデルケースを生かすことができた。
西鉄バス久留米(株)	上原～草野駅前～西鉄久留米	◇実施できたこと ・西鉄バス窓口、市役所窓口にて公共交通マップの配布を行った。当路線の運行営業所である吉井営業所にて令和5年12月にバス車内および吉井営業所待合所にクリスマス装飾を行い、バスの利用促進に努めた。 ・R5年12月～R6年7月にかけて福岡県MaaSの取組で「久留米GoGoきっぷ」を発売。また、令和6年2月12日にJR久留米駅にてJRのりものパラダイスに参加。MaaS利用促進のため、イベント当日を含めた3連休に乗車券が100円で購入できる割引施策を実施し321枚を発売した。その結果、累計で575枚の発売に繋がった。 ・令和6年3月23日以降、土日祝もこども50円バスを実施した。保護者同伴での利用も見受けられた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率41.14% ・輸送人員39,793人以上を維持する。 ◇実績 収支率39.12%(▲2.02%悪化) 輸送人員52,577人(12,784人増加) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進・復興支援 令和5年7月大雨の影響により、迂回運行を行い、竹野小学校前バス停通過、5分の遅延が発生していたが、令和5年11月24日より通常運行再開。 今年度、福岡県MaaSの取り組みに参加。自治体・交通事業者と連携し、スマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「田主丸もぎもぎきっぷ」を復興支援策として発売。課題や反省点のブラッシュアップを行い、次回施策に取り組みたい。 ◇その他 運行する吉井支社は乗務員の採用が他のエリアと比較すると少ない。2025年2月1日に運賃改定を行い、待遇改善を図りさらなる採用強化に努めていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス久留米(株)	筑後船小屋～筑後市役所～J R久留米	◇実施できたこと ・筑後市が「筑後市公共交通マップ」を作成。窓口での配布等を行っている。 ・R5年12月2日 ゆめマート筑後においてちっごのりものフェスタ開催。西鉄バス久留米、堀川バス、JR九州、タクシー2社が参加し、こども運転士体験会など開催。参加者数約400名。 ・R6年9月21日 ゆめマート筑後においてちっごのりものフェスタ開催。西鉄バス久留米、堀川バス、JR九州、タクシー2社が参加し、昨年度から一部内容変更し、バス教室を実施。参加者数約400名。また、筑後市が主となり公共交通アンケートを行った。 ・令和5年10月6日 西鉄バス久留米船小屋車庫において、筑後市水洗小学校児童が来営しバス教室を実施した。 ・令和6年3月23日以降、土日祝もこども50円バスを実施した。保護者同伴での利用も見受けられた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率78.20% ・輸送人員110,377人以上を維持する。 ◇実績 収支率77.01%(▲1.19%) 輸送人員145,274人(34,897人増加) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・今年度、福岡県MaaSの取り組みに参加。自治体・交通事業者と連携し、スマホアプリ「my route」を活用した企画乗車券「久留米GoGo! きっぷ」「田主丸もぎもぎきっぷ」を発売。課題や反省点のブラッシュアップを行い、次回施策に取り組みたい。 ・令和7年度、ちっご祭は10月19日(日)に開催予定。引き続き、関係自治体と連携し、利用促進策を実施したい。 ◇その他 今年度も関係自治体の筑後市とバス営業所内でのバス教室を実施した。乗務員不足により出前授業は近年難しくなっているため、モデルケースの1つとして引き続き利用促進に取り組みたい。 また、R6年12月には新たに久留米市と連携し、バス営業所内でのバス教室を実施。モデルケースを生かすことができた。
西鉄バス筑豊(株)	新飯塚駅～飯塚・小竹上町～ 赤池工業団地	①公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 ②近隣の伏原地区の住民(200人)に対して利用を呼びかけ、バス利用者の増を図る。 ③こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【効果目標】 ・収支率 49.22%から収支改善1.0%以上 ・輸送人員80,247人以上 【実績】 ・収支率44.53%(▲5.69%) ・輸送人員85,131人(+4,857人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス筑豊㈱	直方～五反田・鞍手車庫～遠賀川駅	①沿線学校や企業への通勤・通学、病院への通院利用者に対して利用の呼びかけを行うことで、利用者の増を図る。 ②地域住民との意見交換や各種イベントなどで公共交通利用への意識醸成を図る。 ③出前講座における路線バスのPR ④こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【効果目標】 ・収支率 30.79% ・輸送人員71,047人以上 【実績】 ・収支率28.71%(▲2.08%) ・輸送人員79,040人(+7,993人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等
西鉄バス筑豊㈱	遠賀川駅～新入～直方	①沿線学校や企業への通勤・通学、病院への通院利用者に対して利用の呼びかけを行うことで、利用者の増を図る。 ②地域住民との意見交換や各種イベントなどで公共交通利用への意識醸成を図る。 ③出前講座における路線バスのPR ④こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【効果目標】 ・収支率 27.10% ・輸送人員37,536人以上 【実績】 ・収支率25.33%(▲1.77%) ・輸送人員41,363人(+3,827人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	西鉄大隈～漆生～飯塚	①観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架および市内各種イベントにおいてノベルティ等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、公共施設内でのポスター掲示やバス利用を呼び掛けるチラシの配架を行うとともに、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシを全戸配布する。 ②公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 ③沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対し、バス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 ④市バスとの乗り継ぎを強化、沿線住民の方々への利用促進の呼びかけを行う。 ⑤普通第二種運転免許取得にかかる費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 ⑥こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 ⑦定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【効果目標】 ・収支率45.33 % ・輸送人員103,828人以上 【実績】 ・収支率45.45% (+0.12%) ・輸送人員129,053人 (+25,225人)	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	西鉄大隈～桂川駅～飯塚	①観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架および市内各種イベントにおいてノベルティ等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、公共施設内でのポスター掲示やバス利用を呼び掛けるチラシの配架を行うとともに、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシを全戸配布する。 ②公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 ③定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 ④市バスとの乗り継ぎを強化、沿線住民の方々への利用促進の呼びかけを行う。 ⑤普通第二種運転免許取得にかかる費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 ⑥こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【効果目標】 ・収支率 48.49% ・輸送人員38,228人以上 【実績】 ・収支率41.17%(▲7.32%) ・輸送人員39,406人(+1,178人) 輸送人員は回復傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症の影響前2019年度と比べると戻り切っていない。また、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。 また、当路線の運行する飯塚市、嘉麻市等の人口も年々減少傾向にあるため今後もこのような状況が続くと考えられる。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	山野社宅～上三緒～飯塚	①沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対しバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 ②市報・市HP等に利用促進の記事を掲載し、観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシを全戸配布する。 ③公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 ④普通第二種運転免許取得に係る費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 ⑤こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 ⑥定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【効果目標】 ・収支率 53.86% ・輸送人員51,665人以上 【実績】 ・収支率49.91%(▲3.95%) ・輸送人員56,247人(+4,582人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等
西鉄バス筑豊(株)	上山田～上三緒～飯塚	①沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対しバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 ②市報・市HP等に利用促進の記事を掲載し、観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシを全戸配布する。 ③公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 ④普通第二種運転免許取得に係る費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 ⑤こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 ⑥定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 【効果目標】 ・収支率 71.46% ・輸送人員102,057人以上 【実績】 ・収支率61.40%(▲10.06%) ・輸送人員104,932人(+2,875人) 輸送人員は増加傾向にあるが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等 また、観光施設、商店街等への時刻表配架を強化し、利用促進を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	西鉄後藤寺～川崎～めんべい 添田町工場	①当該路線沿線の病院や学校に向けて、利用促進チラシの配布を行うことで、利用者の増を図る。また、イベント開催時に、路線バス・コミュニティバスを含めた周知を行い、利用者の増を図る。 ②沿線病院等への時刻表の配布と併せて、幹線と接続しているコミュニティバスの便について周知することでバス利用者の増を図る。 ③市広報紙等での利用啓発に向けたPR(田川市) ④こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【効果目標】 ・収支率 41.38% ・輸送人員60,380人以上 【実績】 ・収支率33.24%(▲8.14%) ・輸送人員61,192人(+812人) 輸送人員は回復傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症の影響前2019年度と比べると戻り切っていない。また、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。 また、当路線の運行する田川市、川崎市、添田町の人口も年々減少傾向にあるため今後もこのような状況が続くと考えられる。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等
西鉄バス筑豊(株)	赤坂橋～有井～飯塚	①公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 ②こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【効果目標】 ・収支率 63.81% ・輸送人員38,743人以上 【実績】 ・収支率67.35%(+3.54%) ・輸送人員47,714人(+8,971人)	小学生の利用が多い路線であるため、こども50円バスPRを強化することで、家族利用の促進を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	明治坑～飯塚～明星寺団地	①公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 ②こども50円バスを定期的 to 実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【効果目標】 ・収支率 69.69% ・輸送人員117,478人以上 【実績】 ・収支率67.26%(▲2.43%) ・輸送人員133,487人(+16,009人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等
西鉄バス筑豊(株)	直方～引野口～黒崎	①市民を対象とした出前講演等において、公共交通の維持の重要性等を説明し、公共交通の利用促進を図る。 ②こども50円バスを定期的 to 実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【効果目標】 ・収支率66.00 % ・輸送人員128,669人以上 【実績】 ・収支率67.70%(+1.70%) ・輸送人員150,014人(+21,345人)	通勤利用が多い路線であるため、こども50円バスをPR強化し、家族利用の促進を図る。
西鉄バス筑豊(株)	宮田バス停～鞍手車庫～鞍手駅	①時刻表や路線を掲載したバスガイドを、沿線の病院や商業施設等に配布し、路線バス利用者の増を目指す。 ②定期的に開催するイベントとの提携(公共交通利用によるイベントへの参加の奨励など)、イベントでのチラシの配布。利用促進に向けた広報での周知。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【効果目標】 ・収支率 25.03% ・輸送人員20,711人以上 【実績】 ・収支率23.91%(▲1.12%) ・輸送人員21,219人(+508人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	近隣住民や学校、企業への通勤・通学利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 ※チラシ内容 運行時刻、隣接施設情報等

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス宗像(株)	津屋崎～鐘崎線(東郷駅～波止場・福岡海岸～光陽台六丁目)	・福津市が運行する「ふくつミニバス」との乗継施策を継続し、公共交通の効率化を図った。 ・路線上エリアにおいてバスの乗り方教室や沿線学校に定期券PRを実施するなど利用者増に取り組んだ。 ・こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施し、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率58.2% 輸送人員74,025人 【実績】収支率62.2%(+4.0%) 輸送人員89,797人 (+15,772人)	沿線利用者に対しては、定期券のPRを継続し、更なる利用者増に努める。また、観光エリアを絡めた当該路線のPRを積極的に行い収支改善を図る。
西鉄バス宗像(株)	津屋崎～鐘崎線(東郷駅～宗像大社～神湊波止場)	・路線上エリアにおいてバスの乗り方教室や沿線学校に定期券PRを実施するなど利用者増に取り組んだ。 ・こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施し、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率61.9% 輸送人員37,642人 【実績】収支率69.6%(+7.7%) 輸送人員64,056人 (+26,414人)	沿線利用者に対しては、定期券のPRを継続し、更なる利用者増に努める。また、観光エリアを絡めた当該路線のPRを積極的に行い収支改善を図る。
西鉄バス宗像(株)	津屋崎～鐘崎線(鐘崎車庫～宗像コモン・東郷～東郷駅)	・路線上エリアにおいてバスの乗り方教室や沿線学校に定期券PRを実施するなど利用者増に取り組んだ。 ・「むなかた地域公共交通シンポジウム」にてブースを設け、PR活動を行った。 ・こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施し、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率48.0% 輸送人員81,232人 【実績】収支率50.6%(+2.6%) 輸送人員99,241人 (+18,009人)	沿線利用者に対して、定期券のPRを継続し、更なる利用者増に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス宗像(株)	津屋崎～鐘崎線(鐘崎車庫～ ネオポリス・宗寿園～赤間営業 所)	・路線上エリアにおいてバスの乗り方教室や沿線学校に定期券PRを実施するなど利用者増に取り組んだ。 ・「むなかた地域公共交通シンポジウム」にてブースを設け、PR活動を行った。 ・こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施し、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。	A	計画通り事業は適切に 実施された。	B 【目標】 収支率43.9% 輸送人員88,047人 【実績】 収支率42.7%(▲1.2%) 輸送人員 95,968人 (+7,921人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費・燃料費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	沿線利用者に対して、定期券のPRを継続し、更なる利用者増に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス大牟田(株)	西鉄大牟田営業所～大牟田市 立病院・上町～庄山	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率26.1% ・輸送人員22,063以上を維持する。 ◇実績 ・収支率26.06%(▲0.04%) ・輸送量23,680人(+1,617人) B ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を関係自治体の大牟田市・福岡県と連携し、更なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、バス利用者の拡大に努める。 ◇その他 令和6年度 大牟田市内5校にてバス教室を実施した。 (令和6年10月.11月.12月)
西鉄バス大牟田(株)	西鉄大牟田営業所～延命公園 動物園前・大牟田市立病院・新大牟田駅～南関町役場	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・新大牟田駅での接続の見直し及び、新大牟田駅乗り入れ系統新設 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率38.3% ・輸送人員99,726以上を維持する。 ◇実績 ・収支率36.05%(▲2.25%) ・輸送量104,359人(+4,633人) B ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を関係自治体の大牟田市・福岡県と連携し、更なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、バス利用者の拡大に努める。 ◇その他 令和6年度 大牟田市内5校にてバス教室を実施した。 (令和6年10月.11月.12月)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス大牟田(株)	荒尾駅～右京町～久福木団地	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率65.1% ・輸送人員97,454以上を維持する。 ◇実績 ・収支率64.47%(▲0.63%) ・輸送量104,834人(+7,380人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を関係自治体の大牟田市・福岡県と連携し、更なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、バス利用者の拡大に努める。 ◇その他 令和6年度 大牟田市内5校にてバス教室を実施した。 (令和6年10月.11月.12月)
西鉄バス大牟田(株)	荒尾駅前～天領橋・高泉団地～三池中町	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	◇目標 ・収支率69.1% ・輸送人員97,996以上を維持する。 ◇実績 ・収支率68.88%(▲0.22%) ・輸送量109,192人(+11,196人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、収入の増加よりも、費用の増加が上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を関係自治体の大牟田市・福岡県と連携し、更なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、バス利用者の拡大に努める。 ◇その他 令和6年度 大牟田市内5校にてバス教室を実施した。 (令和6年10月.11月.12月)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス北九州(株)	香月営業所～鳥森・JR中間駅 ～筑鉄中間の運行	・中間市庁舎に時刻表を設置するとともに、HPに当該路線を利用していくことができるイベントの案内を行った。(中間市) ・公共交通の維持の重要性を説明する出前講演を行った。(北九州市) ・子どもが50円、または無料で乗車できる期間を設け、将来を見据えた新規ユーザー獲得に努めた。(西鉄バス北九州) ・長期的な路線維持を見据えた、運行規模やダイヤ改定及び検討会を実施した。(中間市・西鉄バス北九州) ・公共交通機関利用機会創出のため1日無料デーを実施し、新規ユーザーの獲得に努めた。(北九州市・中間市・西鉄バス北九州)	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 収支率35.1% 輸送人員35,829人 【実績】 収支率35.9%(+0.8%) 輸送人員39,405人 収支率については、待遇改善および軽油単価の高止まりによる費用増があったが、運賃改定の効果及び利用者の増加もあり目標を達成できた。 輸送人員についても、目標を大きく上回った。	・引き続きモビリティマネジメント(バスの乗り方講習会等)を実施し、利用促進および新規ユーザー獲得を図る。 ・引き続き香月営業所周辺での各種イベントと併せて当該路線の利便性を中間市HPでPRし、利用促進を図る。 ・長期的に運行を維持するため、事業者及び関係機関による運行規模の見直しや、沿線の学校へのヒアリングを含めたダイヤ改定の検討・協議を継続きおこなう。
西鉄バス北九州(株)	行橋営業所～九州労災病院の 運行 車両購入2台	・JR行橋駅へ直通していることやJR特急乗継および子ども50円バスに合わせたPRを、SNSで行った。(行橋市・苅田町・西鉄バス北九州) ・公共交通の維持の重要性を説明する出前講演を行った。(北九州市) ・子どもが50円、または無料で乗車できる期間を設け、そのタイミングに合わせて小学校へチラシを配布し利用のお願いをするとともにPRをSNSで行った。(苅田町・西鉄バス北九州) ・バスの日に合わせ、ゆめタウン行橋において利用促進チラシとグッズの配布を行った。また、路線沿線の主要施設一覧をHPに掲載した(行橋市) ・公共交通の利用促進実験として、市内在住の高齢者を対象に市内のバス・タクシーで利用できる交通券5,000円分を3,000円で販売した。(行橋市) ・公共交通機関利用機会創出のため1日無料デーを実施し、新規ユーザーの獲得に努めた。(北九州市・苅田町・行橋市・西鉄バス北九州)	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 収支率32.5% 80,164人 【実績】 収支率29.1%(▲3.4%) 74,320人 収支率については、運賃改定を実施し増収効果があった一方、待遇改善、燃料価格高騰等の理由により目標の32.5%を下回る結果となった。輸送人員については、運賃改定を理由とした利用減少が想定を上回り目標を達成できなかった。	・引き続きJR行橋駅や九州労災病院でのチラシ配布や、関係機関HPやSNSでPRを行い、当該路線の認知度向上を図る。 ・関係機関による長期的な路線維持を見据えたダイヤの検討、他交通網との接続の見直しを行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス二日市(株)	【星ヶ丘線】西鉄二日市駅東口 ～太宰府高校入口	・こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施し、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。 ・沿線エリアの地域住民や通勤・通学者へチラシやノベルティを配布するなど利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】 ・収支率 77.9% ・輸送人員 275,437人以上 【実績】 ・収支率 73.5%(▲4.4%) ・輸送人員 160,913人 (△114,524人) 終点を短縮したことや、運賃改定を実施したことにより、収支率(前回73.1%)は改善したが、人件費など各種費用の高騰があり、目標達成に至らなかった。	・沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。
西鉄バス二日市(株)	【宇美～太宰府線】太宰府市役所前～上宇美～宇美営業所	・こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施し、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。 ・沿線エリアの地域住民や通勤・通学者へチラシを配布するなど利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】 ・収支率 44.3% ・輸送人員 77,334人以上 【実績】 ・収支率 44.7%(+0.4%) ・輸送人員 88,958人 (+11,624人)	・更なる利用者増に向けてJR宇美駅へ乗り入れ、JR香椎線との乗り継ぎ案内を関係自治体と連携して実施する。
西鉄バス二日市(株)	【南ヶ丘線】月の浦営業所～下大利駅・天拝～西鉄二日市	・沿線エリアの小学生へのバス教室の実施、こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施するなど、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。 ・沿線エリアの地域住民や通勤・通学者へチラシやノベルティを配布するなど利用促進を図った。 ・ダイヤ改正を実施し、便数の適正化を行い、効率化を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】 ・収支率 81.7% ・輸送人員 114,375人以上 【実績】 ・収支率 105.3%(+23.6%) ・輸送人員 151,437人 (+37,062人)	・沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス二日市(株)	【南ヶ丘線】西鉄二日市～天拝坂・下大利駅～月の浦営業所	・沿線エリアの小学生へのバス教室の実施、こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施するなど、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。 ・沿線エリアの地域住民や通勤・通学者へチラシやノベルティを配布するなど利用促進を図った。 ・ダイヤ改正を実施し、便数の適正化を行い、効率化を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】 ・収支率 71.2% ・輸送人員 104,529人以上 【実績】 ・収支率 92.1%(+20.9%) ・輸送人員 131,246人(+26,717人)	・沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。
西鉄バス二日市(株)	【つつじヶ丘線】南山手団地～下大利駅～南山手団地	・沿線エリアの小学生へのバス教室の実施、こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施するなど、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。 ・沿線エリアの地域住民や通勤・通学者へチラシやノベルティを配布するなど利用促進を図った。 ・ダイヤ改正を実施し、便数の適正化を行い、効率化を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】 ・収支率 80.7% ・輸送人員 268,752人以上 【実績】 ・収支率 92.8%(+12.1%) ・輸送人員 296,511人(+27,759人)	・沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。
西鉄バス二日市(株)	【二日市線】太宰府～吉木入口～西鉄二日市	・沿線エリアの小学生へのバス教室の実施、こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施するなど、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。 ・沿線エリアの地域住民や通勤・通学者へチラシやノベルティを配布するなど利用促進を図った。 ・ダイヤ改正を実施し、便数の適正化を行い、効率化を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】 ・収支率 72.5% ・輸送人員 102,904人以上 【実績】 ・収支率 69.1%(▲3.4%) ・輸送人員 117,016人(+14,112人) 輸送人員の増に伴い収入も増加しているが、人件費など各種費用の高騰があり、収支率の改善には至らなかった。	・沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。
西鉄バス二日市(株)	【二日市線】原営業所前～吉木入口・吉木～西鉄二日市	・沿線エリアの小学生へのバス教室の実施、こども50円バスを土日や長期休暇期間に実施するなど、将来を見据えた利用促進を図った。 ・収支改善策として運賃改定を実施した。 ・沿線エリアの地域住民や通勤・通学者へチラシやノベルティを配布するなど利用促進を図った。 ・ダイヤ改正を実施し、便数の適正化を行い、効率化を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】 ・収支率 62.1% ・輸送人員 92,328人以上 【実績】 ・収支率 64.5%(+2.4%) ・輸送人員 111,329人(+19,001人)	・沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
JR九州バス(株)	山の神～久山～博多の運行 R5年R6年 車両購入1台/年	バス運賃の見直し(運賃改定)を令和6年4月1日に実施し、平均改定率14%程度引き上げ、初乗運賃も170円から210円に値上げし、収支改善に努めた。 路線沿線自治体のイベント(福岡県のりものフェス、箱フェス、ふくほくフェスタ、へいちくフェスタ)に参加し、バス展示やバスグッズの販売や、「い2DAYも(いつでも)おでかけきっぷ」のチラシ配布を実施し、バスに慣れ親しんでもらい、ご利用になる動機付けとして、利用促進を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】収支率54.7% 輸送人員76,852人 【実績】収支率50.7%(▲4.7%) 輸送人員77,943人 1,091人増加 ※経常収益は、運行継続支援金や要件緩和等の措置がほぼなくなり、経常費用は、燃料高騰等で費用は増加し、収支率が下がった。	引き続き、バスの利用促進活動に取り組む。また、ご利用状況による見直し等、効率的な運行の検討や沿線自治体と連携して持続可能な交通体系を検討していく。 具体的にはMaaSの認知度向上に向け、自治体と連携し、利用方法やメリットをわかりやすく伝えるため、実際の利用者の声を積極的に発信することで、信頼性と魅力をアピールし、利用促進に取り組む。 また、昨年度参加したイベントで来場者が多かったイベントに関しては継続して参加し、バスに慣れ親しんでもらうことはもちろんのこと、物品販売も強化し、バスの運送収入以外の収入獲得にも努める。
JR九州バス(株)	直方～鞍手高校前～博多の運行 R5年R6年 車両購入1台/年	バス運賃の見直し(運賃改定)を令和6年4月1日に実施し、平均改定率14%程度引き上げ、初乗運賃も170円から210円に値上げし、収支改善に努めた。 路線沿線自治体のイベント(福岡県のりものフェス、箱フェス、ふくほくフェスタ、へいちくフェスタ)に参加し、バス展示やバスグッズの販売や、「い2DAYも(いつでも)おでかけきっぷ」のチラシ配布を実施し、バスに慣れ親しんでもらい、ご利用になる動機付けとして、利用促進を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】収支率42.8% 輸送人員150,663人 【実績】収支率45.6%(+3.2%) 輸送人員215,822人 65,159人増加 ※経常収益は、運行継続支援金や要件緩和等の措置がほぼなくなり、経常費用は、燃料高騰等で費用は増加し、収支率が下がった。	引き続き、バスの利用促進活動に取り組む。また、ご利用状況による見直し等、効率的な運行の検討や沿線自治体と連携して持続可能な交通体系を検討していく。 具体的にはMaaSの認知度向上に向け、自治体と連携し、利用方法やメリットをわかりやすく伝えるため、実際の利用者の声を積極的に発信することで、信頼性と魅力をアピールし、利用促進に取り組む。 また、昨年度参加したイベントで来場者が多かったイベントに関しては継続して参加し、バスに慣れ親しんでもらうことはもちろんのこと、物品販売も強化し、バスの運送収入以外の収入獲得にも努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
JR九州バス(株)	直方～鞍手高校前～福丸の運行 R5年R6年 車両購入1台/年	バス運賃の見直し(運賃改定)を令和6年4月1日に実施し、平均改定率14%程度引き上げ、初乗運賃も170円から210円に値上げし、収支改善に努めた。 路線沿線自治体のイベント(福岡県のりものフェス、箱フェス、ふくほくフェスタ、へいちくフェスタ)に参加し、バス展示やバスグッズの販売や、「い2DAYも(いつでも)おでかけきっぷ」のチラシ配布を実施し、バスに慣れ親しんでもらい、ご利用になる動機付けとして、利用促進を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 【目標】収支率74.3% 輸送人員112,279人 【実績】収支率56.3%(▲18.0%) 輸送人員81,183人 31096人下回った ※経常収益は、運行継続支援金や要件緩和等の措置がほぼなくなり、経常費用は、燃料高騰等で費用は増加し、収支率が下がった。	引き続き、バスの利用促進活動に取り組む。また、ご利用状況による見直し等、効率的な運行の検討や沿線自治体と連携して持続可能な交通体系を検討していく。 具体的にはMaaSの認知度向上に向け、自治体と連携し、利用方法やメリットをわかりやすく伝えるため、実際の利用者の声を積極的に発信することで、信頼性と魅力をアピールし、利用促進に取り組む。 また、昨年度参加したイベントで来場者が多かったイベントに関しては継続して参加し、バスに慣れ親しんでもらうことはもちろんのこと、物品販売も強化し、バスの運送収入以外の収入獲得にも努める。
JR九州バス(株)	添田駅～日田駅の運行	BRT紹介パンフレットを作成し、JR九州グループの各駅、拠点等にて配布した。 また、沿線の道の駅等各施設や、沿線自治体様を通じた公共施設、住民への生活拠点等への配付を実施。 また、沿線自治体様と連携のうえ、広報誌等においてもダイヤ改正の告知を行うことで利便性向上PRに取り組んだ。 2024年9月から11月にかけて、添田町、東峰村、日田市を対象としたJR九州フリーウォーキングコースを3コース設定(各市町村1コースずつ)合計でおよそ600人の参加を頂くなど好評をいただく。 BRTの利用促進、沿線の魅力発信につながる取り組みとなった。 福岡県、添田町、東峰村、日田市の沿線各市町村と沿線飲食店さまとの官民一体型でのMaaSデジタルチケットを発売。1,400枚を超える発売実績。 2024年3月には日田市の参画などリニューアルを実施するなど磨き上げを行うなど、地域の皆様とともに、BRTの利用促進に向けた取り組みを実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】収支率17.7% 輸送人員110,000人 【実績】収支率13.4%(▲4.3%) 輸送人員55,943人 54,057人下回った ※経常収益は、運行継続支援金や要件緩和等の措置がほぼなくなり、経常費用は、燃料高騰等で費用は増加し、収支率が下がった。	引き続き、バスの利用促進活動に取り組む。また、ご利用状況による見直し等、効率的な運行の検討や沿線自治体と連携して持続可能な交通体系を検討していく。 具体的にはMaaSの認知度向上に向け、自治体と連携し、利用方法やメリットをわかりやすく伝えるため、実際の利用者の声を積極的に発信することで、信頼性と魅力をアピールし、利用促進に取り組む。 また、昨年度参加したイベントで来場者が多かったイベントに関しては継続して参加し、バスに慣れ親しんでもらうことはもちろんのこと、物品販売も強化し、バスの運送収入以外の収入獲得にも努める。

※車両については、R5年度収支率52.4%、R6年度収支率50.9%であり、燃料高騰等で費用が増加し、前年比－1.5%で目標を達成できなかった。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社 甘木観光バス	田主丸線 甘鉄甘木駅～朝倉医師会病院 /小田～田主丸中央病院 ・車両更新 1台納車(R6/8)	・自治体と連携して、広報誌やホームページ等を活用して、地域住民へ働きかけた。 ・令和5年4月から12:00～17:00の(利用客が減少する)時間帯の運行回数を2往復、減便した。又運行ダイヤも地元高等学校の要望に合うように、改定した。 ・上記より、乗降調査、定期券購入時、窓口で田主丸線運行ダイヤに対するご意見、要望を参考に今後の参考にする。	A ・計画通り事業は適切に実施された。 ・今年8月ノンステップ車両を更新した。	A 【目標】 ・収支率 23.78% ・輸送人数 61,108人以上 【実績】 ・収支率 24.12%(+0.34%) ・輸送人数 62,952人 ※収支率、輸送人数、共に目標を達成した。	・自治体と連携して、広報誌やホームページ等を活用して、地域住民へ働きかける。営業窓口での対応時、QRコード付ティッシュをくばる。 ・現在、運賃は現金、回数券、定期券が現行であり、電子化には、予算の問題が課題。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
佐賀県地域 公共交通活 性化協議会	昭和自動車(株) 佐賀市交通局 祐徳自動車(株) 西鉄バス佐賀(株) 西鉄バス佐賀(株)・西 鉄バス久留米(株) 西肥自動車(株) JR九州バス(株) (有)ジョイックス交通	44系統 ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価: 44系統 B評価: 0系統 C評価: 0系統	A評価: 23系統 B評価: 18系統 C評価: 3系統 【参考: 前年度】 A評価: 18系統 B評価: 25系統 C評価: 2系統	別添一次評価 のとお	運転者や事務員など人手不足が進む中、県下一斉バス無料デーの開催、ICカードの周知活動、ラッピングバスの運行、沿線自治体と連携した総合時刻表やチラシの配布、路線の認知向上のためデジタルサイネージ等を活用した情報発信等利用促進に取り組まれていることを評価します。 目標達成に向けた今回の取組みについては、具体的な取組みの結果やその効果に加え、工夫した内容などについても記録されると、より効果的な改善につながるものと思慮されます。 目標を達成できた系統と達成できていない系統がありますが、それぞれの要因について分析し、評価書に記録することは重要です。一部の系統において人口減少や人件費、燃料高騰の影響を受けていますが、地域の実情を考慮のうえ、その他に原因がないかどうかについても分析し、その他要因への改善点を検討いただくと、より効果的な改善につながることを期待されます。 さらに、目標を達成できた系統、要因の分析や取組みの改善が良くできている系統については、他系統においても参考・活用されることを期待します。 今後は、アフターコロナを見据えた目標設定や評価指標の見直しも検討いただきながら、県と市町村が連携を図り事業者や住民と共に地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、地域の特性・実情に最適な交通手段が確保・維持されることを期待します。	評価指標 【収支率】 【輸送人員】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
昭和自動車(株) 伊万里線	大手口～徳須恵～伊万里系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R3 車両購入2台 (伊万里、唐津・佐賀に導入) R1 車両購入1台 (伊万里・北波多に導入) H30 車両購入1台 (伊万里・北波多に導入) H25 車両購入1台	【前回の事業評価結果】 利用者増加のため、利用促進、利便性向上の取組を実施し、バス路線の再編・最適化を実施し、収支率の改善を目指す。	A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	A ■達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYの実施により輸送人員が増加した。人件費や燃料費等が増加したものの、4/1に経路変更と運行便数の適正化を実施したことで収支率も目標を達成することができた。 【収支率】 (R6)目標:35.1% 実績:35.8%(A) (R5)目標:47.1% 実績:37.4%(B) (R4)目標:40.3% 実績:34.2%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:40,673人 実績:44,431人(A) (R5)目標:42,890人 実績:44,239人(A) (R4)目標:45,753人 実績:39,681人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。
昭和自動車(株) 野元・呼子線	唐津～野元～呼子の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R3車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入) R2車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入) R1車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入)	【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)学校や老人会等でのバスの乗り方教室を実施する (2)平成29年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための講習会を開催し、周知を図る (3)各自治体と協力して、フォトコンテストを開催し、新規利用の取込みを図る (4)SAGA Mobility Laboを通して、JRと連携し、利便性を向上させ、新規利用の取込みを図る (5)時刻表へノンストップバスの表記を行い、利便性を向上させる (6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)再編計画説明や各地区長会の折に、デマンド交通や時刻表の紹介を行い、公共交通の利用を促す(★) (9)R6.1策定予定の利便増進計画にて、利用促進策を検討する(★) (10)夏休み前の中学生全学年と年度末(春)の中学3年生及び高校1・2年生を対象に定期券を周知するためのチラシを配布し、学生にバスを使った通学をPRする(★) (11)市報への公共交通利用促進についての記事掲載を行う(★) (12)沿線の飲食店等に協力を呼びかけ、乗車証明書などを用いた優待サービスを行い、新規利用の取込みを図る(★) (13)地元消費促進事業と連携した公共交通利用促進キャンペーンを実施し、新規利用の取込みを図る(★)	A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	B ■未達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYを実施したものの利用の増加にはつながらなかった。4/1に呼子～名護屋浜区間をカットし運行経費の削減を図ったものの人件費や燃料費が増大し収支率も目標を達成することができなかった。 【収支率】 (R6)目標:39.9% 実績:37.1%(B) (R5)目標:41.1% 実績:36.0%(B) (R4)目標:46.6% 実績:38.9%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:18,619人 実績:18,006人(B) (R5)目標:18,225人 実績:17,146人(C) (R4)目標:19,222人 実績:18,165人(C)	利用者数の減少においては特筆すべき要因は特になく通学や生活利用者などの定期的な利用者が減少したと考えられ、収入の減少と併せて運行経費が増大する中で4/1に再編した効果、状況を注視しつつ、唐津地域利便増進実施計画に基づき利用者増の取組を関係各所と協議していく。
昭和自動車(株) 小加倉・呼子線	唐津～小加倉～呼子の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R3車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入) R2車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入) R1車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入)	(6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)再編計画説明や各地区長会の折に、デマンド交通や時刻表の紹介を行い、公共交通の利用を促す(★) (9)R6.1策定予定の利便増進計画にて、利用促進策を検討する(★) (10)夏休み前の中学生全学年と年度末(春)の中学3年生及び高校1・2年生を対象に定期券を周知するためのチラシを配布し、学生にバスを使った通学をPRする(★) (11)市報への公共交通利用促進についての記事掲載を行う(★) (12)沿線の飲食店等に協力を呼びかけ、乗車証明書などを用いた優待サービスを行い、新規利用の取込みを図る(★) (13)地元消費促進事業と連携した公共交通利用促進キャンペーンを実施し、新規利用の取込みを図る(★)	A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	C ■未達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYを実施したものの利用の増加にはつながらなかった。4/1に呼子～名護屋浜区間をカットし運行経費の削減を図ったものの、人件費や燃料費が増大し収支率も目標を達成することができなかった。 【収支率】 (R6)目標:49.9% 実績:34.4%(C) (R5)目標:45.3% 実績:41.1%(B) (R4)目標:50.6% 実績:48.9%(B) 【輸送人員】 (R6)目標:14,524人 実績:11,818人(C) (R5)目標:13,487人 実績:12,775人(C) (R4)目標:13,677人 実績:14,170人(A)	利用者数の減少においては特筆すべき要因は特になく通学や生活利用者などの定期的な利用者が減少したと考えられ、収入の減少と併せて運行経費が増大する中で4/1に再編した効果、状況を注視しつつ、唐津地域利便増進実施計画に基づき利用者増の取組を関係各所と協議していく。
昭和自動車(株) 七山線	大手口～浜崎四つ角・ななのゆ～細川系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) H29 車両購入1台 H26 車両購入2台		A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	B ■未達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYを実施したものの利用の増加にはつながらなかった。4/1に運行本数の適正化を図ったものの、人件費や燃料費が増大し収支率も目標を達成することができなかった。 【収支率】 (R6)目標:28.4% 実績:25.7%(B) (R5)目標:38.6% 実績:33.5%(B) (R4)目標:29.1% 実績:27.5%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:27,726人 実績:22,287人(C) (R5)目標:27,050人 実績:31,576人(A) (R4)目標:30,137人 実績:27,050人(C)	利用者数の減少においては当該地区にてオンデマンドタクシーを運行しており、利用者が移行していることと人口減少によるものと考えられる。利用者が減り収入が減少していることと併せて運行経費が増大する中で4/1に再編した効果、状況を注視しつつ、唐津地域利便増進実施計画に基づき利用者増の取組を関係各所と協議していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
昭和自動車(株) 多久線	佐賀駅BC～徳万・小城～多久駅前系統の運行。 R6 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R5 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R4 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R3 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀・中極に導入) R2 車両購入2台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) R1 車両購入1台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) H29 車両購入1台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) H27 車両購入1台	【前回の事業評価結果】 利用者増加のため、利用促進、利便性向上の取組を実施し、バス路線の再編・最適化を実施し、収支率の改善を目指す。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)学校や老人会等でのバスの乗り方教室を実施する (2)平成29年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための講習会を開催し、周知を図る (3)各自治体と協力して、フォトコンテストを開催し、新規利用の取込みを図る (4)SAGA Mobility Laboを通して、JRと連携し、利便性を向上させ、新規利用の取込みを図る (5)時刻表ヘノンステップバスの表記を行い、利便性を向上させる (6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)佐賀駅BCでの乗継割引を実施し、利便性向上及び新規利用の取込みを図る(★) (9)佐賀市バス路線マップ(英・中・韓対応)の配布を行い、住民への周知を行う(★) (10)バスの時刻、運賃についてホームページ等での周知を図る(★)	A	各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	A ■達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYの実施やSAGAサンライズパークのイベント参加者の利用増により輸送人員の目標を達成することができた。収支率においても人件費や燃料費の増加により経費は増えたが、収入が回復したことで目標を達成することができた。 【収支率】 (R6)目標:40.4% 実績:42.2%(A) (R5)目標:48.1% 実績:46.9%(B) (R4)目標:46.2% 実績:39.4%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:30,899人 実績:35,612人(A) (R5)目標:31,079人 実績:36,243人(A) (R4)目標:33,068人 実績:30,145人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。
昭和自動車(株) 古湯線	フォレストふじ～尼寺・川上橋～辻の堂系統の運行。 R6 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R5 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R4 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R3 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀・中極に導入) H30 車両購入1台 H29 車両購入1台 (2台とも北山、古湯、中極に導入)	(11)市報への公共交通利用促進についての記事掲載を行う(★) (12)交通系ICカード「nimoca」の広報を行い、周知を図る (13)県で計画されている1月路線バス無料DAYについて市のホームページで周知しバスを知ってもらう取組を行う(★) (14)支線のパンフレットへ当該路線の間合せ先を掲載し、利便性向上を図る(★) (15)中学3年生を対象に、進路検討時期(秋頃)に当該路線の時刻表を配布し、新規利用の取込みを図る (16)再編計画説明や各地区長会の折に、公共交通の利用を促す(★)	A	各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	A ■達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYの実施やSAGAサンライズパークのイベント参加者の利用増により輸送人員の目標を達成することができた。収支率においても人件費や燃料費の増加により経費は増えたが、収入が回復したことで目標を達成することができた。 【収支率】 (R6)目標:47.1% 実績:59.1%(A) (R5)目標:50.6% 実績:50.1%(B) (R4)目標:49.7% 実績:46.1%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:98,962人 実績:131,799人(A) (R5)目標:87,634人 実績:108,756人(A) (R4)目標:60,292人 実績:96,548人(A)	引き続き利便性向上等に取り組む。
昭和自動車(株) 唐津・佐賀線	大手口～多久駅前・片田江～佐賀駅BC系統の運行。 R6 車両購入7台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R3 車両購入4台 (伊万里、多久、古湯、唐津・佐賀・中極に導入) R2 車両購入2台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) R1 車両購入1台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) H26 車両購入2台 H25 車両購入1台		A	各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	B ■未達成理由(収支率) 長大路線であるため、人件費や燃料費の増加が重くのしかかり収支率の目標を達成することができなかった。 ■達成理由(輸送人員) 新型コロナウイルスの影響からの戻りや、さがバスまるっとフリーDAY等による増加。 【収支率】 (R6)目標:33.8% 実績:33.4%(B) (R5)目標:39.9% 実績:37.7%(B) (R4)目標:38.4% 実績:32.9%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:108,503人 実績:117,275人(A) (R5)目標:106,677人 実績:124,642人(A) (R4)目標:110,417人 実績:105,857人(C)	利用者については増加しているが、長大路線であるため運行経費の増大が大きく影響し収支率が下がっている。運転士不足や運行経費が増大する中で、本路線の在り方を含めて協議を続けていく必要がある。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象 事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車 株 中極線	小城～中極・尼寺～辻の堂系統の運行。 R6 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R5 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R4 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀、中極に導入) R3 車両購入2台 (多久、古湯、唐津・佐賀・中極に導入) R2 車両購入2台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) R1 車両購入1台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) H30 車両購入1台 H29 車両購入1台 (2台とも北山、古湯、中極に導入)	【前回の事業評価結果】 利用者増加のため、利用促進、利便性向上の取組を実施し、バス路線の再編・最適化を実施し、収支率の改善を目指す。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)学校や老人会等でのバスの乗り方教室を実施する (2)平成29年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための講習会を開催し、周知を図る (3)各自治体と協力して、フォトコンテストを開催し、新規利用の取込みを図る (4)SAGA Mobility Laboを通して、JRと連携し、利便性を向上させ、新規利用の取込みを図る (5)時刻表ヘノンステップバスの表記を行い、利便性を向上させる (6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)バスの時刻、運賃についてホームページ等での周知を図る(★) (9)支線のパンフレットへ当該路線の間合せ先を掲載し、利便性向上を図る(★) (10)中学3年生を対象に、進路検討時期(秋頃)に当該路線の時刻表を配布し、新規利用の取込みを図る (11)公共交通利用促進事業バス・タクシー回数券の発行を行い、新規利用の取込みを図る(★)	A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	A ■達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYの実施やSAGAサンライズパークのイベント参加者の利用増により輸送人員の目標を達成することができた。収支率においても人件費や燃料費の増加により経費は増えたが、収入が回復したことで目標を達成することができた。 【収支率】 (R6)目標:33.0% 実績:53.1%(A) (R5)目標:44.7% 実績:47.6%(A) (R4)目標:36.3% 実績:32.0%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:78,147人 実績:109,130人(A) (R5)目標:61,728人 実績:88,374人(A) (R4)目標:81,857人 実績:76,241人(B)	引き続き利便性向上等に取り組む。
昭和自動車 株 多久・武雄線	多久市役所前～北部小前・本多久～竹下町系統の運行。 H27 車両購入1台		A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	C ■未達成理由(収支率、輸送人員) 車両の小型化等を行っているが、学生の通学需要や高齢者の外出利用が減少し続けているため、生産性向上の取組を実施したものの利用者が回復していない。また、収支率においても人件費や燃料費の増加により経費が増え目標を達成することはできなかった。 【収支率】 (R6)目標:28.9% 実績:19.8%(C) (R5)目標:42.0% 実績:24.1%(C) (R4)目標:33.3% 実績:27.9%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:13,567人 実績:11,487人(C) (R5)目標:13,236人 実績:11,640人(C) (R4)目標:14,330人 実績:13,236人(C)	利用者減による収入の減少と運行経費の増大により収支率が悪化しており、バス路線の再編・最適化を検討し、収支率等の改善を目指す。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象 事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車 (株) 湊線	大手口～みなと園～呼子系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子他10系統に導入) H30 車両購入2台 (湊、呼子に導入) H29 車両購入1台 (湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入)	【前回の事業評価結果】 利用者増加のため、利用促進、利便性向上の取組を実施し、バス路線の再編・最適化を実施し、収支率の改善を目指す。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)学校や老人会等でのバスの乗り方教室を実施する (2)平成29年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための講習会を開催し、周知を図る (3)各自治体と協力して、フォトコンテストを開催し、新規利用の取込みを図る (4)SAGA Mobility Laboを通して、JRと連携し、利便性を向上させ、新規利用の取込みを図る (5)時刻表ヘノンステップバスの表記を行い、利便性を向上させる (6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)再編計画説明や各地区長会の折に、デマンド交通や時刻表の紹介を行い、公共交通の利用を促す(★) (9)R6.1策定予定の利便増進計画にて、利用促進策を検討する(★) (10)夏休み前の中学生全学年と年度末(春)の中学3年生及び高校1・2年生を対象に定期券を周知するためのチラシを配布し、学生にバスを使った通学をPRする(★)	A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	B ■未達成理由(収支率) 人件費や燃料費の増加により経費が増え目標を達成することができなかった。また、本路線は4/1から新設の湊・波戸岬線に統合となった。 ■達成理由(輸送人員) さがバスまるとフリーDAYの実施や観光客の増加により目標を達成することができた。 【収支率】 (R6)目標:41.1% 実績:38.6%(B) (R5)目標:43.3% 実績:40.3%(B) (R4)目標:43.6% 実績:40.1%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:33,364人 実績:35,207人(A) (R5)目標:30,898人 実績:39,671人(A) (R4)目標:34,369人 実績:32,550人(B)	4/1に再編した効果、状況を注視しつつ、唐津地域利便増進実施計画に基づき利用者増の取組を関係各所と協議していく。
昭和自動車 (株) 呼子線	宝当桟橋～岩野・打上～呼子系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R2 車両購入2台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) R1 車両購入1台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) H30 車両購入2台(湊、呼子に導入) H29 車両購入2台 (1台は湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入 1台は呼子、有浦、切木に導入) H27 車両購入2台	(11)市報への公共交通利用促進についての記事掲載を行う(★) (12)沿線の飲食店等に協力を呼びかけ、乗車証明書などを用いた優待サービスを行い、新規利用の取込みを図る(★) (13)地元消費促進事業と連携した公共交通利用促進キャンペーンを実施し、新規利用の取込みを図る(★)	A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	A ■達成理由(収支率) 4/1から運行本数の適正化を図ったことにより収支率が改善し目標を達成することができた。 ■未達成理由(輸送人員) さがバスまるとフリーDAYの実施や観光客の増加により輸送人員は回復傾向にあるが、4/1から唐津駅の乗入と運行本数の適正化を図り利用者が微減し目標を達成することができなかった。 【収支率】 (R6)目標:33.2% 実績:36.8%(A) (R5)目標:44.0% 実績:34.9%(B) (R4)目標:37.3% 実績:32.3%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:85,964人 実績:85,730人(B) (R5)目標:81,439人 実績:94,606人(A) (R4)目標:92,027人 実績:83,867人(B)	引き続き利便性向上等に取り組む。
昭和自動車 (株) 有浦・入野線	金の手～入野系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R2 車両購入2台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) R1 車両購入1台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入)		A 各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。	B ■未達成理由(収支率、輸送人員) さがまるとフリーDAYを実施したものの利用の増加にはつながらなかった。人件費や燃料費の増加により経費が増え収支率においても目標を達成することができなかった。なお、本路線は4/1に唐津・入野線に統合となった。 【収支率】 (R6)目標:29.5% 実績:24.8%(B) (R5)目標:32.2% 実績:28.9%(B) (R4)目標:34.3% 実績:28.6%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:11,397人 実績:5,528人(C) (R5)目標:11,119人 実績:11,478人(A) (R4)目標:11,973人 実績:11,119人(C)	利用者数の減少においては特筆すべき要因は特になく通学や生活利用者などの定期的な利用者が減少したと考えられ、収入の減少と併せて運行経費が増大する中で4/1に再編した効果、状況を注視しつつ、唐津地域利便増進実施計画に基づき利用者増の取組を関係各所と協議していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
昭和自動車(株) 切木線	大手口～切子・古保志気～入野系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R2 車両購入2台 (有浦・飯屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) R1 車両購入1台 (有浦・飯屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) H29 車両購入2台 (1台は湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入 1台は呼子、有浦、切木に導入)	【前回の事業評価結果】 利用者増加のため、利用促進、利便性向上の取組を実施し、バス路線の再編・最適化を実施し、収支率の改善を目指す。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)学校や老人会等でのバスの乗り方教室を実施する (2)平成29年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための講習会を開催し、周知を図る (3)各自治体と協力して、フォトコンテストを開催し、新規利用の取込みを図る (4)SAGA Mobility Laboを通して、JRと連携し、利便性を向上させ、新規利用の取込みを図る (5)時刻表へノンステップバスの表記を行い、利便性を向上させる (6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)再編計画説明や各地区長会の折に、デマンド交通や時刻表の紹介を行い、公共交通の利用を促す(★) (9)R6.1策定予定の利便増進計画にて、利用促進策を検討する(★) (10)夏休み前の中学生全学年と年度末(春)の中学3年生及び高校1・2年生を対象に定期券を周知するためのチラシを配布し、学生にバスを使った通学をPRする(★) (11)市報への公共交通利用促進についての記事掲載を行う(★) (12)沿線の飲食店等に協力を呼びかけ、乗車証明書などを用いた優待サービスを行い、新規利用の取込みを図る(★) (13)地元消費促進事業と連携した公共交通利用促進キャンペーンを実施し、新規利用の取込みを図る(★)	A	各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。 C	■未達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYを実施したものの利用の増加にはつながらなかった。4/1に運行本数の適正化を図ったものの、人件費や燃料費が増大し収支率も目標を達成することができなかった。 【収支率】 (R6)目標:45.5% 実績:36.9%(C) (R5)目標:54.7% 実績:47.1%(B) (R4)目標:51.1% 実績:44.6%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:37,380人 実績:30,690人(C) (R5)目標:37,941人 実績:38,334人(A) (R4)目標:40,198人 実績:36,468人(C)	利用者数の減少においては特筆すべき要因は特になく通学や生活利用者などの定期的な利用者が減少したと考えられる。また、4/1より当該地区にてオンデマンドタクシーを運行開始したため一部利用者がそちらに移行している。収入の減少と併せて運行経費が増大する中で4/1に再編した効果、状況を注視しつつ、唐津地域利便増進実施計画に基づき利用者増の取組を関係各所と協議していく。
昭和自動車(株) 北波多線	大手口～今組・山本～市民病院きたはた系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R1 車両購入1台 (伊万里・北波多に導入) H29 車両購入1台 (湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入)	【前回の事業評価結果】 利用者増加のため、利用促進、利便性向上の取組を実施し、バス路線の再編・最適化を実施し、収支率の改善を目指す。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)学校や老人会等でのバスの乗り方教室を実施する (2)平成29年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための講習会を開催し、周知を図る (3)各自治体と協力して、フォトコンテストを開催し、新規利用の取込みを図る (4)SAGA Mobility Laboを通して、JRと連携し、利便性を向上させ、新規利用の取込みを図る (5)時刻表へノンステップバスの表記を行い、利便性を向上させる (6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)再編計画説明や各地区長会の折に、デマンド交通や時刻表の紹介を行い、公共交通の利用を促す(★) (9)R6.1策定予定の利便増進計画にて、利用促進策を検討する(★) (10)夏休み前の中学生全学年と年度末(春)の中学3年生及び高校1・2年生を対象に定期券を周知するためのチラシを配布し、学生にバスを使った通学をPRする(★) (11)市報への公共交通利用促進についての記事掲載を行う(★) (12)沿線の飲食店等に協力を呼びかけ、乗車証明書などを用いた優待サービスを行い、新規利用の取込みを図る(★) (13)地元消費促進事業と連携した公共交通利用促進キャンペーンを実施し、新規利用の取込みを図る(★)	A	各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。 A	■未達成理由(収支率、輸送人員) さがバスまるっとフリーDAYの実施や沿線の通学利用が増加した収支率においても人件費や燃料費の増加により経費が増えたものの、収入の増加により目標を達成することができた。 【収支率】 (R6)目標:41.3% 実績:43.1%(A) (R5)目標:48.0% 実績:44.8%(B) (R4)目標:50.3% 実績:40.4%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:53,383人 実績:54,682人(A) (R5)目標:52,081人 実績:51,361人(C) (R4)目標:52,878人 実績:52,081人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。
昭和自動車(株) 唐津・有浦線	大手口～有浦上～金の手系統の運行。 R6 車両購入5台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R5 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R4 車両購入3台 (伊万里、野元・呼子、他10系統に導入) R2 車両購入2台 (有浦・飯屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) R1 車両購入1台 (有浦・飯屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入)	【前回の事業評価結果】 利用者増加のため、利用促進、利便性向上の取組を実施し、バス路線の再編・最適化を実施し、収支率の改善を目指す。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)学校や老人会等でのバスの乗り方教室を実施する (2)平成29年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための講習会を開催し、周知を図る (3)各自治体と協力して、フォトコンテストを開催し、新規利用の取込みを図る (4)SAGA Mobility Laboを通して、JRと連携し、利便性を向上させ、新規利用の取込みを図る (5)時刻表へノンステップバスの表記を行い、利便性を向上させる (6)昭和バス公式LINE(運行情報・時刻検索・接近情報)の普及を行い、利便性を向上させる(★) (7)通学フリー定期券(紙)をWEB定期券化し、利便性を向上させる(★) (8)再編計画説明や各地区長会の折に、デマンド交通や時刻表の紹介を行い、公共交通の利用を促す(★) (9)R6.1策定予定の利便増進計画にて、利用促進策を検討する(★) (10)夏休み前の中学生全学年と年度末(春)の中学3年生及び高校1・2年生を対象に定期券を周知するためのチラシを配布し、学生にバスを使った通学をPRする(★) (11)市報への公共交通利用促進についての記事掲載を行う(★) (12)沿線の飲食店等に協力を呼びかけ、乗車証明書などを用いた優待サービスを行い、新規利用の取込みを図る(★) (13)地元消費促進事業と連携した公共交通利用促進キャンペーンを実施し、新規利用の取込みを図る(★)	A	各沿線自治体との協議が調わず実施できていない取組もあるが、利用促進や利便性向上の取組、収支率改善の取組を積極的に実施することができた。 B	■未達成理由(収支率、輸送人員) さがまるっとフリーDAYを実施したものの利用の増加にはつながらなかった。人件費や燃料費が増大し収支率も目標を達成することができなかった。 本路線は4/1より唐津・入野線に統合となった。 【収支率】 (R6)目標:32.7% 実績:29.0%(B) (R5)目標:34.2% 実績:33.7%(B) (R4)目標:50.3% 実績:31.8%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:43,197人 実績:20756人(C) (R5)目標:44,796人 実績:44,079人(B) (R4)目標:48,787人 実績:42,143人(C)	利用者数の減少においては特筆すべき要因は特になく通学や生活利用者などの定期的な利用者が減少したと考えられ、収入の減少と併せて運行経費が増大する中で4/1に再編した効果、状況を注視しつつ、唐津地域利便増進実施計画に基づき利用者増の取組を関係各所と協議していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐賀市交通局 犬井道線	佐賀駅BC～唐人町・大崎～大説間系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	【前回の事業評価結果】 路線バス全体の輸送人員と運送収入は増加しているが、物価高騰や人件費の上昇で収支率は悪化している。 今後ICカード普及活動やバスロケーションシステムの広報を継続して実施し、更なる利用者の増加に努める必要がある。 また、収支率を改善するためには、利用状況に合わせた効率的な運行も必要であり、運行本数の最適化などを検討していく。そして、実質平成9年12月以降据え置いている運賃の改定も検討する必要がある。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 利用促進事業や収支率改善を図る事業に取り組んだ結果、輸送人員は目標を達成したものの、収支率は目標を達成できなかった。 【収支率】 (R6)目標:57.1% 実績:51.9%(B) (R5)目標:53.4% 実績:56.3%(A) (R4)目標:58.0% 実績:53.4%(B) 【輸送人員】 (R6)目標:144,516人 実績:167,438人(A) (R5)目標:127,679人 実績:155,635人(A) (R4)目標:140,741人 実績:144,516人(B)	輸送人員は、各種利用促進事業やSAGAアリーナの開業に伴う各種イベントの開催により大幅に増加しているため、次年度も引き続き利用促進事業を実施し、収支改善のため、バス路線の最適化が必要となる。
佐賀市交通局 早津江線	佐賀駅BC～唐人町・諸富橋～早津江系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 ①中学生・高校生を対象とした全路線乗り放題定期券の「ノリのリワイド」及び、指定時間帯において全路線乗り放題定期券の「昼のリワイド」について広報を行い、新規利用者の獲得を図る(★) ②平成29年度に導入したバスロケーションシステム(オープンデータ化によりGooglemapに対応済)を普及させ、バスの接近情報を提供することで当該系統の利便性を高め、利用者の増加を図る。また、オープンデータ化(★) ③佐賀市内の大学・高校・中学生の新入生を対象に案内チラシを配布する(★) ④70歳以上の佐賀市民に対し、「ワンコイン・シルバーパス(佐賀市交通局のバス路線が1乗車100円となるバス)」の周知を徹底し、高齢者の新規利用の取り込みを図る(★) ⑤「ワンコインシルバーパス」を交通系ICカードnimocaに搭載した旨のPRを行い、ICカードの普及を図る(★) ⑥佐賀駅バスセンターの再編時にサイネージを設置し、路線の認知向上を図る(★) ⑦佐賀市バス路線マップの配布を行い、住民への周知を行う ⑧複数事業者間で乗り継げるデジタルチケットを企画販売する(★) ⑨佐賀市内バス運賃無料DAYを実施する(★) ⑩令和6年1月に佐賀県内で降車するとバス運賃が無料となる「さがバスまるとっフリーDAY」を実施する(★) ⑪ラッピングバスや積極的なバス車体への広告掲載により、利用促進や収支率改善を図る(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:64.7% 実績:75.5%(A) (R5)目標:74.6% 実績:67.3%(B) (R4)目標:63.9% 実績:62.2%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:190,710人 実績:246,303人(A) (R5)目標:177,388人 実績:205,938人(A) (R4)目標:169,004人 実績:190,710人(B)	引き続き利便性向上等に取り組む。
佐賀市交通局 橋津線	佐賀駅BC～朝日町・諸富橋～橋津系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:48.4% 実績:57.3%(A) (R5)目標:59.5% 実績:54.9%(B) (R4)目標:55.5% 実績:43.0%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:56,687人 実績:78,834人(A) (R5)目標:58,740人 実績:69,785人(A) (R4)目標:59,620人 実績:56,687人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐賀市交通局 金立(来迎寺)線	県庁前・佐嘉神社前～尼寺・来迎寺～運転免許センター系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	【前回の事業評価結果】 路線バス全体の輸送人員と運送収入は増加しているが、物価高騰や人件費の上昇で収支率は悪化している。 今後もICカード普及活動やバスロケーションシステムの広報を継続して実施し、更なる利用者の増加に努める必要がある。 また、収支率を改善するためには、利用状況に合わせた効率的な運行も必要であり、運行本数の最適化などを検討していく。そして、実質平成9年12月以降据え置いている運賃の改定も検討する必要がある。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:59.5% 実績:63.6%(A) (R5)目標:55.8% 実績:65.7%(A) (R4)目標:64.1% 実績:55.1%(B) 【輸送人員】 (R6)目標:81,609人 実績:123,462人(A) (R5)目標:75,619人 実績:113,140人(A) (R4)目標:80,914人 実績:81,609人(A)	引き続き利便性向上等に取り組む。
佐賀市交通局 金立(いこい)線	県庁前・佐嘉神社前～尼寺・金立憩い～運転免許センター系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 ①中学生・高校生を対象とした全路線乗り放題定期券の「ノリのリワイド」及び、指定時間帯において全路線乗り放題定期券の「昼のリワイド」について広報を行い、新規利用者の獲得を図る(★) ②平成29年度に導入したバスロケーションシステム(オープンデータ化によりGooglemapに対応済)を普及させ、バスの接近情報を提供することで当該系統の利便性を高め、利用者の増加を図る。また、オープンデータ化(★) ③佐賀市内の大学・高校・中学生の新入生を対象に案内チラシを配布する(★) ④70歳以上の佐賀市民に対し、「ワンコイン・シルバーパス(佐賀市交通局のバス路線が1乗車100円となるバス)」の周知を徹底し、高齢者の新規利用の取り込みを図る(★) ⑤「ワンコインシルバーパス」を交通系ICカードnimocaに搭載した旨のPRを行い、ICカードの普及を図る(★) ⑥佐賀駅バスセンターの再編時にサイネージを設置し、路線の認知向上を図る(★) ⑦佐賀市バス路線マップの配布を行い、住民への周知を行う ⑧複数事業者間で乗り継げるデジタルチケットを企画販売する(★) ⑨佐賀市内バス運賃無料DAYを実施する(★) ⑩令和6年1月に佐賀県内で降車するとバス運賃が無料となる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施する(★) ⑪ラッピングバスや積極的なバス車体への広告掲載により、利用促進や収支率改善を図る(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:69.8% 実績:77.2%(A) (R5)目標:59.5% 実績:80.5%(A) (R4)目標:58.1% 実績:65.9%(A) 【輸送人員】 (R6)目標:147,841人 実績:228,061人(A) (R5)目標:122,453人 実績:198,372人(A) (R4)目標:121,939人 実績:147,841人(A)	引き続き利便性向上等に取り組む。
佐賀市交通局 広江線	佐賀駅BC～中島・広江～和崎系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した利用促進事業や収支率改善を図る事業に取り組んだ結果、輸送人員は目標を達成したものの、収支率は目標を達成できなかった。 【収支率】 (R6)目標:58.2% 実績:54.8%(B) (R5)目標:51.8% 実績:63.5%(A) (R4)目標:52.8% 実績:53.1%(A) 【輸送人員】 (R6)目標:133,094人 実績:173,536人(A) (R5)目標:117,445人 実績:161,419人(A) (R4)目標:127,621人 実績:133,094人(A)	輸送人員は、各種利用促進事業やSAGAアリーナの開業に伴う各種イベントの開催により大幅に増加しているため、次年度も引き続き利用促進事業を実施し、収支改善のため、バス路線の最適化が必要となる。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐賀市交通局 東与賀線	佐賀駅BC～大財町・佐賀大学前～大野系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	【前回の事業評価結果】 路線バス全体の輸送人員と運送収入は増加しているが、物価高騰や人件費の上昇で収支率は悪化している。 今後もICカード普及活動やバスロケーションシステムの広報を継続して実施し、更なる利用者の増加に努める必要がある。 また、収支率を改善するためには、利用状況に合わせた効率的な運行も必要であり、運行本数の最適化などを検討していく。そして、実質平成9年12月以降据え置いている運賃の改定も検討する必要がある。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 ①中学生・高校生を対象とした全路線乗り放題定期券の「ノリのりワイド」及び、指定時間帯において全路線乗り放題定期券の「屋のりワイド」について広報を行い、新規利用者の獲得を図る(★) ②平成29年度に導入したバスロケーションシステム(オープンデータ化によりGooglemapに対応済)を普及させ、バスの接近情報を提供することで当該系統の利便性を高め、利用者の増加を図る。また、オープンデータ化(★) ③佐賀市内の大学・高校・中学生の新入生を対象に案内チラシを配布する(★) ④70歳以上の佐賀市民に対し、「ワンコイン・シルバーパス(佐賀市交通局のバス路線が1乗車100円となるバス)」の周知を徹底し、高齢者の新規利用の取り込みを図る(★) ⑤「ワンコインシルバーパス」を交通系ICカードnimocaに搭載した旨のPRを行い、ICカードの普及を図る(★) ⑥佐賀駅バスセンターの再編時にサイネージを設置し、路線の認知向上を図る(★) ⑦佐賀市バス路線マップの配布を行い、住民への周知を行う ⑧複数事業者間で乗り継げるデジタルチケットを企画販売する(★) ⑨佐賀市内バス運賃無料DAYを実施する(★) ⑩令和6年1月に佐賀県内で降車するとバス運賃が無料となる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施する(★) ⑪ラッピングバスや積極的なバス車体への広告掲載により、利用促進や収支率改善を図る(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:74.7% 実績:86.8%(A) (R5)目標:76.5% 実績:83.9%(A) (R4)目標:69.5% 実績:71.6%(A) 【輸送人員】 (R6)目標:138,196人 実績:185,633人(A) (R5)目標:134,692人 実績:163,934人(A) (R4)目標:117,815人 実績:138,196人(A)	引き続き利便性向上等に取り組む。
佐賀市交通局 蓮池線	佐賀駅BC～唐人町・東田代～橋津系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	①中学生・高校生を対象とした全路線乗り放題定期券の「ノリのりワイド」及び、指定時間帯において全路線乗り放題定期券の「屋のりワイド」について広報を行い、新規利用者の獲得を図る(★) ②平成29年度に導入したバスロケーションシステム(オープンデータ化によりGooglemapに対応済)を普及させ、バスの接近情報を提供することで当該系統の利便性を高め、利用者の増加を図る。また、オープンデータ化(★) ③佐賀市内の大学・高校・中学生の新入生を対象に案内チラシを配布する(★) ④70歳以上の佐賀市民に対し、「ワンコイン・シルバーパス(佐賀市交通局のバス路線が1乗車100円となるバス)」の周知を徹底し、高齢者の新規利用の取り込みを図る(★) ⑤「ワンコインシルバーパス」を交通系ICカードnimocaに搭載した旨のPRを行い、ICカードの普及を図る(★) ⑥佐賀駅バスセンターの再編時にサイネージを設置し、路線の認知向上を図る(★) ⑦佐賀市バス路線マップの配布を行い、住民への周知を行う ⑧複数事業者間で乗り継げるデジタルチケットを企画販売する(★) ⑨佐賀市内バス運賃無料DAYを実施する(★) ⑩令和6年1月に佐賀県内で降車するとバス運賃が無料となる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施する(★) ⑪ラッピングバスや積極的なバス車体への広告掲載により、利用促進や収支率改善を図る(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:45.5% 実績:52.8%(A) (R5)目標:52.0% 実績:47.7%(B) (R4)目標:48.0% 実績:38.9%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:72,732人 実績:103,588人(A) (R5)目標:72,362人 実績:93,382人(A) (R4)目標:72,031人 実績:72,732人(A)	引き続き利便性向上等に取り組む。
佐賀市交通局 嘉瀬新町線	佐賀駅BC～医療センター・嘉瀬新町～くぼた特産物直売所系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	①中学生・高校生を対象とした全路線乗り放題定期券の「ノリのりワイド」及び、指定時間帯において全路線乗り放題定期券の「屋のりワイド」について広報を行い、新規利用者の獲得を図る(★) ②平成29年度に導入したバスロケーションシステム(オープンデータ化によりGooglemapに対応済)を普及させ、バスの接近情報を提供することで当該系統の利便性を高め、利用者の増加を図る。また、オープンデータ化(★) ③佐賀市内の大学・高校・中学生の新入生を対象に案内チラシを配布する(★) ④70歳以上の佐賀市民に対し、「ワンコイン・シルバーパス(佐賀市交通局のバス路線が1乗車100円となるバス)」の周知を徹底し、高齢者の新規利用の取り込みを図る(★) ⑤「ワンコインシルバーパス」を交通系ICカードnimocaに搭載した旨のPRを行い、ICカードの普及を図る(★) ⑥佐賀駅バスセンターの再編時にサイネージを設置し、路線の認知向上を図る(★) ⑦佐賀市バス路線マップの配布を行い、住民への周知を行う ⑧複数事業者間で乗り継げるデジタルチケットを企画販売する(★) ⑨佐賀市内バス運賃無料DAYを実施する(★) ⑩令和6年1月に佐賀県内で降車するとバス運賃が無料となる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施する(★) ⑪ラッピングバスや積極的なバス車体への広告掲載により、利用促進や収支率改善を図る(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:42.7% 実績:54.5%(A) (R5)目標:51.6% 実績:49.9%(B) (R4)目標:52.6% 実績:36.0%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:41,244人 実績:66,001人(A) (R5)目標:44,022人 実績:57,954人(A) (R4)目標:50,407人 実績:41,244人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐賀市交通局 徳万線	佐賀駅BC～医療センター・徳万～くぼた特産物直売所系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万に1台導入】 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台 【犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万に1台導入】	【前回の事業評価結果】 路線バス全体の輸送人員と運送収入は増加しているが、物価高騰や人件費の上昇で収支率は悪化している。 今後もICカード普及活動やバスロケーションシステムの広報を継続して実施し、更なる利用者の増加に努める必要がある。 また、収支率を改善するためには、利用状況に合わせた効率的な運行も必要であり、運行本数の最適化などを検討していく。そして、実質平成9年12月以降据え置いている運賃の改定も検討する必要がある。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 ①中学生・高校生を対象とした全路線乗り放題定期券の「ノリのりワイド」及び、指定時間帯において全路線乗り放題定期券の「屋のりワイド」について広報を行い、新規利用者の獲得を図る(★) ②平成29年度に導入したバスロケーションシステム(オープンデータ化によりGooglemapに対応済)を普及させ、バスの接近情報を提供することで当該系統の利便性を高め、利用者の増加を図る。また、オープンデータ化(★) ③佐賀市内の大学・高校・中学生の新入生を対象に案内チラシを配布する(★) ④70歳以上の佐賀市民に対し、「ワンコイン・シルバーバス(佐賀市交通局のバス路線が1乗車100円となるバス)」の周知を徹底し、高齢者の新規利用の取り込みを図る(★) ⑤「ワンコインシルバーバス」を交通系ICカードnimocaに搭載した旨のPRを行い、ICカードの普及を図る(★) ⑥佐賀駅バスセンターの再編時にサイネージを設置し、路線の認知向上を図る(★) ⑦佐賀市バス路線マップの配布を行い、住民への周知を行う ⑧複数事業者間で乗り継げるデジタルチケットを企画販売する(★) ⑨佐賀市内バス運賃無料DAYを実施する(★) ⑩令和6年1月に佐賀県内で降車するとバス運賃が無料となる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施する(★) ⑪ラッピングバスや積極的なバス車体への広告掲載により、利用促進や収支率改善を図る(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【収支率】 (R6)目標:42.4% 実績:44.7%(A) (R5)目標:53.3% 実績:44.7%(B) (R4)目標:45.0% 実績:36.3%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:39,493人 実績:60,053人(A) (R5)目標:40,478人 実績:56,055人(A) (R4)目標:42,255人 実績:39,493人(C)	今後も生産性向上の取組を継続し、収支率改善に努める
佐賀市交通局 西与賀線	佐賀駅BC～大財町・佐賀大学前～大野系統の運行 H26年度～R2年度 車両購入3台/年 R3年度 車両購入2台 R4年度 車両購入3台 R5年度 車両購入3台 【犬井道、早津江、広江、東与賀、蓮池、嘉瀬新町、徳万、西与賀に1台導入】 【犬井道、早津江、橋津、金立(憩い)、広江、東与賀、蓮池、徳万、西与賀に1台導入】 R6年度 車両購入1台	⑥佐賀駅バスセンターの再編時にサイネージを設置し、路線の認知向上を図る(★) ⑦佐賀市バス路線マップの配布を行い、住民への周知を行う ⑧複数事業者間で乗り継げるデジタルチケットを企画販売する(★) ⑨佐賀市内バス運賃無料DAYを実施する(★) ⑩令和6年1月に佐賀県内で降車するとバス運賃が無料となる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施する(★) ⑪ラッピングバスや積極的なバス車体への広告掲載により、利用促進や収支率改善を図る(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 利用促進事業や収支率改善を図る事業に取り組んだ結果、輸送人員は目標を達成したもの、収支率は目標を達成できなかった。 【収支率】 (R6)目標:85.3% 実績:83.0%(B) (R5)目標:70.0% 実績:85.4%(A) (R4)目標:70.0% 実績:83.3%(A) 【輸送人員】 (R6)目標:173,078人 実績:204,650人(A) (R5)目標:140,651人 実績:184,693人(A) (R4)目標:140,651人 実績:173,078人(A)	今後も生産性向上の取組を継続し、収支率改善に努める

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
祐徳自動車 (株) 佐賀線	祐徳神社前～江北駅前・好生館～佐賀駅バスセンター系統の運行 R1年度 車両購入1台 R3年度 車両購入1台 R4年度 車両購入1台 R5年度 車両購入1台	【前回の事業評価結果】 沿線市町の人口減少やモータリゼーションの進行により輸送人員の減少及び収支率の悪化を引き起こしていることが明らかとなったため、ICカード普及活動やバス運行情報のオープンデータ化及びバスロケーションシステムの広報を行い、利用促進事業や利便性向上による輸送人員の増加を図る必要がある。 また、収支率の改善のためには、輸送人員の減少が見込まれるとしても、バス路線の再編・最適化が必要となる。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A ■目標達成の要因 新型コロナウイルスの影響からの戻りやすさがバスまるとフリーDAY等 のよる増加 【収支率】 (R6)目標:22.3% 実績:24.1%(A) (R5)目標:27.6% 実績:24.7%(C) (R4)目標:22.2% 実績:21.4%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:71,330人 実績:71,903人(A) (R5)目標:69,590人 実績:87,316人(B) (R4)目標:74,902人 実績:67,149人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。
祐徳自動車 (株) 武雄線	下西山車庫～江北駅前・好生館～佐賀駅バスセンター系統の運行 R2年度 車両購入1台 R3年度 車両購入1台 R5年度 車両購入1台 R6年度 車両購入1台	【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 ①平成30年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための広報を行い、更なる新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで) ②平成30年度に導入したバスロケーションシステムの利便性を広報し、更なる新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A ■目標達成の要因 新型コロナウイルスの影響からの戻りやすさがバスまるとフリーDAY等 のよる増加 【収支率】 (R6)目標:24.1% 実績:26.2%(A) (R5)目標:23.8% 実績:26.7%(A) (R4)目標:23.7% 実績:23.1%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:78,848人 実績:94,124人(A) (R5)目標:76,925人 実績:107,794人(A) (R4)目標:82,568人 実績:76,557人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。
祐徳自動車 (株) 嬉野線	祐徳神社前～嬉野市役所～湯の田系統の運行 R2年度 車両購入1台 R3年度 車両購入1台 R4年度 車両購入1台 R6年度 車両購入1台	③時刻表にQRコードを貼り、バスの位置情報を確認できるようにする。(令和6年9月まで) ④企画乗車券の発売を行い、新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで)(★) ⑤佐賀駅バスセンターでの乗継割引を実施し、利便性向上及び新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで)(★) ⑥佐賀市バス路線マップ(英・中・韓対応)の配布を行い、住民への周知を行う。(令和5年9月まで)(★) ⑦県で計画されている1月路線バス無料DAYについて市のホームページで周知しバスを知ってもらう取組を行う。(令和6年9月まで)(★) ⑧バス時刻、運賃等についてホームページ等で周知(令和6年9月まで)(★) ⑨行政放送等で鉄道・コミュニティバスとの結節について周知を図る。(令和6年9月まで)(★) ⑩コミュニティバスのオープンデータ化を行うことで、利便性を向上させる。(令和6年9月まで)(★) ⑪公共交通利用促進事業バス・タクシー回数券の発行による、利便性向上を図る。(令和6年9月まで)(★) ⑫スマートバス停を活用し、利便性向上及び新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで)(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A ■目標達成の要因 新型コロナウイルスの影響からの戻りやすさがバスまるとフリーDAY等 のよる増加 【収支率】 (R6)目標:28.0% 実績:34.1%(A) (R5)目標:31.6% 実績:33.3%(A) (R4)目標:25.9% 実績:27.0%(B) 【輸送人員】 (R6)目標:55,684人 実績:70,493人(A) (R5)目標:54,326人 実績:72,668人(A) (R4)目標:58,798人 実績:55,476人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。
祐徳自動車 (株) 吉田線	中川～吉田～湯の田系統の運行 R1年度 車両購入1台 R3年度 車両購入1台 R5年度 車両購入1台		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A ■目標達成の要因 新型コロナウイルスの影響からの戻りやすさがバスまるとフリーDAY等 のよる増加 【収支率】 (R6)目標:27.1% 実績:30.2%(A) (R5)目標:29.7% 実績:31.1%(A) (R4)目標:23.4% 実績:26.2%(A) 【輸送人員】 (R6)目標:27,763人 実績:45,919人(A) (R5)目標:27,086人 実績:46,116人(A) (R4)目標:31,262人 実績:31,846人(A)	引き続き利便性向上等に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
祐徳自動車(株) 祐徳線	祐徳神社前～嬉野市役所～下西山車庫系統の運行 R1年度 車両購入1台 R2年度 車両購入1台 R4年度 車両購入1台 R5年度 車両購入1台 R6年度 車両購入1台	【前回の事業評価結果】 沿線市町の人口減少やモータリゼーションの進行により輸送人員の減少及び収支率の悪化を引き起こしていることが明らかとなったため、ICカード普及活動やバス運行情報のオープンデータ化及びバスロケーションシステムの広報を行い、利用促進事業や利便性向上による輸送人員の増加を図る必要がある。 また、収支率の改善のためには、輸送人員の減少が見込まれるとしても、バス路線の再編・最適化が必要となる。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 ①平成30年度に導入した交通系ICカードnimoca普及のための広報を行い、更なる新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで) ②平成30年度に導入したバスロケーションシステムの利便性を広報し、更なる新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで) ③時刻表にQRコードを貼り、バスの位置情報を確認できるようにする。(令和6年9月まで)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A ■目標達成の要因 新型コロナウイルスの影響からの戻りやすさがバスまるとフリーDAY等のよる増加 【収支率】 (R6)目標:27.2% 実績:32.7%(A) (R5)目標:30.5% 実績:32.8%(A) (R4)目標:25.0% 実績:26.2%(B) 【輸送人員】 (R6)目標:44,253人 実績:61,545人(A) (R5)目標:43,174人 実績:62,465人(A) (R4)目標:45,541人 実績:44,880人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。
祐徳自動車(株) 太良線	肥前鹿島駅前～糸岐本町～竹崎港系統の運行 R1年度 車両購入1台 R2年度 車両購入1台 R4年度 車両購入1台 R6年度 車両購入1台	④企画乗車券の発売を行い、新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで)(★) ⑤佐賀駅バスセンターでの乗継割引を実施し、利便性向上及び新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで)(★) ⑥佐賀市バス路線マップ(英・中・韓対応)の配布を行い、住民への周知を行う。(令和5年9月まで)(★) ⑦県で計画されている1月路線バス無料DAYについて市のホームページで周知しバスを知ってもらう取組を行う。(令和6年9月まで)(★) ⑧バス時刻、運賃等についてホームページ等で周知(令和6年9月まで)(★) ⑨行政放送等で鉄道・コミュニティバスとの結節について周知を図る。(令和6年9月まで)(★) ⑩コミュニティバスのオープンデータ化を行うことで、利便性を向上させる。(令和6年9月まで)(★) ⑪公共交通利用促進事業バス・タクシー回数券の発行による、利便性向上を図る。(令和6年9月まで)(★) ⑫スマートバス停を活用し、利便性向上及び新規利用の取込みを図る。(令和6年9月まで)(★)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A ■目標達成の要因 新型コロナウイルスの影響からの戻りやすさがバスまるとフリーDAY等のよる増加 【収支率】 (R6)目標:18.8% 実績:25.9%(A) (R5)目標:24.4% 実績:24.8%(A) (R4)目標:18.1% 実績:17.9%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:31,101人 実績:47,108人(A) (R5)目標:30,342人 実績:49,117人(A) (R4)目標:33,066人 実績:29,605人(C)	引き続き利便性向上等に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス佐賀(株)久留米～鳥栖線	JR久留米～久留米警察署～西鉄鳥栖系統の運行。	・令和5年11月14日 鳥栖市立基里小学校にてバスの乗り方教室を実施した。 ・令和6年9月28日 「バスの日イベントin鳥栖」を実施した。 ・「子ども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客さまに随時配布を行っている。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施した。 ・沿線の催し物のポスターやチラシを久留米バスセンターや各営業所にて掲出を行い、バス利用の促進を行った。 西鉄バス公式X(旧Twitter)を活用し、沿線の催し情報の発信を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ◇目標(令和4年度実績) ・収支率:令和4年度実績64.7%から収支改善1.0%以上を目標とする。 ・輸送人員:令和4年度実績141,569人以上を維持する。 ◇実績(対:令和4年度実績) 収支率69.17%(+4.47%) 輸送人員186,892人(+45,323人)	◇利用促進 ・令和6年10月(1ヵ月間限定)にさがMaaS事業実行委員会が発売する、スマホアプリ「my route」を活用した「SAGA2024路線バスとくとく24H乗車券」の企画に参画し利用促進を図った。 今後も、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる施策を実施していきたい。 ・鳥栖市と共に実施をしている「バスの日イベントin鳥栖」において、例年鳥栖市内で完結する路線のみを対象に無料バスを行っているが、来年度以降は、鳥栖市への乗り入れ路線も対象となるよう検討を行う。 ◇その他 ・令和6年11月25日 基里小学校にてバスの乗り方教室を実施した。
西鉄バス佐賀(株)綾部線	鳥栖駅～綾部・国立東佐賀病院前～西鉄久留米系統の運行。	・令和5年10月19日 鳥栖市立麓小学校にてバスの乗り方教室を実施した。 ・令和6年9月28日 「バスの日イベントin鳥栖」を実施した。 ・「子ども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客さまに随時配布を行っている。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施した。 ・沿線の催し物のポスターやチラシを久留米バスセンターや各営業所にて掲出を行い、バス利用の促進を行った。 西鉄バス公式X(旧Twitter)を活用し、沿線の催し情報の発信を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ◇目標(令和4年度実績) ・収支率:令和4年度実績41.4%から収支改善1.0%以上を目標とする。 ・輸送人員:令和4年度実績75,787人以上を維持する。 ◇実績(対:令和4年度実績) ・収支率41.05%(△0.35%) ・輸送人員96,932人(+21,145人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、費用の増加が収入の増加を上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・令和6年10月(1ヵ月間限定)にさがMaaS事業実行委員会が発売する、スマホアプリ「my route」を活用した「SAGA2024路線バスとくとく24H乗車券」の企画に参画し利用促進を図った。 今後も、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる施策を実施していきたい。 ・鳥栖市と共に実施をしている「バスの日イベントin鳥栖」において、例年鳥栖市内で完結する路線のみを対象に無料バスを行っているが、来年度以降は、鳥栖市への乗り入れ路線も対象となるよう検討を行う。 ◇その他 ・令和6年11月29日 麓小学校にてバスの乗り方教室を実施した。
西鉄バス佐賀(株)鳥栖～神埼線	鳥栖駅～目達原～神埼駅通り系統の運行。	・令和5年11月2日 鳥栖市立旭小学校にてバスの乗り方教室を実施した。 ・令和6年9月28日 「バスの日イベントin鳥栖」を実施した。 ・「子ども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるっとフリーDAY」を実施した。 ・沿線の催し物のポスターやチラシを久留米バスセンターや各営業所にて掲出を行い、バス利用の促進を行った。 西鉄バス公式X(旧Twitter)を活用し、沿線の催し情報の発信を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ◇目標(令和4年度実績) ・収支率:令和4年度実績37.9%から収支改善1.0%以上を目標とする。 ・輸送人員:令和4年度実績30,951人以上を維持する。 ◇実績(対:令和4年度実績) 収支率36.75%(△1.15%) 輸送人員41,153人(+10,202人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、費用の増加が収入の増加を上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・令和6年10月(1ヵ月間限定)にさがMaaS事業実行委員会が発売する、スマホアプリ「my route」を活用した「SAGA2024路線バスとくとく24H乗車券」の企画に参画し利用促進を図った。 今後も、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる施策を実施していきたい。 ・鳥栖市と共に実施をしている「バスの日イベントin鳥栖」において、例年鳥栖市内で完結する路線のみを対象に無料バスを行っているが、来年度以降は、鳥栖市への乗り入れ路線も対象となるよう検討を行う。 ◇その他 ・令和6年12月2日 旭小学校にてバスの乗り方教室を実施した。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス佐賀(株)鳥栖～神埼線	鳥栖駅～目達原系統の運行。	・令和5年11月2日 鳥栖市立旭小学校にてバスの乗り方教室を実施した。 ・令和6年9月28日 「バスの日イベントin鳥栖」を実施した。 ・「こども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるとフリーDAY」を実施。 ・沿線の催し物のポスターやチラシを久留米バスセンターや各営業所にて掲出を行い、バス利用の促進を行った。 西鉄バス公式X(旧Twitter)を活用し、沿線の催し情報の発信を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ◇目標(令和4年度実績) ・収支率:令和4年度実績51.4%から収支改善1.0%以上を目標とする。 ・輸送人員:令和4年度実績46,834人以上を維持する。 ◇実績(対:令和4年度実績) 収支率51.35%(△0.05%) 輸送人員60,409人(+13,575人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、費用の増加が収入の増加を上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・令和6年10月(1ヵ月間限定)にさがMaaS事業実行委員会が発売する、スマホアプリ「my route」を活用した「SAGA2024路線バスとくとく24H乗車券」の企画に参画し利用促進を図った。 今後も、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる施策を実施していきたい。 ・鳥栖市と共に実施をしている「バスの日イベントin鳥栖」において、例年鳥栖市内で完結する路線のみを対象に無料バスを行っているが、来年度以降は、鳥栖市への乗り入れ路線も対象となるよう検討を行う。 ◇その他 ・令和6年12月2日 旭小学校にてバスの乗り方教室を実施した。
西鉄バス佐賀(株)江見線	佐賀第二合同庁舎～江見～西鉄久留米系統の運行。	・「こども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客さまに随時配布を行っている。 ・関係する自治体と協議を行い、令和5年10月1日に労働改善につながるダイヤ改正を実施した。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるとフリーDAY」を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ◇目標(令和4年度実績) ・収支率:令和4年度実績52.6%から収支改善1.0%以上を目標とする。 ・輸送人員:令和4年度実績125,088人以上を維持する。 ◇実績(対:令和4年度実績) 収支率53.39%(+0.79%) 輸送人員157,180人(+32,092人) ◇達成できなかった理由 利用状況は回復傾向にあるが、人件費・燃油費の高騰に加え、資材やメンテナンス料も上昇しているため、運行費用が増加傾向にある。結果として、費用の増加が収入の増加を上回ったため、目標達成ができなかった。	◇利用促進 ・令和6年10月(1ヵ月間限定)にさがMaaS事業実行委員会が発売する、スマホアプリ「my route」を活用した「SAGA2024路線バスとくとく24H乗車券」の企画に参画し利用促進を図った。 今後も、関係自治体と共に、利便性向上に繋がる施策を実施していきたい。 ・佐賀県と共に、令和6年11月16日、17日に佐賀市内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「佐賀市内バス無料DAY」を実施した。今後も日頃バスを利用していないお客さまがバスを利用するきっかけとなるような取り組みを行ってきたい。
西鉄バス佐賀・久留米共同運行神埼線	佐賀第二合同庁舎～目達原・長門石～西鉄久留米系統の運行。	・「こども50円バス」企画を実施した。※令和5年年末～令和6年年始、令和6年春休み、G.W.、夏休み、その他の土日祝日。 ・久留米市で作成した公共交通マップを市への転入者へ配布を行った。また、久留米BC窓口でお問い合わせのお客さまに随時配布を行っている。 ・西鉄バス公式X(旧Twitter)を活用し、沿線の催し情報の発信を行った。 ・令和6年1月の毎週水曜日および日曜日を対象に、佐賀県内のバス停で降車する場合に限り、バス運賃が無料になる「さがバスまるとフリーDAY」を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ◇目標(令和4年度実績) ・収支率:令和4年度実績60.4%から収支改善1.0%以上を目標とする。 ・輸送人員:令和4年度実績137,926人以上を維持する。 ※ともに西鉄バス佐賀のみの実績 ◇実績(対:令和4年度実績) 収支率67.42%(+7.02%) 輸送人員166,695人(+28,769人)	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象 事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西肥自動車 (株) 福島支所前 ～伊万里駅前	福島支所前～相生橋～伊万里駅前間の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【輸送人員】 (目標値)31,105人(R4年度実績を維持) (R6実績値)29,653人(達成率:95.3%) 【運送収入】 (目標値)12,675,053円(R4年度実績を維持) (R6実績値)14,352,856円(達成率:113.2%) 【収支率】 (目標値)28.6%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)29.4%(達成率:102.8%) 運送収入及び収支率は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
西肥自動車 (株) 佐世保～伊 万里	佐世保駅前～三川内～伊万里駅前間の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【輸送人員】 (目標値)91,496人(R4年度実績を維持) (R6実績値)86,848人(達成率:94.9%) 【運送収入】 (目標値)21,698,937円(R4年度実績を維持) (R6実績値)23,666,416円(達成率:109.1%) 【収支率】 (目標値)52.8%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)50.2%(達成率:95.1%) 運送収入は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
西肥自動車 (株) 佐世保～嬉 野	佐世保駅前～三川内～嬉野バスセンター間の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【輸送人員】 (目標値)101,264人(R4年度実績を維持) (R6実績値)82,519人(達成率:81.5%) 【運送収入】 (目標値)26,166,624円(R4年度実績を維持) (R6実績値)28,333,212円(達成率:108.3%) 【収支率】 (目標値)60.5%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)66.0%(達成率:109.1%) 運送収入、収支率は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象 事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
JR九州バス 株	嬉野温泉バスセンター～ 嬉野温泉駅・武雄温泉駅～新武雄病院 R6年 車両購入1台/年	【前回の事業評価結果】 コロナウイルス感染症の影響により輸送人員の増加 や収支率の改善が達成できていない系統があった。 一方で徐々に回復傾向にあるため、引き続き利用促 進のための広報を行い、輸送人員の増加を図る必要 がある。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)バス運賃の見直し(運賃改定)を行う。(★)	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施された	B 本系統の沿線市町は従来から続く人口減少やモータリゼーション進 行、近年の新型コロナ感染拡大による行動変容等の影響もあり、さら には燃料費の高騰等で輸送コストの上昇により、収支率を悪化させる原 因となっている。R6年度は、輸送人員は増加したが、従業員の給与 ベースアップを実施(乗務員確保等の理由のため)し、費用が増加した ため、収支率については計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 【収支率】 (R6)目標:38.7% 実績:31.3%(B) (R5)目標:45.4% 実績:36.9%(B) (R4)目標:37.6% 実績:37.7%(B) 【輸送人員】 (R6)目標:52,871人 実績:85,831人(A) (R5)目標:55,530人 実績:57,800人(A) (R4)目標:75,087人 実績:52,347人(B)	輸送人員は増加傾向にあるので、利用促進 の広報活動を今後も継続していく。また、地 元利用客はもとより観光客の移動手段として の交通網として、新幹線との接続等事業者と 沿線自治体が一体となって検討していく。
JR九州バス 株	彼杵駅～嬉野温泉駅・武雄温泉駅～たけお競 輪場 R6年 車両購入1台/年	(2)幼児又は小学生などにバスの乗り方教室を行い、 ご利用になる動機づけとして利用促進を行う。 (3)休日やイベント開催日に「こども運賃無料の日」を 実施し、バスに慣れ親しんでもらい、親子でご利用して いただくようチラシを制作し、イベントや沿線施設への 配布等により、沿線地域の住民へ呼びかけを行い、利 用者増を目指す。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施された	B 本系統の沿線市町は従来から続く人口減少やモータリゼーション進 行、近年の新型コロナ感染拡大による行動変容等の影響もあり、さら には燃料費の高騰等で輸送コストの上昇により、収支率を悪化させる原 因となっている。R6年度は、輸送人員は増加したが、従業員の給与 ベースアップを実施(乗務員確保等の理由のため)し、費用が増加した ため、収支率については計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 【収支率】 (R6)目標:28.8% 実績:24.3%(B) (R5)目標:45.4% 実績:36.9%(B) (R4)目標:37.6% 実績:37.7%(B) 【輸送人員】 (R6)目標:32,044人 実績:51,707人(A) (R5)目標:55,530人 実績:57,800人(A) (R4)目標:75,087人 実績:52,347人(B)	具体的にはMaaSの認知度向上に向け、自治 体と連携し、利用方法やメリットをわかりやす く伝えるため、実際の利用者の声を積極的に 発信することで、信頼性と魅力をアピールし、 利用促進に取り組む。
旬ジョイックス 交通 三瀬・横武線	三瀬支所～神埼駅前～横武の運行	【前回の事業評価結果】 九年庵等の開催で一定の輸送人員はあるものの、 収支率の改善が必要な路線。路線の最適化を図る必要 もあるが、人件費・燃油高騰等の影響により、さらに 悪化する恐れがある。 利用者増を図るため、バスの認知が向上する取組を 実施する。 【反映状況(反映したものには★)】 ■生産性向上及び収支率改善に資する取組 (1)九年庵等のイベントなどにて、沿線市町と協力して PRを行う。(★) (2)神埼市公共交通マップの配布を行い、住民への周 知を行う。(★) (3)自治会長会を通じてチラシを全戸配布し、住民へ の周知を行う。 (4)公共交通利用に関する地域住民説明会を開催し、 住民への周知を行う。 (5)さがバスまるっとフリーDAYに参加する(★)	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施された	B 利用促進事業や収支率改善を図る事業に取り組んだ結果、輸送人員 は目標を達成し、収支率も目標の達成はできなかったものの、昨年度 より収支率の改善が見られた。 【収支率】 (R6)目標:14.4% 実績:11.13%(B) (R5)目標:14.4% 実績:5.1%(B) (R4)目標:14.4% 実績:4.9%(C) 【輸送人員】 (R6)目標:16,000人 実績:16,334人(A) (R5)目標:15,933人 実績:17,727人(B) (R4)目標:16,092人 実績:16,311人(A)	運行の効率化を図るとともに、引き続き利用 促進の広報に努める

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
長崎県地域 公共交通活 性化協議会	長崎県交通局 長崎自動車(株) 西肥自動車(株) 島原鉄道(株) さいかい交通(株) 五島自動車(株) 杵岐交通(株) 対馬交通(株) 生月自動車(有) JR九州バス(株)	40系統 ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価: 39系統 B評価: 1系統 C評価: 0系統	A評価: 23系統 B評価: 16系統 C評価: 1系統 【参考: 前年度】 A評価: 20系統 B評価: 17系統 C評価: 0系統	別添一次評価 のとお	運転者や事務員など人手不足が進む中、企画乗車券の販売やPR、高齢者定期券の発行、沿線自治体と連携した地区別時刻表の作成・配布等の広報活動を通じて利用促進に取り組まれていることや利便性向上や運行効率化のための路線及びダイヤの再編・見直しを行っていることを評価します。 目標達成に向けた今回の取組みについては、具体的な取組みの結果やその効果に加え、工夫した内容などについても記録されると、より効果的な改善につながるものと思慮されます。 目標を達成できた系統と達成できていない系統がありますが、それぞれの要因について分析し、評価書に記録することは重要です。一部の系統において人口減少や燃料高騰の影響を受けていますが、地域の実情を考慮のうえ、その他に原因がないかどうかについても分析し、その他要因への改善点を検討いただくと、より効果的な改善につながることを期待されます。 さらに、目標を達成できた系統、要因の分析や取組みの改善が良くできている系統については、他系統においても参考・活用されることを期待します。 今後は、アフターコロナを見据えた目標設定や評価指標の見直しも検討いただきながら、県と市町村が連携を図り事業者や住民と共に地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、地域の特性・実情に最適な交通手段が確保・維持されることを期待します。	評価指標 【乗車密度】 【輸送人員】 【運送収入】 【収支率】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
長崎県交通局	1. 長崎～雲仙線の運行	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。 ・著名な温泉地である小浜・雲仙を通る路線であることから、県外の利用者向けにウィラートラベルが提供する電子チケットを販売した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:4.4人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:6.0人 【輸送人員】 ・目標値:28,460人(R4年度実績27,727人×102.6%) ・R6年度実績:34,474人 ・達成率:121.1% 【運送収入】 ・目標値:19,792,177円(R4年度実績19,282,177円×102.6%) ・R6年度実績:26,261,068円 ・達成率:132.7% 【収支率】 ・目標値:42.4%(R4年度の実績41.4%+1%) ・R6年度実績:53.7% ・達成率:126.7% インバウンドを含む観光需要の回復も奏功し目標を達成した。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行う。
	2. 江の浦～長崎線の運行 (矢上団地、大波止経由)	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。 ・九州maasのプラットホームのマイルートによる共創の取り組みとして、複数事業者が連携したフリーパスを販売した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:7.3人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:8.5人 【輸送人員】 ・目標値:275,597人(R4年度実績271,223人×101.6%) ・R6年度実績:322,451人 ・達成率:117.0% 【運送収入】 ・目標値:58,594,045円(R4年度実績57,664,045円×101.8%) ・R6年度実績:66,125,524円 ・達成率:112.9% 【収支率】 ・目標値:66.5%(R4年度の実績65.5%+1%) ・R6年度実績:73.5% ・達成率:110.5% 長崎駅前広場乗り入れや運行ダイヤ見直し等が奏功し目標を達成できた。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行う。 ・引き続き、九州maasのプラットホームのマイルートによる共創の取り組みを進めていく。
	3. 江の浦～長崎線の運行 (飯盛団地、矢上団地、大波止経由)	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。 ・九州maasのプラットホームのマイルートによる共創の取り組みとして、複数事業者が連携したフリーパスを販売した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:7.2人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:8.2人 【輸送人員】 ・目標値:87,248人(R4年度実績85,723人×101.8%) ・R6年度実績:104,882人 ・達成率:120.2% 【運送収入】 ・目標値:20,029,739円(R4年度実績19,679,739円×101.8%) ・R6年度実績:22,914,996円 ・達成率:114.4% 【収支率】 ・目標値:64.7%(R4年度の実績63.7%+1%) ・R6年度実績:70.4% ・達成率:108.8% 長崎駅前広場乗り入れや運行ダイヤ見直し等が奏功し目標を達成できた。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行う。 ・引き続き、九州maasのプラットホームのマイルートによる共創の取り組みを進めていく。
	4. 諫早～県界線の運行	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。 ・地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:3.2人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:3.5人 【輸送人員】 ・目標値:132,420人(R4年度実績127,775人×103.6%) ・R6年度実績:137,515人 ・達成率:103.8% 【運送収入】 ・目標値:25,941,105円(R4年度実績25,031,105円×103.6%) ・R6年度実績:25,827,470円 ・達成率:99.6% 【収支率】 ・目標値:34.7%(R4年度の実績33.7%+1%) ・R6年度実績:35.5% ・達成率:102.3% 前年から運送収入は480万円ほど改善したものの目標は達成できなかった。ほかの項目も考慮すると、ほぼ達成できたと判断している。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行い、より一層の普及を念頭に状況や要望に応じた販売メニューの見直しにも目を向けておく。 ・引き続き、地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
長崎県交通局	5. 諫早～みさかえの圏線の運行	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。 ・地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:2.9人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:3.2人 【輸送人員】 ・目標値:49,943人(R4年度実績48,146人×103.7%) ・R6年度実績:47,206人 ・達成率:94.5% 【運送収入】 ・目標値:11,672,772円(R4年度実績11,252,772円×103.7%) ・R6年度実績:10,481,563円 ・達成率:89.8% 【収支率】 ・目標値:32.0%(R4年度の実績31.0%+1%) ・R6年度実績:32.8% ・達成率:102.5% 運行の効率化のために令和6年4月ダイヤ改正で一部ダイヤの減便を実施したこともあり、輸送人員・運送収入は減少したものの、費用削減が奏功し収支率は目標を達成できた。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行い、より一層の普及を念頭に状況や要望に応じた販売メニューの見直しにも目を向けておく。 ・引き続き、地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組む。
	6. 東厚生町～飯盛団地線の運行 【車両補助対象】 ・R06.03 購入3台	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。編等に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:3.2人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:4.2人 【輸送人員】 ・目標値:145,091人(R4年度実績140,545人×103.2%) ・R6年度実績:196,879人 ・達成率:135.7% 【運送収入】 ・目標値:27,127,622円(R4年度実績26,277,622円×103.2%) ・R6年度実績:34,676,597円 ・達成率:127.8% 【収支率】 ・目標値:38.7%(R4年度の実績37.7%+1%) ・R6年度実績:46.8% ・達成率:120.9% 通学需要を中心とした定期券収入の増加が奏功し目標を達成できた。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行い、より一層の普及を念頭に状況や要望に応じた販売メニューの見直しにも目を向けておく。 ・引き続き、地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組む。
	7. 今村～早見線の運行	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:3.1人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:2.5人 【輸送人員】 ・目標値:138,164人(R4年度実績133,249人×103.7%) ・R6年度実績:116,190人 ・達成率:84.1% 【運送収入】 ・目標値:22,205,347円(R4年度実績21,415,347円×103.7%) ・R6年度実績:17,812,991円 ・達成率:80.2% 【収支率】 ・目標値:33.3%(R4年度の実績32.3%+1%) ・R6年度実績:27.5% ・達成率:82.6% 前年から運送収入は80万円ほど改善したものの、起終点が本系統と近似しているほかの系統も改善していたこともあり、収入が分散した結果、本系統では75%以上は保ったものの目標を達成できなかった。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行い、より一層の普及を念頭に状況や要望に応じた販売メニューの見直しにも目を向けておく。 ・引き続き、地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組む。
	8. 諫早～長崎空港線の運行 (消防学校前、サンスパ おおむら経由)	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。 ・地元市と連携し、高齢者向けの出前講座としてバスの乗り方教室を開催した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:4.7人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:6.4人 【輸送人員】 ・目標値:100,767人(R4年度実績98,496人×102.3%) ・R6年度実績:133,293人 ・達成率:132.3% 【運送収入】 ・目標値:22,186,189円(R4年度実績21,686,189円×102.3%) ・R6年度実績:29,611,390円 ・達成率:133.5% 【収支率】 ・目標値:52.4%(R4年度の実績51.4%+1%) ・R6年度実績:66.5% ・達成率:126.9% インバウンドを含む観光需要や出張移動の回復も奏功し目標を達成した。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行い、より一層の普及を念頭に状況や要望に応じた販売メニューの見直しにも目を向けておく。 ・引き続き、地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
長崎県交通局	9. 諫早～長崎空港線の運行 (長崎医療センター、 サンスバおおむら経由) 【車両補助対象】 ・H31.3 購入3台	・新たに導入したバスロケーションシステム「県営バスナビ」により、リアルタイムの運行情報を提供した。 ・ホームページにGTFSデータを公開し、ナビタイム等の総合ナビゲーションサービス提供者を通じて、幅広く運行ダイヤ等の情報提供を行った。 ・高齢者等を対象としたフリーパスを引き続き販売した。 ・地元市と連携し、高齢者向けの出前講座としてバスの乗り方教室を開催した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A【乗車密度】 ・目標値:5.2人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:5.4人 【輸送人員】 ・目標値:164,880人(R4年度実績161,654人×102.0%) ・R6年度実績:169,570人 ・達成率:102.8% 【運送収入】 ・目標値:35,264,973円(R4年度実績34,574,973円×102.0%) ・R6年度実績:36,395,343円 ・達成率:103.2% 【収支率】 ・目標値:55.4%(R4年度の実績54.4%+1%) ・R6年度実績:55.7% ・達成率:100.5% インバウンドを含む観光需要や出張移動の回復も奏功し目標を達成した。	・新たに導入したバスロケーションシステムや、ホームページ、SNS上での運行ダイヤや乗り継ぎダイヤの情報提供、運行状況の発信など、お客様の利便性向上策を進める。 ・引き続き、各種フリーパスの展開を行い、より一層の普及を念頭に状況や要望に応じた販売メニューの見直しにも目を向けておく。 ・引き続き、地域公共交通計画に基づき、持続的な公共交通網の構築に向けて、地元市と連携しながら、路線とダイヤの再編等に取り組む。
長崎自動車株式会社	1. 時津北部ターミナル～大串線の運行	観光需要の取り込みを図るべく、行先案内バスマップの作成、配布を実施。また、令和6年4月にバスロケーションシステムの導入を実施し、利便性の向上に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B【乗車密度】 ・目標値:3.4人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:3.3人 【輸送人員】 ・目標値:53,072人(R4年度の実績値+2,100人) ・R6年度実績:49,261人 ・達成率:92.8% 【運送収入】 ・目標値:14,272,207円(R4年度の実績値+636,887円) ・R6年度実績:13,352,981円 ・達成率:93.6% 【収支率】 ・目標値:30.20%(R4年度の実績値+1.20%) ・R6年度実績:25.8% ・達成率:85.4% 沿線地域の人口減少や少子高齢化による輸送人員減少の影響、車両更新や燃油価格高騰等により、目標を達成できなかった。	地域公共交通計画に照らし、データ分析ツールによる利用実態の把握及びニーズに即した最適なダイヤ編成を進め、各関連機関とも連携しながら持続可能なバス路線への転換を目指し、沿線企業及び住民への利用促進啓発を継続して実施する。 また、今後も観光需要の取り込みを図るべく、SNSを活用した情報発信やバスマップの無償配布についても継続して実施し、併せてMaaS推進による利便性の向上に取り組む。
	2. 秋寄～長与ニュータウン線の運行	観光需要の取り込みを図るべく、行先案内バスマップの作成、配布を実施。また、令和6年4月にバスロケーションシステムの導入を実施し、利便性の向上に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A【乗車密度】 ・目標値:3.2人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:3.4人 【輸送人員】 ・目標値:58,127人(R4年度の実績値+1,680人) ・R6年度実績:58,362人 ・達成率:100.4% 【運送収入】 ・目標値:8,065,497円(R4年度の実績値+256,172円) ・R6年度実績:8,163,764円 ・達成率:101.2% 【収支率】 ・目標値:38.00%(R4年度の実績値+1.10%) ・R6年度実績:34.8% ・達成率:91.6% 乗車密度、輸送人員、運送収入については、イベント増による交流人口の増加や観光需要の回復等により目標を達成できた。 収支率については、車両更新や燃油価格高騰等により、目標を達成できなかった。	地域公共交通計画に照らし、データ分析ツールによる利用実態の把握及びニーズに即した最適なダイヤ編成を進め、各関連機関とも連携しながら持続可能なバス路線への転換を目指し、沿線企業及び住民への利用促進啓発を継続して実施する。 また、今後も観光需要の取り込みを図るべく、SNSを活用した情報発信やバスマップの無償配布についても継続して実施し、併せてMaaS推進による利便性の向上に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
長崎自動車株式会社	3. 江平高部～百合野病院前線の運行	観光需要の取り込みを図るべく、行先案内バスマップの作成、配布を実施。また、令和6年4月にバスロケーションシステムの導入を実施し、利便性の向上に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:6.5人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:6.1人 【輸送人員】 ・目標値:169,954人(R4年度の実績値+3,350人) ・R6年度実績:155,020人 ・達成率:91.2% 【運送収入】 ・目標値:22,098,195円(R3年度の実績値+459,660円) ・R6年度実績:20,282,793円 ・達成率:91.8% 【収支率】 ・目標値:65.31%(R4年度の実績値+1.29%) ・R6年度実績:54.1% ・達成率:82.8% 沿線地域の人口減少や少子高齢化による輸送人員減少の影響や、車両更新や燃油価格高騰等により、目標を達成できなかった。	地域公共交通計画に照らし、データ分析ツールによる利用実態の把握及びニーズに即した最適なダイヤ編成を進め、各関連機関とも連携しながら持続可能なバス路線への転換を目指し、沿線企業及び住民への利用促進啓発を継続して実施する。 また、今後も観光需要の取り込みを図るべく、SNSを活用した情報発信やバスマップの無償配布についても継続して実施し、併せてMaaS推進による利便性の向上に取り組む。
	4. 新地中華街～琴の尾登口線の運行	観光需要の取り込みを図るべく、行先案内バスマップの作成、配布を実施。また、令和6年4月にバスロケーションシステムの導入を実施し、利便性の向上に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:5.6人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:5.6人 【輸送人員】 ・目標値:135,639人(R4年度の実績値+3,219人) ・R6年度実績:131,246人 ・達成率:96.8% 【運送収入】 ・目標値:22,191,660円(R4年度の実績値+567,699円) ・R6年度実績:21,578,191円 ・達成率:97.2% 【収支率】 ・目標値:47.50%(R4年度の実績値+1.13%) ・R6年度実績:41.6% ・達成率:87.6% 乗車密度についてはイベント増による交流人口の増加や観光需要の回復等により目標を達成できた。 輸送人員、運送収入、収支率については沿線地域の人口減少や少子高齢化による輸送人員減少の影響、車両更新や燃油価格高騰等により、目標を達成できなかった。	地域公共交通計画に照らし、データ分析ツールによる利用実態の把握及びニーズに即した最適なダイヤ編成を進め、各関連機関とも連携しながら持続可能なバス路線への転換を目指し、沿線企業及び住民への利用促進啓発を継続して実施する。 また、今後も観光需要の取り込みを図るべく、SNSを活用した情報発信やバスマップの無償配布についても継続して実施し、併せてMaaS推進による利便性の向上に取り組む。
西肥自動車株式会社	1. 佐世保駅前～吉井線(佐世保駅前～妙観寺トンネル～吉井間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【輸送人員】 (目標値)60,884人(R4年度実績を維持) (R6実績値)57,101人(達成率:93.8%) 【運送収入】 (目標値)10,930,032円(R4年度実績を維持) (R6実績値)10,918,237円(達成率:99.9%) 【収支率】 (目標値)50.6%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)54.8%(達成率:108.3%) 収支率は目標を達成。 運送収入、輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	2. 松浦駅前～平戸桟橋線(松浦駅前～御厨～平戸桟橋間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【輸送人員】 (目標値)27,621人(R4年度実績を維持) (R6実績値)25,867人(達成率:93.6%) 【運送収入】 (目標値)7,874,623円(R4年度実績を維持) (R6実績値)8,596,456円(達成率:109.2%) 【収支率】 (目標値)24.0%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)22.4%(達成率:93.3%) 運送収入は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国库補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西肥自動車株式会社	3. 福島支所前～伊万里駅前線(福島支所前～相生橋～伊万里駅前間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【輸送人員】 (目標値)31,105人(R4年度実績を維持) (R6実績値)29,653人(達成率:95.3%) 【運送収入】 (目標値)12,675,053円(R4年度実績を維持) (R6実績値)14,352,856円(達成率:113.2%) 【収支率】 (目標値)28.6%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)29.4%(達成率:102.8%) 運送収入及び収支率は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	4. 川棚バスセンター～内海線(川棚バスセンター～石木～内海間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【輸送人員】 (目標値)50,634人(R4年度実績を維持) (R6実績値)48,640人(達成率:96.1%) 【運送収入】 (目標値)13,644,845円(R4年度実績を維持) (R6実績値)14,272,672円(達成率:104.6%) 【収支率】 (目標値)23.0%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)33.9%(達成率:147.4%) 運送収入は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	5. 佐世保～伊万里線(佐世保駅前～三川内～伊万里駅前間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【輸送人員】 (目標値)91,496人(R4年度実績を維持) (R6実績値)86,848人(達成率:94.9%) 【運送収入】 (目標値)21,698,937円(R4年度実績を維持) (R6実績値)23,666,416円(達成率:109.1%) 【収支率】 (目標値)52.8%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)50.2%(達成率:95.1%) 運送収入は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	6. 有川～青方線(有川港ターミナル～箒山～青方間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【輸送人員】 (目標値)24,394人(R4年度実績を維持) (R6実績値)27,768人(達成率:113.8%) 【運送収入】 (目標値)5,636,140円(R4年度実績を維持) (R6実績値)6,953,896円(達成率:123.4%) 【収支率】 (目標値)33.0%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)35.0%(達成率:106.1%) 輸送人員、運送収入、収支率とすべて目標を達成。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	7. 青方循環線(青方～奈摩～青方間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 【輸送人員】 (目標値)50,634人(R4年度実績を維持) (R6実績値)26,855人(達成率:53.0%) 【運送収入】 (目標値)13,644,845円(R4年度実績を維持) (R6実績値)5,754,631円(達成率:42.2%) 【収支率】 (目標値)33.0%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)20.3%(達成率:61.5%) 運送収入、輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西肥自動車株式会社	8. 楠泊線(佐々バスセンター～楠泊～江迎間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B【輸送人員】 (目標値)101,847人(R4年度実績を維持) (R6実績値)76,951人(達成率:75.6%) 【運送収入】 (目標値)24,707,903円(R4年度実績を維持) (R6実績値)20,538,159円(達成率:83.1%) 【収支率】 (目標値)36.2%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)42.0%(達成率:116.0%) 収支率は目標を達成。 運送収入、輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	9. 佐世保～嬉野線(佐世保駅前～三川内～嬉野バスセンター間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A【輸送人員】 (目標値)101,264人(R4年度実績を維持) (R6実績値)82,519人(達成率:81.5%) 【運送収入】 (目標値)26,166,624円(R4年度実績を維持) (R6実績値)28,333,212円(達成率:108.3%) 【収支率】 (目標値)60.5%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)66.0%(達成率:109.1%) 運送収入、収支率は目標を達成。 輸送人員は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	10. 平戸口駅～平戸高校前線(平戸口駅～平戸桟橋～平戸高校前間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A【輸送人員】 (目標値)53,843人(R4年度実績を維持) (R6実績値)62,345人(達成率:115.8%) 【運送収入】 (目標値)20,219,936円(R4年度実績を維持) (R6実績値)25,935,466円(達成率:128.3%) 【収支率】 (目標値)41.5%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)46.3%(達成率:111.6%) 輸送人員、運送収入、収支率とすべて目標を達成。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	11. 佐世保駅前～世知原線(佐世保駅前～牧の地～菰田～世知原間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A【輸送人員】 (目標値)59,445人(R4年度実績を維持) (R6実績値)63,944人(達成率:107.6%) 【運送収入】 (目標値)10,661,339円(R4年度実績を維持) (R6実績値)11,904,090円(達成率:111.7%) 【収支率】 (目標値)44.6%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)40.3%(達成率:90.4%) 輸送人員及び運送収入は目標を達成。 収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	12. 佐世保駅前～松浦駅前線(佐世保駅前～佐々～松浦駅前間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A【輸送人員】 (目標値)143,684人(R4年度実績を維持) (R6実績値)236,759人(達成率:164.8%) 【運送収入】 (目標値)円37,138,807(R4年度実績を維持) (R6実績値)75,908,966円(達成率:204.4%) 【収支率】 (目標値)85.8%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)84.0%(達成率:97.9%) 輸送人員及び運送収入は目標を達成。 収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西肥自動車株式会社	13. 佐世保駅前～平戸桟橋線 (佐世保駅前～佐々～平戸桟 橋間)の運行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の 他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡 充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の 増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B【輸送人員】 (目標値)377,081人(R4年度実績を維持) (R6実績値)425,834人(達成率:112.9%) 【運送収入】 (目標値)125,689,036円(R4年度実績を維持) (R6実績値)121,777,983円(達成率:96.9%) 【収支率】 (目標値)73.8%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)64.2%(達成率:87.0%) 輸送人員は目標を達成。 運送収入は運行回数の見直しや沿線人口の減少による影響で減少し、収支 率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できなかった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関 係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
	14. 西海橋西口～佐世保市総 合医療センター入口線(西海橋 西口～佐世保駅前～佐世保市 総合医療センター入口間)の運 行。	関係市町と連携し、地区別時刻表作成・配布、Googleマップへの情報掲載の 他、バスナビアプリでの運行情報の配信及び定期券運賃検索などの機能拡 充、同アプリのバス利用者への更なる周知を行い、輸送人員及び経常収益の 増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A【輸送人員】 (目標値)87,316人(R4年度実績を維持) (R6実績値)111,365人(達成率:127.5%) 【運送収入】 (目標値)19,375,638円(R4年度実績を維持) (R6実績値)31,188,031円(達成率:161.0%) 【収支率】 (目標値)89.7%(対R4年度実績1.0%改善) (R6実績値)87.1%(達成率:97.1%) 輸送人員及び運送収入は目標を達成。 収支率は人件費等、キロ当たり経常費用の増加により目標を達成できな かった。	運転士の安定的な充足に努めつつ、「西肥バスナビ」アプリを活用しながら、関 係市町と連携し持続可能な運行を図っていく。
島原鉄道株式会社	1. 島原～加津佐線(島原駅～ 加津佐)の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り 組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A【輸送人員】 ・目標値:85,080人(R4年度実績値×100.2%) ・R6年度実績:99,269人 ・達成率:116.7% 【運送収入】 ・目標値:16,992,936円(R4年度実績値×101.9%) ・R6年度実績:21,079,787円 ・達成率:124.1% 【収支率】 ・目標値:58.8%(R4年度の実績値+1.1%) ・R6年度実績:53.2% ・達成率:90.5% 運行回数をR4(4.4回)からR6(4.9回)に増やしたことで輸送人員、運送収入 については目標を達成できたが、乗務員不足を改善するための人件費の増 加、燃料費の高騰などの理由により費用のキロ単価も増加し、収支率は目標 を達成できなかった。	企画乗車券(ShimatetsuFreePass、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券な ど)の拡販に努める。 また、深刻な乗務員不足の為、できる限り沿線の他系統との運行効率化を図る ため、系統の再編を検討する。
	2. 諫早市役所～雲仙線(諫早 駅～雲仙)の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り 組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A【輸送人員】 ・目標値:87,272人(R4年度実績値×102.7%) ・R6年度実績:158,731人 ・達成率:181.9% 【運送収入】 ・目標値:22,099,941円(R4年度実績値×103.4%) ・R6年度実績:45,032,678円 ・達成率:203.8% 【収支率】 ・目標値:52.8%(R4年度の実績値+1.7%) ・R6年度実績:56.2% ・達成率:106.4% 運行回数をR4(5.8回)、R6(9.1回)に増やしたことに加え、コロナ禍の収束に より雲仙線の輸送人員が増加し、目標を達成することができた。	企画乗車券(ShimatetsuFreePass、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券な ど)の拡販に努める。 また、深刻な乗務員不足の為、できる限り沿線の他系統との運行効率化を図る ため、系統の再編を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
島原鉄道株式会社	3. 島原～雲仙線(青雲荘～島原駅)の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標値:54,110人(R4年度実績値×101.8%) ・R6年度実績:91,797人 ・達成率:169.6% 【運送収入】 ・目標値:10,861,833円(R4年度実績値×103.3%) ・R6年度実績:20,535,212円 ・達成率:189.1% 【収支率】 ・目標値:42.9%(R4年度の実績値+1.3%) ・R6年度実績:49.4% ・達成率:115.2% R4(6.2回)、R6(8.3回)に増やしたことに加え、コロナ禍の収束により雲仙線の輸送人員が増加し、目標を達成することができた。	企画乗車券(ShimatetsuFreePass、しまてつスきっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める。 また、深刻な乗務員不足の為、できる限り沿線の他系統との運行効率化を図るため、系統の再編を検討する。
	4. 諫早～口之津線(諫早駅～口之津)の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標値:127,966人(R4年度実績値×102.6%) ・R6年度実績:212,037人 ・達成率:165.7% 【運送収入】 ・目標値:30,852,156円(R4年度実績値×103.7%) ・R6年度実績:47,750,574円 ・達成率:154.8% 【収支率】 ・目標値:66.4%(R4年度の実績値+2.3%) ・R6年度実績:52.7% ・達成率:79.4% 運行回数をR4(5.3回)からR6(8.5回)に増やしたことで輸送人員、運送収入については目標を達成できたが、乗務員不足を改善するための人件費の増加、燃料費の高騰などの理由により費用のキロ単価も増加し、収支率は目標を達成できなかった。	企画乗車券(ShimatetsuFreePass、しまてつスきっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める。 また、深刻な乗務員不足の為、できる限り沿線の他系統との運行効率化を図るため、系統の再編を検討する。
さいかい交通株式会社	1. 板の浦～桜の里ターミナル線(板の浦～神の浦～桜の里ターミナル間)の運行	ダイヤ改正において、発車時刻の見直し等によるダイヤ編成を行うほか、新たにバスロケーションシステムを導入し、利便性向上を図ることで、輸送人員及び運送収入の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:3.6人(R4年度の実績値) ・R6年度実績:4.0人 【輸送人員】 ・目標値:93,535人(R4年度の実績値+1,564人) ・R6年度実績:106,352人 ・達成率:113.7% 【運送収入】 ・目標値:24,275,809円(R4年度の実績値+405,790円) ・R6年度実績:26,536,908円 ・達成率:109.3% 【収支率】 ・目標値:60.0%(R4年度の実績値+1.0%) ・R6年度実績:55.5% ・達成率:92.5% 乗車密度、輸送人員及び運送収入については、目標を達成できた。 一方、収支率については、人件費等の費用が増加した影響により悪化し、目標を達成できなかった。	グループ会社と連携した新企画乗車券の開発について継続検討するほか、イベント開催による輸送人員及び運送収入の増加を図る。 また現状の運転者不足問題に対処するため、地元利用者のニーズや利用実態変化の把握に努め、ダイヤ改正時には運行便数の見直し等による抜本的なダイヤ編成に取り組み、収支改善に繋げる。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
五島自動車株式会社	1. 福江～三井楽線(福江～水之浦～三井楽間)の運行 令和元年度車両1両を購入 令和6年度車両1両を購入	企画乗車券の広報・PR活動の取り組みに加え、高齢者フリー乗車券の販売継続により、利用者の拡大に取り組んだ。 また、休日、年末年始のダイヤの見直し等により、効率的なダイヤ編成により、経費の圧縮、収支率の改善に取り組んだ。	A 計画通りに事業は適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:2.9人(R4年度の実績値以上) ・R6年度実績:3.2人 ・達成率:110.3% 【利用人員】 ・目標値:121,464人(R4年度の実績120,261人×101%) ・R6年度実績:99,542人 ・達成率:82.0% 【運送収入】 ・目標値:24,167,448円(R4年度の実績23,928,167円×101%) ・R6年度実績:24,503,323円 ・達成率:101.4% 【収支率】 ・目標値:55.0%(R4年度の実績54%+1%) ・R4年度実績:48.8% ・達成率:88.7% 利用人員については、人口減(対R4年度96%約1,200人減)による輸送人員の減少により達成できなかった。 収支率については、全系統の総実車キロは減少したが予想以上に費用は減らず、キロ当たりの経常費用が増加した為達成できなかった。	引き続き企画乗車券、1日フリー乗車券等の販売拡大に努め、高齢者フリー乗車券の販売継続により、利用者の拡大を図る。 また、継続的にダイヤの見直しを行い、効率的なダイヤ編成をすることにより、経費の圧縮を図り、収支率の改善を目指す。
五島自動車株式会社	2. 福江～富江線(福江～大浜～富江)の運行 令和元年度車両1両を購入 令和6年度車両1両を購入	企画乗車券の広報・PR活動の取り組みに加え、高齢者フリー乗車券の販売継続により、利用者の拡大に取り組んだ。 また、休日、年末年始のダイヤの見直し等により、効率的なダイヤ編成により、経費の圧縮、収支率の改善に取り組んだ。	A 計画通りに事業は適切に実施された。	【乗車密度】 ・目標値:2.5人(R4年度の実績値以上) ・R6年度実績:2.8人 ・達成率:112.0% 【利用人員】 ・目標値:49,400人(R4年度の実績48,911人×101%) ・R6年度実績:44,493人 ・達成率:90.1% 【運送収入】 ・目標値:13,756,489円(R4年度の実績13,620,286円×101%) ・R6年度実績:12,776,918円 ・達成率:92.9% 【収支率】 ・目標値:57.0%(R4年度の実績56%+1%) ・R6年度実績:52.2% ・達成率:91.6% 利用人員、運送収入については、人口減(対R4年度96%約1,200人減)による輸送人員の減少により達成できなかった。 収支率については、全系統の総実車キロは減少したが予想以上に費用は減らず、キロ当たりの経常費用が増加した為達成できなかった。	引き続き企画乗車券、1日フリー乗車券等の販売拡大に努め、高齢者フリー乗車券の販売継続により、利用者の拡大を図る。 また、継続的にダイヤの見直しを行い、効率的なダイヤ編成をすることにより、経費の圧縮を図り、収支率の改善を目指す。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月14日

協議会名：長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
苓岐交通株式会社	1. 国分經由一周芦辺線（郷ノ浦～勝本・芦辺～郷ノ浦間）の運行	・3月に各高校へ出向き、新入生や父兄へ定期券についての説明や時刻表等のチラシを配布した。 ・1日フリー乗車券の販売増のため、HPへの掲載や各車両へのチラシの貼付などを行った。	A 計画どおりに事業は実施された	【輸送人員】 ・目標値：67,418人（R4年度実績66,750人+1%） ・R6年度実績：67,466人 ・達成率：100.1% 【運送収入】 ・目標値：20,096,772円（R4年度実績20,036,662円+0.30%）、（費用で100万円削減） ・R6年度実績：19,693,138円 ・達成率：98.0% 【収支率】 ・目標値：52.8%（R4年実績51.6%+1.2%） ・R6年実績：49.7 ・達成率：94.1% 輸送人員は目標達成、しかし収入面では定期券は増加したが普通運賃の減少につき達成できなかった。	通学定期券は苓岐市が50%補助していることから今後も苓岐市と連携し、1日フリー乗車券は島内及び観光客、仕事での来島者に向けてのHP,車両内外にラッピング等PR強化を図り増収に繋がるよう社内協議を行う。
	2. 湯ノ本經由勝本線（郷ノ浦～湯本～勝本・天ヶ原間）の運行	・3月に各高校へ出向き、新入生や父兄へ定期券についての説明や時刻表等のチラシを配布した。 ・1日フリー乗車券の販売増のため、HPへの掲載や各車両へのチラシの貼付などを行った。	A 計画どおりに事業は実施された	【輸送人員】 ・目標値：34,975人（R4年度の実績値34,629+1%） ・R6年度実績：39,001人 ・達成率：111.5% 【運送収入】 ・目標値：14,184,798円（R4年度実績14,142,371円+0.30%）、（費用で60万円削減） ・R6年度実績：13,670,236円 ・達成率：96.4% 【収支率】 ・目標値：54.5%（R4年実績53.2%+1.3%） ・R6年実績：50.2% ・達成率：92.1% 輸送人員は目標達成、収入面では定期券の減少により達成できなかった。	通学定期券は苓岐市が50%補助していることから今後も苓岐市と連携し、1日フリー乗車券は島内及び観光客、仕事での来島者に向けてのHP,車両内外にラッピング等PR強化を図り増収に繋がるよう社内協議を行う。
対馬交通株式会社	1. 厳原～対馬病院線（厳原～鶏知～対馬病院間）の運行	便毎の利用客の状況（利用時間、目的地）を分析し、通院、通学、韓国旅行者の利用目的のしやすい時刻、他の路線から乗り継ぎが出来るよう時刻の見直しを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標値：63,164人（R4年度実績値の100.54%） ・R6年度実績：69,707人 ・達成率：110.36% 【運送収入】 ・目標値：15,403,782円（R4年度実績値の108.49%） ・R6年度実績：17,561,796円 ・達成率：114.01% 【収支率】 ・目標値：43.49%（R4年度の実績値＋1.04%） ・R6年度実績：47.13% ・達成率：108.37% 輸送人員及、運送収入、収支率ともに目標値及びR4年度実績いずれも上回る事ができた。	・調査結果に基づき、時間ごとの利用目的、集中する時間帯などダイヤの見直しを行うことにより、通院以外で利用客増を図る。 ・外部情報サイトGoogleマップ、NAVITIME等への情報掲載、新たに路線マップを作成し国内外旅行者も利用しやすいよう努め増収を図る。
対馬交通株式会社	2. 対馬病院～国際ターミナル線（対馬病院～空港・仁位～国際ターミナル間）の運行	国際ターミナルからの始発便が遅延した場合、航空便の利用が出来ない状態となっていた。関係者と協議をし、事前に連絡を入れることにより航空便利用が出来よう改善を行った。 また、高速船が再開され対馬観光物産協会カウンターにて、1日フリーパス券（韓国語表記）の販売を委託するとともに、韓国人向けパンフレットへの時刻表掲載等を依頼及び自社ホームページ内に韓国語表記も掲載し販売促進を行った。 韓国人観光客の利用が多いエリアの時刻表にはハングル表記追記し掲載を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標値：100,720人（R4年度実績値の100.54%） ・R6年度実績：101,015人 ・達成率：100.29% 【運送収入】 ・目標値：24,513,114円（R4年度実績値の108.49%） ・R6年度実績：29,996,319円 ・達成率：122.37% 【収支率】 ・目標値：33.37%（R4年度の実績値＋1.39%） ・R6年度実績：39.02% ・達成率：116.93% 輸送人員、運送収入、収支率ともに目標値及びR4年度実績いずれも上回る事ができた。	・外部情報サイトGoogleマップ、NAVITIME等への情報掲載、新たに路線マップを作成し国内外旅行者も利用しやすいよう努め増収を図る。 ・高速船が再開され始発で満車に近い状態となっており、優先席へハングル表記掲載を行い通院利用を抑えることがないよう努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月14日

協議会名:長崎県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
生月自動車㈱	1. 平戸高校線の運行	・R5.10月～運賃改正を計画で掲げたが、R5.10月の実施には間に合わせる事ができなかった。 ・春日・高越・獅子地区住民に平戸市補助制度を周知するための車内広告・回覧などにより周知を図り、買い物・通院・進学の輸送の増員を目指した。	B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	B 【輸送人員】 ・目標値:7,372人(R4年度実績値7,021人⇒5%増) ・達成率:92.1%(6,794人) 【運送収入】 ・目標値:2,739,000円(R4年度実績値:2,609,430円⇒5%増) ・達成率:77.7%(2,128,901円) 【収支率】 ・目標値:21.0%(R4年度実績値:20.7%⇒1.0%増) ・達成率:63.8%(13.2%) 人口減・少子化により収入も達成できず、また燃料高騰・物価高騰により、燃料代・修繕費など費用が大きく増加したことにより、収支率が目標を大きく下回る結果となった。	・市地域公共交通計画策定案件の調査分析を考慮しながら、人口減少・少子化により加速的に減っていく利用者数を最小限に留めるよう、自治体と連携しながら、1人でも多くの利用者を確保することに努める。 ・車両の老朽化また燃料・部品の高騰化による燃費・修繕費を改善する為に、車両の小型化・入替も想定しながら、費用の節約に努める。
JR九州バス㈱	1. 彼杵～武雄温泉駅線(彼杵～嬉野温泉駅～武雄温泉駅間)の運行	・バス運賃の見直し(運賃改定)を令和6年4月1日に実施した。平均改定率11%程度 初乗運賃160円→180円。 ・路線沿線自治体のイベントに参加し、チラシ配布やバスグッズの販売をしバスに慣れ親しんでもらうい、ご利用になる動機付けとして利用促進を行った。参加したイベント→佐賀駅バスセンターまつり	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【輸送人員】 ・目標値:33,049人(R4年度の実績値+1,322人) ・R6年度実績:51,707人 ・達成率:156.5% 【経常収益】 ・目標値:16,050,722円(R4年度の実績値+508,801円) ・R6年度実績:16,115,372円 ・達成率:100.4% 【収支率】 ・目標値:28.8%(R4年度の実績値+1%) ・R6年度実績:24.0% ・達成率:83.3% 運送収入、輸送人員は増加し、経常収益は目標達成したが、給与ベースアップ実施や燃料費高騰で経費が増えたことで、、収支率については達成できなかった。	新型コロナウイルスが落ち着き、輸送人員は増加しているものの、輸送人員が回復しきれていない路線であり、利用促進の広報活動を今後も継続していく。 また、地元利用客はもとより観光客の移動手段としての交通網として、新幹線との接続等事業者と沿線自治体が一体となって検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
熊本県地域 公共交通協 議会	熊本バス(株) 産交バス(株) 熊本電気鉄道(株) 西鉄バス大牟田(株) 南国交通(株)	35系統 ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価: 21系統 B評価: 14系統 C評価: 0系統	A評価: 20系統 B評価: 5系統 C評価: 10系統 【参考: 前年度】 A評価: 26系統 B評価: 6系統 C評価: 2系統	別添一次評価 のとお	運転者や事務員など人手不足が進む中、バスの乗り方教室の開催、MaaSアプリを活用したデジタルチケットの販売、「バス・電車無料の日」の開催、沿線市町村と連携した路線図・時刻表の作成・配布等による広報活動等利用促進に取り組まれていることを評価します。 目標達成に向けた今回の取組みについては、具体的な取組みの結果やその効果に加え、工夫した内容などについても記録されると、より効果的な改善につながるものと思慮されます。 目標を達成できた系統と達成できていない系統がありますが、それぞれの要因について分析し、評価書に記録することは重要です。一部の系統において人口減少や燃料高騰の影響を受けていますが、地域の実情を考慮のうえ、その他に原因がないかどうかについても分析し、その他要因への改善点を検討いただくと、より効果的な改善につながることを期待されます。 さらに、目標を達成できた系統、要因の分析や取組みの改善が良くできている系統については、他系統においても参考・活用されることを期待します。 今後は、アフターコロナを見据えた目標設定や評価指標の見直しも検討いただきながら、県と市町村が連携を図り事業者や住民と共に地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、地域の特性・実情に最適な交通手段が確保・維持されることを期待します。	評価指標 【一日当たり 輸送人員】 【行政負担 額】 【収支率】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月23日

協議会名:	熊本県地域公共交通協議会
評価対象事業名:	令和6年度 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊本バス(株)	1 直行線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標26.6人/日に対して31.1人/日であった。 ②目標43,288千円に対して40,202千円であった。 ③目標49.17%に対して50.69%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。特に通潤橋の国宝指定により観光目的の利用が増加した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、九州Maasに参画し、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても周知を行っていく。
熊本バス(株)	2 砥用線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標15.0人/日に対して23.9人/日であった。 ②目標20,241千円に対して14,731千円であった。 ③目標45.64%に対して62.31%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、九州Maasに参画し、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても周知を行っていく。
熊本バス(株)	3 辺場・甲佐線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標21.4人/日に対して30.2人/日であった。 ②目標15,125千円に対して11,671千円であった。 ③目標57.09%に対して70.58%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学とも利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、九州Maasに参画し、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても周知を行っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊本バス(株)	4 御船・甲佐線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標26.0人/日に対して39.5人/日であった。 ②目標20,455千円に対して15,982千円であった。 ③目標52.77%に対して69.90%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学利用や観光目的での利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、九州Maasに参画し、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても周知を行っていく。
熊本バス(株)	5 健軍・砥用線	沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標15.5人/日に対して20.6人/日であった。 ②目標19,880千円に対して17,412千円であった。 ③目標48.14%に対して56.19%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、九州Maasに参画し、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても周知を行っていく。
熊本バス(株)	6 健軍線	沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標34.5人/日に対して51.8人/日であった。 ②目標23,095千円に対して19,304千円であった。 ③目標56.87%に対して72.95%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学とも利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、九州Maasに参画し、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても周知を行っていく。
熊本バス(株)	7 健軍・イオン線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線の大型商業施設と連携した取り組みを行い、利用促進に努めた。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標15.0人/日に対して23.5人/日であった。 ②目標9,856千円に対し8,303千円であった。 ③目標49.16%に対して69.37%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学や買い物目的の利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊本バス(株)	8 宇土線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線の大型商業施設と連携した取り組みを行い、利用促進に努めた。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標15.1人/日に対して20.3人/日であった。 ②目標5,192千円に対し2,957千円であった。 ③目標69.11%に対して82.22%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
熊本バス(株)	9 松橋線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標16.2人/日に対して24.7人/日であった。 ②目標8,950千円に対し4,908千円であった。 ③目標59.58%に対して79.51%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
熊本バス(株)	10 画図線	沿線の大型商業施設と連携した取り組みを行い、利用促進に努めた。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標15.0人/日に対して24.7人/日であった。 ②目標6,886千円に対し4,804千円であった。 ③目標62.28%に対して94.05%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学とも利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
熊本バス(株)	11 乙女線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線自治体と共同でバスの乗り方教室を開催し利用促進に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	①目標17.4人/日に対して30.0人/日であった。 ②目標19,790千円に対し15,920千円であった。 ③目標44.87%に対して65.02%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学とも利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊本バス(株)	12 中病・イオン線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。また、沿線の大型商業施設と連携した取り組みを行い、利用促進に努めた。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標31.5人/日に対して45.9人/日であった。 ②目標6,730千円に対し5,209千円であった。 ③目標69.05%に対して87.62%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
熊本バス(株)	13 江津・イオン線	沿線の大型商業施設と連携した取り組みを行い、利用促進に努めた。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標36.8人/日に対して54.3人/日であった。 ②目標8,215千円に対し4,938千円であった。 ③目標80.09%に対して103.17%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
熊本バス(株)	14 セイラ・イオン線	沿線の大型商業施設と連携した取り組みを行い、利用促進に努めた。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標31.3人/日に対して56.5人/日であった。 ②目標9,699千円に対し6,233千円であった。 ③目標64.37%に対して100.86%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。新興住宅地で人口や店舗等も増えている地域であり、共通定期券を利用した通勤・通学とも利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
熊本バス(株)	15 城南・志導寺線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標15.0人/日に対して23.3人/日であった。 ②目標5,428千円に対し3,622千円であった。 ③目標72.07%に対して96.32%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学や買い物目的の利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊本バス(株)	16 健軍電停・イオン線	沿線の大型商業施設と連携した取り組みを行い、利用促進に努めた。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標15.0人/日に対して18.2人/日であった。 ②目標8,532千円に対し8,050千円であった。 ③目標41.34%に対して47.78%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
熊本バス(株)	17 田迎・城南線	現状に即したダイヤ及び運行時分の適正化を図った。人員確保及び日程調整ができず、乗り方教室の実施には至らなかった。	B	乗り方教室が開催できなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	A	①目標25.5人/日に対して57.6人/日であった。 ②目標5,300千円に対し4,697千円であった。 ③目標67.85%に対して129.92%であった。 コロナ禍からの回復により人流が活発となり、輸送量が増加し、収支率の改善に繋がり、補助金の行政負担額は減少した。共通定期券を利用した通勤・通学や買い物目的の利用が増加傾向にあった。	引き続き関係自治体と連携した乗り方教室等の利用促進を図る。また、デジタルチケットを活用した観光目的での利用方法についても広報活動を行っていく。
産交バス(株)	1 健軍・東無田經由 熊本・御船線	観光利用も含めたPRとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。また、御船町と協力し、バスの乗車体験及び乗り方教室を実施し利用促進活動を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	輸送量目標が15.0人/日に対し、18.0人/日であった。また、行政負担額目標が17,068千円に対し、16,729千円であった。収支率目標が38.75%に対し、40.32%であった。 利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増え、収支率が改善した。欠損額に対する補助割合が減少し事業者負担額が増加したことで、行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携し、バスの乗車体験及び乗り方教室などを行い、利用促進を図っていく。
産交バス(株)	2 河内經由 熊本・小天線	観光利用も含めたPRとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。また、学校での定期券申込用紙の配布を行い、学生へバス利用の周知を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	輸送量目標が34.5人/日に対し、44.8人/日であった。また、行政負担額目標が22,268千円に対し、27,114千円であった。収支率目標が49.63%に対し、49.97%であった。 利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増え、収支率が改善した。しかし、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、行政負担額は増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。幼稚園・学校・高齢者団体などでの乗り方教室開催の積極的な展開を行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
産交バス(株)	3 植木・大倉経由 熊本・玉名線	観光利用も含めたPRとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。また、学校での定期券申込用紙の配布を行い、学生へバス利用の周知を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	輸送量目標が16.8人/日に対し、20.1人/日であった。また、行政負担額目標が17,108千円に対し、18,182千円であった。収支率目標が48.89%に対し、44.29%であった。利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増えたものの、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、収支率は悪化し、行政負担額は増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。幼稚園・学校・高齢者団体などでの乗り方教室開催の積極的な展開を行う。
産交バス(株)	4 菊池経由 山鹿・大津線	対象路線ではないものの、観光利用も含めたバス利用のきっかけ作りとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。開催に必要な人員確保ができず、乗り方教室などの実施までに至らなかった。	B	実施に必要な人員確保ができず、一部事業の実施ができなかった。	B	輸送量目標が20.4人/日に対し、26.9人/日であった。また、行政負担額目標が56,382千円に対し、56,080千円であった。収支率目標が31.47%に対し、29.96%であった。利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増えたものの、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、収支率の改善に至らなかった。欠損額に対する補助割合が減少し事業者負担額が増加したことで、行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。沿線の学校へバス利用に関する広報活動の実施などに取り組んでいく。
産交バス(株)	5 手野・二江経由 本渡・富岡線	方面別の時刻表をバスセンターなどで配布し、観光利用のPRを含めて周知活動を実施した。また、小学生を対象とした乗り方教室を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	輸送量目標が15.0人/日に対し、22.2人/日であった。また、行政負担額目標が69,231千円に対し、49,663千円であった。収支率目標が25.89%に対し、28.42%であった。利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増え、収支率が改善した。令和5年4月に利用状況に応じた路線見直しに伴い、実車キロ・欠損額が減ったことで、行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。利用状況を見ながら、他の路線も含めた該当地域のバス路線について、継続して協議していく。
産交バス(株)	6 労働庁舎経由 本渡・鬼池線	方面別の時刻表をバスセンターなどで配布し、観光利用のPRを含めて周知活動を実施した。また、小学生を対象とした乗り方教室を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	輸送量目標が15.0人/日に対し、4.9人/日であった。また、行政負担額目標が22,792千円に対し、14,325千円であった。収支率目標が23.16%に対し、17.03%であった。利用促進取組を実施したものの、輸送量・収入が減少し、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、収支率が悪化した。令和5年4月に利用状況に応じた路線見直しに伴い、実車キロ・欠損額が減ったことで、行政負担額は減少した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。利用状況を見ながら、他の路線も含めた該当地域のバス路線について、継続して協議していく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
産交バス(株)	7 一町田中央・久玉経由 本渡・牛深線	方面別の時刻表をバスセンターなどで配布し、観光利用のPRを含めて周知活動を実施した。また、小学生を対象とした乗り方教室を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	輸送量目標が15.0人/日に対し、13.8人/日であった。また、行政負担額目標が98,415千円に対し、116,922千円であった。収支率目標が19.72%に対し、15.64%であった。利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増えたものの、目標の15.0人までには至らなかった。人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、収支率は悪化し、行政負担額は増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。沿線の学校へ定期券販売説明会の開催や小中学生や高齢者等を対象とした乗り方教室の実施などに取り組んでいく。
産交バス(株)	8 桜山経由 玉名市役所・荒尾線	観光利用も含めたPRとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。また、学校での定期券申込用紙の配布や、幼稚園・保育園を対象とした乗り方教室を実施し、バス利用の周知を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	輸送量目標が24.7人/日に対し、25.9人/日であった。また、行政負担額目標が32,005千円に対し、38,876千円であった。収支率目標が39.17%に対し、31.38%であった。利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増えたものの、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、収支率は悪化し、行政負担額は増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。幼稚園・学校・高齢者団体などでの乗り方教室開催の積極的な展開を行う。
産交バス(株)	9 堅志田経由 松橋・砥用線	対象路線ではないものの、観光利用も含めたバス利用のきっかけ作りとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。開催に必要な人員確保ができず、乗り方教室などの実施までに至らなかった。	B	実施に必要な人員確保ができず、一部事業の実施ができなかった。	C	輸送量目標が15.0人/日に対し、12.8人/日であった。また、行政負担額目標が37,303千円に対し、46,466千円であった。収支率目標が26.73%に対し、18.55%であった。利用促進取組を実施したものの、輸送量・収入が減少し、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、収支率が悪化した。欠損額の増加に伴い、行政負担額も増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく、利用状況に応じて時刻などの運行内容見直しを検討していく。また、沿線の学校へ定期券販売説明会の開催や学生等を対象とした乗り方教室の実施などに取り組んでいく。
産交バス(株)	10 日奈久経由 八代・田浦線	対象路線ではないものの、観光利用も含めたバス利用のきっかけ作りとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。開催に必要な人員確保ができず、乗り方教室などの実施までに至らなかった。	B	実施に必要な人員確保ができず、一部事業の実施ができなかった。	C	輸送量目標が15.0人/日に対し、18.9人/日であった。また、行政負担額目標が36,699千円に対し、43,166千円であった。収支率目標が22.04%に対し、18.43%であった。利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増えたものの、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、収支率は悪化し、行政負担額は増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。関係自治体と協力し公共交通に関するイベントなどを実施していく。また、他の交通機関との情報共有や調整を実施し、利便性の向上を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
産交バス(株)	11 道尻経由 阿蘇環状線	対象路線ではないものの、観光利用も含めたバス利用のきっかけ作りとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。開催に必要な人員確保ができず、乗り方教室などの実施までに至らなかった。	B	実施に必要な人員確保ができず、一部事業の実施ができなかった。	B	輸送量目標が15.2人/日に対し、31.7人/日であった。また、行政負担額目標が31,988千円に対し、33,228千円であった。収支率目標が17.39%に対し、20.43%であった。観光客の増加や利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増え、収支率が改善した。しかし、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、行政負担額は増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。観光客に向けた情報発信などを実施し、観光利用の促進も行っていく。
産交バス(株)	12 テクノ団地経由 熊本・高森線	対象路線ではないものの、観光利用も含めたバス利用のきっかけ作りとして「バス・電車無料の日」の開催の実施・広報を行った。開催に必要な人員確保ができず、乗り方教室などの実施までに至らなかった。	B	実施に必要な人員確保ができず、一部事業の実施ができなかった。	B	輸送量目標が17.1人/日に対し、22.6人/日であった。また、行政負担額目標が11,979千円に対し、15,770千円であった。収支率目標が58.87%に対し、63.68%であった。利用促進取組などの結果、輸送量・収入が増加し、収支率が改善した。しかし、人件費や物価高騰の影響による経常費用の増加により、行政負担額は増加した。	引き続き関係自治体と連携し、利用促進を図っていく。高森町内のバスとの接続強化を図るなど、利便性の向上に取り組む。
熊本電気鉄道(株)	1 377新地団地線 (合志市役所)	前年度事業評価の結果等も踏まえ、自治体のみならず学校等との連携やPRを強化。沿線の高校・大学への共通定期券のチラシや新入生を対象とした時刻表の配布・案内等も行い、前年度よりも活発な周知活動を行った。	A	左記した自治体との連携や沿線学校へのチラシ配布や案内等のPR強化に加え、前年度より引き続き実施された無料の日等の利用促進策も有効に活用できたと考えている	A	一日当たりの輸送量や行政負担額、収支率の全項目において目標を達成できた。コロナ禍からの立ち直りのみならず、事業計画を概ね計画通りに実施できた事が大きな要因。	熊本地区では全国相互利用交通系ICカードより離脱し、タッチ決済導入への移行を決めているが、沿線に多くの高校・大学を抱える当社・当該路線においては定期券の利用促進を更に図っていく事が事業において必須事項。タッチ決済のみならず、「くまモンのICカード」の利用促進を図る事を念頭にPR活動を更に強化したい。
西鉄バス大牟田(株)	1 西鉄大牟田営業所～大牟田市立病院・上町～庄山	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(大牟田市市内5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C	目標値15.0人/日に対して10.6人/日であった。 収支率27.09%に対して26.07%の△1.02%であった。 コロナ禍からの一定の回復はあるものの、生活様式の移り変わり等もあり、以前の水準には戻り切れていない状況。	輸送量が15.0人を下回っているため、本システムの今後の在り方について沿線自治体と継続協議を行っていく。 ◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」について大牟田市・福岡県と連携し、更なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、利用促進を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス大牟田(株)	2 西鉄大牟田営業所～延命 公園動物園前・大牟田市立病 院・新大牟田駅～南関町役場	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(大牟田市5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・新大牟田駅での接続の見直し及び、新大牟田駅乗り入れ 系統新設 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A	事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた	C	目標値36.9人/日に対して35.6人/日であった。 収支率39.26%に対して36.06%の△3.2%で あった。 コロナ禍からの一定の回復はあるものの、生活 様式の移り変わり等もあり、以前の水準には戻 り切れていない状況。	◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バス きっぷ」について大牟田市・福岡県と連携し、更 なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連 絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、 利用促進を図る。
西鉄バス大牟田(株)	3 荒尾駅～右京町～大牟田 駅～久福木団地	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(大牟田市5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A	事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた	C	目標値38.3人/日に対して39.3人/日であった。 収支率66.14%に対して64.47%の△1.67%で あった。 コロナ禍からの一定の回復はあるものの、生活 様式の移り変わり等もあり、以前の水準には戻 り切れていない状況。	◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バス きっぷ」について大牟田市・福岡県と連携し、更 なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連 絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、 利用促進を図る。
西鉄バス大牟田(株)	4 荒尾駅～天領橋～大牟田 駅～高泉団地～三池中町	◇実施できたこと ・イベント等でのバス出展や運転士体験会の実施 ・バス教室の実施(大牟田市5校) ・イベント及びバス教室でのチラシ配布 ・「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」販売延長(電子券) ・デジタルスタンプラリーの実施 ・利用促進事業の実施 ・子ども50円バス、子ども無料バスの実施 ・シーズン毎のバス車内装飾	A	事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた	C	目標値39.1人/日に対して40.1人/日であった。 収支率70.12%に対して68.88%の△1.24%で あった。 コロナ禍からの一定の回復はあるものの、生活 様式の移り変わり等もあり、以前の水準には戻 り切れていない状況。	◇利用促進 福岡県Maasの取り組みとしてデジタル券(my route)へ移行した「おおむた1日乗り放題バス きっぷ」について大牟田市・福岡県と連携し、更 なるPRに努め利用促進を図る。 また、九州Maasの一環として作成した「島原連 絡乗車券」デジタル券(my route)のPRを行い、 利用促進を図る。
南国交通(株)	1 水俣線 (佐潟口・水俣車庫線)	令和5年12月に運賃改定を実施	A	計画通り事業は適切に実 施された	B	目標15.9人/日に対して34.9人/日であった。 経常収支率についてはR4実績23.0%、R6目標 値25.2%に対し、R6実績値は47.09%となり改 善となった。 行政負担額については、目標値34,445であった が、実績額が35,927となり未達成となった。	路線の維持に努め、令和7年4月に当該系統 における初乗運賃160円を200円へ改定する ことにより増収を見込む

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
大分県地域 公共交通活 性化協議会	大分バス(株) 大分交通(株) 大交北部バス(株) 亀の井バス(株) JR九州バス(株)	12系統 ※詳細は別 添一次評価 のとおり	別添一次評価の とおり	A評価: 12系統 B評価: 0系統 C評価: 0系統	A評価: 5系統 B評価: 6系統 C評価: 1系統 【参考: 前年度】 A評価: 4系統 B評価: 6系統 C評価: 1系統	別添一次評価 のとおり	運転者や事務員など人手不足が進む中、企画乗車券の販売やPR、大分県の各圏地域公共交通計画に基づいた運行ルートやダイヤの見直しを行い、運行効率の改善に取り組まれていることを評価します。 目標達成に向けた今回の取組みについては、具体的な取組みの結果やその効果に加え、工夫した内容などについても記録されると、より効果的な改善につながるものと思慮されます。 目標を達成できた系統と達成できていない系統がありますが、それぞれの要因について分析し、評価書に記録することは重要です。一部の系統において減便の影響を受けて、輸送人員が減少しておりますが、地域の実情を考慮のうえ、その他に原因がないかどうかについても分析し、その他要因への改善点を検討いただくと、より効果的な改善につながることを期待されます。 さらに、目標を達成できた系統、要因の分析や取組みの改善が良くできている系統については、他系統においても参考・活用されることを期待します。 今後は、アフターコロナを見据えた目標設定や評価指標の見直しも検討いただきながら、県と市町村が連携を図り事業者や住民と共に地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、地域の特性・実情に最適な交通手段が確保・維持されることを期待します。	評価指標 【輸送人員】 【運送収入】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:大分県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大分バス(株) 臼杵線	金池ターミナル ～県立病院 ～臼杵港フェリーターミナル	「大分県豊肥圏地域公共交通計画」、「大分県豊肥圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行い、運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。 【目標:計画運行回数】 2,325.0 【実績:実績運行回数】 2,344.0	B 目標を概ね達成できた。(乗務員不足によるダイヤ改正・減便等から輸送人員、運送収入ともに目標を下回る結果となったが、5%程度減のレベルには達している。) ・輸送人員 【目標】148,301人 【実績】141,947人 (達成度95.7%) ・運送収入 【目標】33,031,479円 【実績】31,870,563円 (達成度96.4%)	令和3年9月に策定した「大分県豊肥圏地域公共交通計画」及び「大分県豊肥圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為の各種利用拡大策にバス事業者、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。
大分バス(株) 伯大線	金池ターミナル ～県立病院入口 ～佐伯駅 【車両導入】 R元:1台 R2:1台 R3:1台 R4:0台 R5:0台	「大分県南部圏地域公共交通計画」、「大分県南部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行い、運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(運休した回数は、全て、要綱に定めるやむを得ない事情として認められたもの)。 【目標:計画運行回数】 1,460.0 【実績:実績運行回数】 1,452.0	C 目標を達成できなかった。(乗務員不足によるダイヤ改正・減便等から輸送人員、運送収入ともに目標を下回る結果となった。) ・輸送人員 【目標】86,243人 【実績】59,983人 (達成度69.5%) ・運送収入 【目標】31,916,336円 【実績】24,499,350円 (達成度76.7%)	令和3年9月に策定した「大分県南部圏地域公共交通計画」及び「大分県南部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為の各種利用拡大策にバス事業者、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:大分県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大分バス(株) 佐賀関線	大分駅前 ～鶴崎 ～佐賀関 【車両導入】 R元:1台 R2:1台 R3:1台 R4:0台 R5:0台 R6:2台	「大分県中部圏地域公共交通 網形成計画」、「大分県中部圏 地域公共交通再編実施計画」 の進捗管理を適切に行い、運 行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に 実施された(運休した回数 は、全て、要綱に定めるや むを得ない事情として認め られたもの)。 【目標:計画運行回数】 5,338.0 【実績:実績運行回数】 5,306.0	B 目標を概ね達成した。(乗務 員不足によるダイヤ改正・ 減便等から輸送人員は目 標を下回る結果となっ たが、1%程度減のレベルに達 した。) 【目標】 363,225人 【実績】 361,010人 (達成度99.3%) ・運送収入 【目標】 69,597,031円 【実績】 78,557,876円 (達成度112.8%)	令和5年3月に策定した「大分県 中部圏地域公共交通計画」、 「大分県中部圏地域公共交 通利便増進実施計画」の進捗管 理を適切に行うとともに、バス 利用者の回復の為の各種利用 拡大策にバス事業者、市町村 等と連携して取り組み、バスの 利用促進を図る。
大分交通(株) 国大線	大分駅前 ～田深 ～国東 【車両導入】 R元:1台 R2:1台 R3:1台 R4:1台 R5:1台	「大分県東部圏地域公共交 通網形成計画」、「大分県東部圏 地域公共交通利便増進実施計 画」の進捗管理を適切に行い、 運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に 実施された(運休した回数 は、全て、要綱に定めるや むを得ない事情として認め られたもの)。 【目標:計画運行回数】 1,946.0 【実績:実績運行回数】 1,936.0	A 目標を達成した。(乗務員不 足によるダイヤ改正・減便 を行ったものの、いずれの 目標も達成した。) ・輸送人員 【目標】 128,650人 【実績】 151,761人 (達成度118.0%) ・運送収入 【目標】 27,655,174円 【実績】 28,105,161円 (達成度101.6%)	当初の目標は達成したものの、 採算性の課題や乗務員不足に より、令和6年10月より休止路 線となった。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:大分県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大分交通(株) 別大線	大分駅前 ～関の江車庫前 【車両導入】 R6:1台	「大分県中部圏地域公共交通 網形成計画」、「大分県中部圏 地域公共交通再編実施計画」 の進捗管理を適切に行い、運 行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に 実施された(運休した回数 は、全て、要綱に定めるや むを得ない事情として認め られたもの)。 【目標:計画運行回数】 4,282.5 【実績:実績運行回数】 4,257.5	A 目標を達成した。(乗務員不 足によるダイヤ改正・減便 を行ったものの、いずれの 目標も達成した。) ・輸送人員 【目標】 126,325人 【実績】 169,474人 (達成度134.1%) ・運送収入 【目標】 20,584,534円 【実績】 25,973,831円 (達成度126.1%)	令和5年3月に策定した「大分県 中部圏地域公共交通計画」、 「大分県中部圏地域公共交 通利便増進実施計画」の進捗管 理を適切に行うとともに、バス 利用者の回復の為の各種利用 拡大策にバス事業者、市町村 等と連携して取り組み、バスの 利用促進を図る。
大分交通(株) 鉄輪線	大分駅前 ～石垣8丁目 鉄輪温泉 【車両導入】 R6:1台	「大分県中部圏地域公共交通 網形成計画」、「大分県中部圏 地域公共交通再編実施計画」 の進捗管理を適切に行い、運 行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に 実施された(運休した回数 は、全て、要綱に定めるや むを得ない事情として認め られたもの)。 【目標:計画運行回数】 2,687.5 【実績:実績運行回数】 2,676.5	B 目標を概ね達成した。(乗務 員不足によるダイヤ改正・ 減便等から運送収入は目 標を下回る結果となった が、6%程度減のレベルに達 した。) ・輸送人員 【目標】 141,277人 【実績】 147,562人 (達成度104.4%) ・運送収入 【目標】 24,306,693円 【実績】 22,846,812円 (達成度93.9%)	令和5年3月に策定した「大分県 中部圏地域公共交通計画」、 「大分県中部圏地域公共交 通利便増進実施計画」の進捗管 理を適切に行うとともに、バス 利用者の回復の為の各種利用 拡大策にバス事業者、市町村 等と連携して取り組み、バスの 利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:大分県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大交北部バス(株) 中日線	中津駅前 ～新万田・旬菜館 ～守実温泉	「大分県北部圏地域公共交通計画」、「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行い、運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(運休した回数は、全て、要綱に定めるやむを得ない事情として認められたもの)。 【目標:計画運行回数】 3,390.0 【実績:実績運行回数】 3,361.0	B 目標を概ね達成した。(輸送人員は目標を下回る結果となったが、5%程度減のレベルに達した。) ・輸送人員 【目標】 76,120人 【実績】 72,503人 (達成度95.2%) ・運送収入 【目標】 21,790,019円 【実績】 23,611,529円 (達成度108.3%)	令和3年9月に策定した「大分県北部圏地域公共交通計画」及び「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為に各種利用拡大策にバス事業者、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。
大交北部バス(株) 中安線	安心院 ～下田の口 ～中津駅前	「大分県北部圏地域公共交通計画」、「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行い、運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(運休した回数は、全て、要綱に定めるやむを得ない事情として認められたもの)。 【目標:計画運行回数】 2,426.0 【実績:実績運行回数】 2,407.0	A 目標を達成した。(人流が回復し、いずれの目標も達成した。) ・輸送人員 【目標】 49,273人 【実績】 64,711人 (達成度130.1%) ・運送収入 【目標】 13,608,339円 【実績】 17,940,768円 (達成度131.8%)	令和3年9月に策定した「大分県北部圏地域公共交通計画」及び「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為に各種利用拡大策にバス事業者、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:大分県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大交北部バス(株) 国道中高線	豊後高田 ～宇佐駅・宇佐市役所 ～四日市	「大分県北部圏地域公共交通計画」、「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行い、運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(運休した回数は、全て、要綱に定めるやむを得ない事情として認められたもの)。 【目標:計画運行回数】 3,106.5 【実績:実績運行回数】 3,083.5	A 目標を達成した。(乗務員不足によるダイヤ改正・減便を実施したが、いずれの目標も達成した。) ・輸送人員 【目標】 48,507人 【実績】 57,377人 (達成度118.2%) ・運送収入 【目標】 7,980,407円 【実績】 8,557,071円 (達成度107.2%)	令和3年9月に策定した「大分県北部圏地域公共交通計画」及び「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為の各種利用拡大策にバス事業者、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。
大交北部バス(株) 伊美線	宇佐駅前 ～竹田津港・伊美港 ～伊美	「大分県北部圏地域公共交通計画」、「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行い、運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(運休した回数は、全て、要綱に定めるやむを得ない事情として認められたもの)。 【目標:計画運行回数】 2,253.0 【実績:実績運行回数】 2,234.0	B 目標を概ね達成した。(乗務員不足によるダイヤ改正・減便等から輸送人員は目標を下回る結果となったが、10%程度減のレベルに達した。) ・輸送人員 【目標】 32,817人 【実績】 29,812人 (達成度90.8%) ・運送収入 【目標】 11,325,050円 【実績】 13,594,047円 (達成度120.0%)	令和3年9月に策定した「大分県北部圏地域公共交通計画」及び「大分県北部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為の各種利用拡大策にバス事業者、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:大分県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
亀の井バス(株) サファリ線	別府駅西口 ～鉄輪・APU ～サファリ	「大分県中部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県中部圏地域公共交通再編実施計画」の進捗管理を適切に行い、運行効率の改善等を図った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(運休した回数は、全て、要綱に定めるやむを得ない事情として認められたもの)。 【目標:計画運行回数】 2,196.0 【実績:実績運行回数】 2,172.0	A 目標を達成した。(観光施設に接続する路線であり、インバウンド需要の回復により、いずれの目標も達成した。) ・輸送人員 【目標】 57,077人 【実績】 119,621人 (達成度209.5%) ・運送収入 【目標】 18,062,187円 【実績】 42,143,592円 (達成度233.3%)	令和5年3月に策定した「大分県中部圏地域公共交通計画」、「大分県中部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為の各種利用拡大策にバス事業者、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。
JR九州バス(株) 添田駅～日田駅	添田駅 ～日田駅	新規路線のため「大分県西部圏地域公共交通計画」、「大分県西部圏地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、沿線自治体と協力した利用促進策を行った。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(運休した回数は、全て、要綱に定めるやむを得ない事情として認められたもの)。 【目標:計画運行回数】 3,660.0 【実績:実績運行回数】 3,635.5	B 目標を概ね達成した。(鉄道時代(H28)の数値を参考に目標を設定したが、BRT初年度の実績は、約半数にとどまった。) ・輸送人員 【目標】 105,812人 【実績】 55,493人 (達成度52.4%) ・運送収入 【目標】 18,062,187円 【実績】 18,944,215円 (達成度104.8%)	令和3年3月に策定した「大分県西部圏地域公共交通計画」、「大分県西部圏地域公共交通利便増進実施計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の回復の為の各種利用拡大策にバス事業者、福岡県、市町村等と連携して取り組み、バスの利用促進を図る。 鉄道からのモード転換による新規路線のため、BRT初年度の運行実績を踏まえ、適正な目標値の設定を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月15日

協議会名:大分県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(本協議会における評価基準) ●計画に対して ・A…計画どおり、あるいはほぼ計画どおりに運行された。 ・B…計画に対してほぼ90%以上は運行された。 ・C…計画に対してほぼ90%以下の運行にとどまった。または、系統廃止となった。 ●目標・効果に対して ・A…いずれの目標も達成した。 ・B…いずれかの目標を達成した。または、いずれの目標も達成していないが、いずれも目標に対しておよそ20%程度減のレベルまでは達成している。 ・C…いずれの目標も達成しておらず、目標に対しておよそ20%程度減のレベルまでも達成していない。			ー 運行計画については、全11系統、計画どおり運行されており、事業は適切に実施された。	●輸送人員及び運送収入 前年度実績値に沿線人口の直近3か年の平均増減率を乗じた値を維持する。 ●車両導入系統(目標・効果達成状況は上記と同様) 前年度実績値に沿線人口の直近3か年の平均増減率を乗じた値を維持する。 ▶大分バス(株):8台 R元:1台 伯大線 1台 佐賀関線 R2 :1台 伯大線 1台 佐賀関線 R3 :1台 伯大線 1台 佐賀関線 R4 :0台 R5 :0台 R6 :2台 佐賀関線 ▶大分交通(株):6台 R元:1台 国大線 R2 :1台 国大線 R3 :1台 国大線 R4 :1台 国大線 R5 :1台 国大線 R6 :1台 別大線・鉄輪線	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
宮崎県地域 公共交通協 議会	宮崎交通(株) 鹿児島交通(株)	22系統 ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価：20系統 B評価：2系統 C評価：0系統	A評価：11系統 B評価：11系統 C評価：0系統 【参考：前年度】 A評価：12系統 B評価：12系統 C評価：0系統	別添一次評価 のとお	運転者や事務員など人手不足が進む中、沿線学校へのPRやバスの乗り方教室の開催、商業施設と連携したものや高齢者を対象とした企画乗車券の販売、SNSを活用した広報活動等利用促進に取り組まれていることを評価します。 目標達成に向けた今回の取組みについては、具体的な取組みの結果やその効果に加え、工夫した内容などについても記録されると、より効果的な改善につながるものと思慮されます。 目標を達成できた系統と達成できていない系統がありますが、それぞれの要因について分析し、評価書に記録することは重要です。記録にあたっては、地域の実情を考慮のうえ、その他に原因がないかどうかについても分析し、その他要因への改善点を検討いただくと、より効果的な改善につながることを期待されます。 さらに、目標を達成できた系統、要因の分析や取組みの改善が良くできている系統については、他系統においても参考・活用されることを期待します。 今後は、アフターコロナを見据えた目標設定や評価指標の見直しも検討いただきながら、県と市町村が連携を図り事業者や住民と共に地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、地域の特性・実情に最適な交通手段が確保・維持されることを期待します。	評価指標 【収支率】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月23日

協議会名：宮崎県地域公共交通協議会
評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況					⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
						評 価	収支改善率(%)					
							前年度 収支率 (A)	今年度 収支率 (B)	収支改善 率 (B－A)	理由		
宮崎交通(株)	1	イオンタウン日向～ 一ヶ岡・大福良団 地～レーヨン	左の系統の運行 R2車両導入1台 R3車両導入2台 R4車両導入1台 R5車両導入2台	【取組実績】 ・沿線の商業施設等へのホリデーパスのPRを行った。 ・路線バス未利用者の掘り起しを図るため、提携店と連携し、県北周遊バスパックの販売(販売数:680セット)を実施した。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	46.1%	46.1%	0.0%	収益は増加したが、経費も同様に増加し横ばいとなった。	・土日祝日限定で近郊エリアを1日乗り放題で利用出来るホリデーパスのPRを行う。 ・悠々バス購入補助のPRを行う。 ・イベント時の乗り方教室やバスの展示で、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。
宮崎交通(株)	2	宮交シティ～高鍋 駅～高鍋	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入3台	【取組実績】 ・JRと併用可能なデジタルチケットを活用し、沿線施設の特典付与を用いることで利用促進を図った。 ・宮崎市内や高鍋町内の小学校でのバスの乗り方教室を通じ、将来的なバスの利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	72.1%	74.0%	1.9%	経費も増加していたが、利用促進施策により利用者が増加したため収支率が改善した。	・沿線の保育園や小学校で乗り方教室を実施し、校外学習や遠足で利用してもらう。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典付与の活用、告知強化に取り組む。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利用促進を図る。
宮崎交通(株)	3	宮交シティ～高鍋 ～木城温泉館湯ら ら	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入3台	【取組実績】 ・当該路線利用者へ木城温泉館湯ららの入浴割引を引き続き実施し、チラシ作成・月報等でその告知を行った。 ・JRと併用可能なデジタルチケットを活用し、沿線施設の特典付与を用いることで利用促進を図った。 ・木城町内のイベントにおいて、乗り方教室を実施し、公共交通への理解を深め、利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	78.9%	77.7%	-1.2%	利用促進策を行ったが、経費が増加したため収支率はR5年度を若干下回る結果となった。	・沿線の保育園や小学校で乗り方教室を実施し、校外学習や遠足で利用してもらう。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、告知強化に取り組む。 ・当該路線利用者へ木城温泉湯ららで利用可能な特典の付与。 ・イベント時の乗り方教室やバスの展示で、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。 ・木城おでかけバスカの告知を行い利用促進を図る。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利用促進を図る。
宮崎交通(株)	4	宮交シティ～光陽 台	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入5台	【取組実績】 ・JRと併用可能なデジタルチケットを活用し、沿線施設の特典付与を用いることで利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	94.1%	89.1%	-5.0%	利用促進策を行ったが、運送収入が減少したため収支率はR5年度を下回る結果となった。	・敬老バスカの利用促進のため、宮崎市にチラシの提供を行い告知を強化する。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、告知強化に取り組む。 ・イベント時の乗り方教室やバスの展示で、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利用促進を図る。
宮崎交通(株)	5	延岡駅～青雲橋・ 日之影町立病院～ 高千穂	左の系統の運行 R2車両導入1台 R3車両導入2台 R4車両導入1台 R5車両導入2台	【取組実績】 ・当該路線で客貨混載を実施し、生産性の向上を図った。 ・24時間有効の往復デジタルチケットを販売し、観光客の誘客、及び県内での周遊・滞在促進を図った。 ・路線バス未利用者の掘り起しを図るため、提携店と連携し、県北周遊バスパックの販売(販売数:680セット)を実施した。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	36.1%	37.6%	1.5%	経費も増加していたが、利用促進施策や観光需要により利用者が増加した。また客貨混載による営業外収入の計上もあり、収支率が改善した。	・客貨混載→1日3便継続 ・往復デジタルチケットの販売の継続。 ・観光客を対象とした新しいデジタルチケットを検討・販売し公共交通利用を促す。 ・イベント時の乗り方教室やバスの展示で、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。
宮崎交通(株)	6	延岡駅～日之影駅 ～日之影町立病院 ～高千穂	左の系統の運行 R2車両導入1台 R3車両導入2台 R4車両導入1台 R5車両導入2台	【取組実績】 ・24時間有効の往復デジタルチケットを販売し、観光客の誘客、及び県内での周遊・滞在促進を図った。 ・路線バス未利用者の掘り起しを図るため、提携店と連携し、県北周遊バスパックの販売(販売数:680セット)を実施した。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	38.7%	42.7%	4.0%	経費も増加していたが、利用促進施策や観光需要により利用者が増加したため収支率が改善した。	・往復デジタルチケットの販売の継続。 ・観光客を対象とした新しいデジタルチケットを検討・販売し公共交通利用を促す。 ・イベント時の乗り方教室やバスの展示で、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月23日

協議会名：宮崎県地域公共交通協議会
評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況					⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
						評価	収支改善率(%)					
							前年度 収支率 (A)	今年度 収支率 (B)	収支改善 率 (B－A)	理由		
宮崎交通(株)	7	宮交シティ～佐土 原小前～西都	左の系統の運行 R1車両導入1台 R3車両導入2台 R4車両導入1台 R5車両導入2台 R6車両導入1台	【取組実績】 ・沿線の高校に依頼し、学校説明会においてキャンパスミニのチラシ や定期の金額が記載された時刻表を生徒へ配布した。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置 付けられたとおり、 適切に実施され た。	A	73.6%	76.7%	3.1%	経費も増加していた が、利用促進施策に より利用者が増加し たため収支率が改善 した。	・利便性の向上を図り輸送量増加につなげるため、商業施設付近を 運行する経路変更の検討を行う。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、 告知強化に取り組む。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利 用促進を図る。
宮崎交通(株)	8	宮崎～宮崎空港～ 鵜戸神宮～飫肥	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入1台	【取組実績】 ・JRと併用可能なデジタルチケットを活用し、沿線施設の特典付与を 用いることで利用促進を図った。 ・「宮崎駅⇄宮崎空港」間のデジタルチケットを販売し、利便性を向上 し利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。 ・公共交通機関の時刻表を1つにまとめたリーフレットを作成した。ま た、リーフレットを活用し、公共交通機関の乗り方教室を開催した。	A	事業は計画に位置 付けられたとおり、 適切に実施され た。	B	60.5%	59.2%	－1.3%	利用促進策を行った が、経費が増加した ため収支率はR5年度 を若干下回る結果と なった。	・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、 告知強化に取り組む。 ・インバウド観光客に向けて、乗車券販売等を行い公共交通利用を 促す。
宮崎交通(株)	9	宮交シティ～国富 ～綾	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入4台	【取組実績】 ・綾町において高齢者を対象とした100円バスを引き続き実施。 ・行政と連携し、イベント時において乗り方教室やおでかけバスカの臨 時窓口を併設し利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置 付けられたとおり、 適切に実施され た。	B	78.2%	77.9%	－0.3%	利用促進策を行った が、経費が増加した ため収支率はR5年度 を若干下回る結果と なった。	・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、 告知強化に取り組む。 ・綾町おでかけバスカ、国富町の生き行きバスカの窓口をひらき利 用促進を図る。 ・イベント時に乗り方教室を実施し、公共交通への理解を深め、利用 促進を図る。 ・イベントに合わせた企画乗車券を検討する。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利 用促進を図る。
宮崎交通(株)	10	宮崎～花見～赤谷	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入4台	【取組実績】 ・宮崎市内のイベントにおいて、乗り方教室を実施し、公共交通への 理解を深め、利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置 付けられたとおり、 適切に実施され た。	A	84.5%	86.8%	2.3%	経費も増加していた が、利用促進施策に より利用者が増加し たため収支率が改善 した。	・敬老バスカの利用促進のため、宮崎市にチラシの提供をおこない 告知を強化する。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、 告知強化に取り組む。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利 用促進を図る。
宮崎交通(株)	11	宮崎～祇園台・穆 佐・小山田(高岡温 泉)～尾頭	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入4台	【取組実績】 ・宮崎市内のイベントにおいて、乗り方教室を実施し、公共交通への 理解を深め、利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置 付けられたとおり、 適切に実施され た。	B	56.3%	55.8%	－0.5%	利用促進策を行った が、経費が増加した ため収支率はR5年度 を若干下回る結果と なった。	・敬老バスカの利用促進のため、宮崎市にチラシの提供を行い告知 を強化する。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、 告知強化に取り組む。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利 用促進を図る。
宮崎交通(株)	12	宮崎～正手～合 又・田野運動公園	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入3台	【取組実績】 ・宮崎市内のイベントにおいて、乗り方教室を実施し、公共交通への 理解を深め、利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置 付けられたとおり、 適切に実施され た。	B	73.7%	73.1%	－0.6%	利用促進策を行った が、経費が増加した ため収支率はR5年度 を若干下回る結果と なった。	・敬老バスカの利用促進のため、宮崎市にチラシの提供を行い告知 を強化する。 ・沿線の保育園や小学校で乗り方教室を実施し、校外学習や遠足 で利用してもらう。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、 告知強化に取り組む。 ・青井岳温泉で利用可能な特典を付与し、当該路線の利用促進を 図る。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利 用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月23日

協議会名：宮崎県地域公共交通協議会
評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
							評 価	収支改善率(%)				
								前年度 収支率 (A)	今年度 収支率 (B)	収支改善 率 (B－A)		理由
宮崎交通(株)	13	西都城～都城駅・イオンモールミエル～小林	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台	【取組実績】 ・沿線の学校における通学利用を開拓するため、都城泉ヶ丘高等学校において企業探究活動(路線バス利用向上について等)に取り組んだ。 ・小林市で開催されるイベントにてバスの乗り方教室を実施し、利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	41.1%	42.9%	1.8%	経費も増加していたが、利用促進施策により利用者が増加したため収支率が改善した。	・バス停に乗り放題乗車券や、ホリデーパスのチラシの掲示を行う。 ・イベント時に乗り方教室を実施し、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。
宮崎交通(株)	14	イオン都城～妻ヶ丘・イオンモール・都城駅～川原谷	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台	【取組実績】 ・沿線の学校における通学利用を開拓するため、都城泉ヶ丘高等学校において企業探究活動(路線バス利用向上について等)に取り組んだ。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	51.6%	51.4%	－0.2%	利用促進策を行ったが、経費が増加したため収支率はR5年度を若干下回る結果となった。	・制限運転者へ向けて悠々バス購入補助のPRを行う。 ・イベント時に乗り方教室を実施し、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。
宮崎交通(株)	15	(特急)西都城～都城駅・都城北入口・高速道・宮崎空港～宮崎駅	左の系統の運行	【取組実績】 ・沿線の学校における通学利用を開拓するため、都城泉ヶ丘高等学校において企業探究活動(路線バス利用向上について等)に取り組んだ。 ・「宮崎駅⇄宮崎空港」間のデジタルチケットを販売し、利便性を向上し利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	67.8%	73.9%	6.1%	経費も増加していたが、利用促進施策により利用者が増加したため収支率が改善した。	・通学利用の開拓を図るため、沿線の学校の学校説明会で定期券のPRを行う。 ・バス停に乗り放題乗車券や、ホリデーパスのチラシの掲示を行う。 ・制限運転者へ向けて悠々バス購入補助のPRを行う。 ・新しいデジタルチケットを検討・販売し公共交通利用を促す。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利用促進を図る。
宮崎交通(株)	16	南延岡～浦城港～宮野浦	左の系統の運行 R2車両導入1台 R3車両導入2台 R4車両導入1台 R5車両導入2台	【取組実績】 ・沿線の商業施設等へのホリデーパスのPRを行った。 ・路線バス未利用者の掘り起しを図るため、提携店と連携し、県北周遊バスパックの販売(販売数:680セット)を実施した。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	39.6%	40.3%	0.7%	経費も増加していたが、利用促進施策により利用者が増加したため収支率が改善した。	・土日祝日限定で近郊エリアを1日乗り放題で利用出来るホリデーパスのPRを行う。 ・悠々バス購入補助のPRを行う。 ・イベント時の乗り方教室やバスの展示で、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。
宮崎交通(株)	17	イオンタウン日向～道の駅とうごう	左の系統の運行 R2車両導入1台 R3車両導入2台 R4車両導入1台 R5車両導入2台	【取組実績】 ・路線バス未利用者の掘り起しを図るため、提携店と連携し、県北周遊バスパックの販売(販売数:680セット)を実施した。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	58.0%	54.6%	－3.4%	利用促進策を行ったが、運送収入が減少したため収支率はR5年度を下回る結果となった。	・土日祝日限定で近郊エリアを1日乗り放題で利用出来るホリデーパスのPRを行う。 ・悠々バス購入補助のPRを行う。 ・イベント時の乗り方教室やバスの展示で、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。
宮崎交通(株)	18	飫肥～油津～夫婦浦～幸島入口	左の系統の運行 R2車両導入1台 R3車両導入1台 R4車両導入1台 R6車両導入1台	【取組実績】 ・沿線の病院に乗り入れし、利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。 ・公共交通機関の時刻表を1つにまとめたリーフレットを作成した。また、リーフレットを活用し、公共交通機関の乗り方教室を開催した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	47.6%	49.1%	1.5%	経費も増加していたが、利用促進施策により利用者が増加したため収支率が改善した。	・地域住民に向けて乗り方教室を実施し、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。 ・インバウド観光客に向けて、乗車券販売等を行い公共交通利用を促す。
宮崎交通(株)	19	西都～佐土原駅～佐土原高校	左の系統の運行 R2車両導入2台 R3車両導入3台 R4車両導入2台 R5車両導入2台 R6車両導入6台	【取組実績】 ・JRと併用可能なデジタルチケットを活用し、沿線施設の特典付与を用いることで利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	64.0%	65.8%	1.8%	経費も増加していたが、利用促進施策により利用者が増加したため収支率が改善した。	・利便性の向上を図り輸送量増加につなげるため、商業施設付近を運行する経路への変更を検討する。 ・デジタルチケットを用いた沿線施設との連携、特典の付与の活用、告知強化に取り組む。 ・大学、沿線の自治体と連携して、大学生に向けた施策を検討し利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月23日

協議会名：宮崎県地域公共交通協議会
評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
							評 価	収支改善率(%)				
								前年度 収支率 (A)	今年度 収支率 (B)	収支改善 率 (B－A)		理由
宮崎交通(株)	20	小林～市立病院～文化センター～道の駅えびの～京町	左の系統の運行 R3車両導入2台 R4車両導入1台	【取組実績】 ・効率的な運行に向け、乗降調査等を用いて運行実績に基づくダイヤ改正等の検討を行い、令和6年度運行分において、減便及びダイヤ改正を実施した。 ・小林市で開催されるイベントにてバスの乗り方教室を実施し、利用促進を図った。 ・65歳以上向けに1乗車200円で利用できる企画乗車券を発売した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	59.1%	63.9%	4.8%	経費も増加していたが、利用促進施策により利用者が増加したため収支率が改善した。	・悠々バス購入補助のPRを行う。 ・乗り方教室を実施し、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。 ・沿線自治体と連携して、運行回数の見直しによる運行費用の削減を行う。
鹿児島交通(株)	21	都城～岩川～野方～県民健康プラザ～鹿屋	左の系統の運行	【取組実績】 ・運賃改定を実施した。 ・GoogleMapの乗換案内へのデータ提供は実施できなかった。	B	事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった	B	38.5%	32.9%	-5.6%	昨年と比較して収益が伸び悩み、減収となった。また、人件費や物価高の影響で経費増額となった。結果、収支率の改善には至らなかった。	(今後の方向性) 地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。
鹿児島交通(株)	22	志布志～稚児松～松山駅～岩川～中央通り～都城	左の系統の運行	【取組実績】 ・運賃改定を実施した。 ・GoogleMapの乗換案内へのデータ提供は実施できなかった。	B	事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった	A	34.2%	35.5%	1.4%	運賃値上げを実施し、1,408千円の増収となった。また、人件費や物価高の影響で2,658千円の経費増額となり、収支率は1.36%の改善した。	(今後の方向性) 地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直しを行う。また令和7年度の運行をもって、幹線系統から廃止代替系統へ移行する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
鹿児島県バス対策協議会	鹿児島交通(株) 種子島・屋久島交通(株) 南国交通(株) しまバス JR九州バス(株) 宮崎交通(株)	31系統 ※詳細は別添一次評価のとおり	別添一次評価のとおり	A評価：31系統 B評価：0系統 C評価：0系統	A評価：26系統 B評価：5系統 C評価：0系統 【参考：前年度】 A評価：18系統 B評価：24系統 C評価：0系統	別添一次評価のとおり	運転者や事務員など人手不足が進む中、GTFS-JPの活用、情報誌や時刻表と一体となったバス路線マップの周知等利用促進に取り組まれていること、利用者のニーズに合わせた運行経路及び運行回数の変更を行い、運行の効率化に取り組まれていることを評価します。 目標達成に向けた今回の取り組みについては、具体的な取り組みの結果やその効果に加え、工夫した内容などについても記録されると、より効果的な改善につながるものと思慮されます。 目標を達成できた系統と達成できていない系統がありますが、それぞれの要因について分析し、評価書に記録することは重要です。一部の系統において減便の影響を受けて、輸送人員が減少しておりますが、地域の実情を考慮のうえ、その他に原因がないかどうかについても分析し、その他要因への改善点を検討いただくと、より効果的な改善につながることを期待されます。 さらに、目標を達成できた系統、要因の分析や取り組みの改善が良くできている系統については、他系統においても参考・活用されることを期待します。 今後は、アフターコロナを見据えた目標設定や評価指標の見直しも検討いただきながら、県と市町村が連携を図り事業者や住民と共に地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、地域の特性・実情に最適な交通手段が確保・維持されることを期待します。	評価指標 【平均乗車密度】 【輸送量】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月24日

協議会名：鹿児島県バス対策協議会

評価対象事業名：地域間幹線系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況					⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）		
				評価	平均乗車密度		輸送量			理由	
					R5	今期	R5	今期			
鹿児島交通（株）	鹿児島～川辺～枕崎（特急）	生産性向上の取組から見直しを実施	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	4.7	5.0	15.9	22.0	地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。	
鹿児島交通（株）	なのはな館～指宿～利永～開聞口～穎娃～大川～東大川	生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A		A	3.2	3.3	15.6	15.8		
鹿児島交通（株）	鹿児島～指宿～ホテル～山川 棧橋（普通）	生産性向上の取組から見直しを実施	A		A	4.2	4.7	20.5	23.0		
鹿児島交通（株）	伊集院高校～加世田～田ノ野～枕崎	生産性向上の取組から見直しを実施	A		A	4.0	4.5	15.6	19.8		
鹿児島交通（株）	指宿いわさきホテル～指宿～道の駅喜入～知覧～武家屋敷入口	生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A		B	4.0	4.2	18.4	16.8	令和5年6月に減便を実施し、運行回数が減ったため	地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。
鹿児島交通（株）	鹿児島～中央駅前～知覧～特攻観音入口	生産性向上の取組から見直しを実施	A		A	5.6	6.2	47	52.0	地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。	
鹿児島交通（株）	鹿児島駅前～犬迫～伊集院	生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A		B	4.4	4.6	35.6	35.4	令和6年4月に減便を実施し、運行回数が減ったため	地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況					⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）	
					評価	平均乗車密度		輸送量			理由
						R5	今期	R5	今期		
鹿児島交通（株）	鹿児島～鹿児島中央駅～谷山駅前～伊作～加世田（急行）	生産性向上の取組から見直しを実施	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	5.2	5.6	48.8	50.4	地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。	
鹿児島交通（株）	鹿児島中央駅～自衛隊・国分～重久車庫		A		A	4.2	4.6	26.8	39.5		
鹿児島交通（株）	鹿児島駅～伊集院・島平～川内営業所		A		A	4.0	4.0	12.8	17.2		
鹿児島交通（株）	鹿児島駅～伊集院・島平～串木野		A		A	3.4	3.8	17	18.2		
鹿児島交通（株）	都城～岩川～野方～県民健康プラザ～鹿屋	A	B		3.6	3.3	15.4	14.1	運賃改定の平均賃率の増加に伴い乗車密度が下がったため。		
鹿児島交通（株）	垂水～垂水港～鹿屋～志布志（普通）	生産性向上の取組から見直しを実施	A		A	3.9	4.2	30.8	31.9	地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。	
鹿児島交通（株）	志布志駅～岩川～牧之原～検校橋～旭通～霧島市役所～鹿児島空港		A		A	3	3.4	14.7	16.6		
鹿児島交通（株）	志布志駅～稚児松～松山駅～岩川～中央通り～都城		A		A	3	3.4	9.9	11.2	地域ごとに利用促進を進めるために、路線ごとに運行回数の変更や経路見直し、また幹線系統から廃止代替系統への移行等を自治体と協議、検討しながら経費を削減し、路線維持に努める。	
種子島・屋久島交通（株）	永田～上屋久町役場～いわさきホテル	令和2年5月1日より、運行経路の変更ならびに運行回数の見直しを行い、見直し内容を継続した。	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	3.8	3.9	16.7	17.1	生産性の向上の観点から、路線毎の運行の合理化（運行回数の見直し、運行時刻の変更など）に取り組み、全体的な収支改善を図ると同時に、自治体などとの協力を行いバス利用者の利用促進の観点から路線毎の利用に合わせた改善を行う。	
種子島・屋久島交通（株）	宮之浦港～安房港～いわさきホテル～栗生橋		A		A	4.3	4.4	34.4	35.2		

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況					⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由
					R5	今期	R5	今期	
南国交通（株）	佐潟口～出水～水俣車庫	当該路線沿線のダイヤ改正を実施したことによる利用状況の改善を図った。	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	3.3	4.6	26.0 34.9	収支率が改善をしたが、運行維持をした上で、地域状況を鑑みて今後の路線あり方を検討する。 運賃改定を実施、改定実施に伴い収支率は改善を見込む。
南国交通（株）	隈之城車庫～西方駅前～阿久根新港		A		A	3.8	5.1	44.0 57.6	
南国交通（株）	大口～本城～栗野駅前		A		A	5	5.2	15.0 15.6	
南国交通（株）	大口～針持～宮之城		A		A	5.3	6.1	24.9 28.6	
南国交通（株）	楠田車庫～帖佐駅～鹿児島空港		A		A	4.9	5.2	25.9 27.5	
南国交通（株）	阿久根市役所～出水・宮之城～鹿児島空港		A		A	3.3	5.1	29.3 45.9	
（株）しまバス	平田町奥又～秋名～安木屋場	大規模な路線再編をR1年10月に実施し,GTFS-JPを活用し利用促進を図った。	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	2	2.5	15.0 17.5	路線維持を旨に費用削減と更なるバス利用の利便性向上が不可欠。
（株）しまバス	こしゅく第1公園～せとうち海の駅	大規模な路線再編をR1年10月に実施し,GTFS-JPを活用し利用促進を図った。	A		A	3.9	4.4	21.4 28.6	路線維持を旨に費用削減と更なるバス利用の利便性向上が不可欠。 具体策としてMaaSやLCCでの航空機利用者からの容易なバスチケット購入策を開始。
（株）しまバス	こしゅく第1公園～奄美パーク～奄美空港	大規模な路線再編をR1年10月に実施し,GTFS-JPを活用し利用促進を図った。	A		A	3.1	4.4	35.6 57.2	路線維持を旨に費用削減と更なるバス利用の利便性向上が不可欠。 具体策としてMaaSやLCCでの航空機利用者からの容易なバスチケット購入策を開始。
（株）しまバス	赤木名外金久～奄美空港～平田町奥又	大規模な路線再編をR1年10月に実施し,GTFS-JPを活用し利用促進を図った。	A		A	3.9	5.7	21.4 37.0	路線維持を旨に費用削減と更なるバス利用の利便性向上が不可欠。 具体策としてMaaSやLCCでの航空機利用者からの容易なバスチケット購入策を開始。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況					⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）	
					平均乗車密度		輸送量		理由		
					評価	R5	今期	R5			今期
JR九州バス（株）	鹿児島駅～鹿児島中央駅～薩摩郡山～宮之城	・沿線の小学校7校にバスの絵を募集し、路線沿線の小学生がバスをテーマにして描いていた絵画を車内に展示した。	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	6.5	6.5	48.1	46.1	2024年4月1日ダイヤ改正を行い、系統の変更及び減便により減収	引き続き、バスの利用促進活動に取り組む。また、ご利用状況による見直し等、効率的な運行の検討を沿線自治体と連携して持続可能な交通体系を検討していく。
JR九州バス（株）	鹿児島駅～川田～岩戸口～薩摩郡山	・子供たちにバスに慣れ親しんでもらえるよう、春休み期間中に子供運賃無料の日を設定した。	A		B	5.5	5.6	48.4	46.4	2024年4月1日ダイヤ改正を行い、系統の変更及び減便により減収	
JR九州バス（株）	鹿児島～鹿児島中央駅～明桜館高校前～薩摩郡山	・沿線バス停から最寄りの店舗や施設等とお得な乗車券の情報、時刻表を掲載したパンフレットを沿線住民に配布した。	A		A	5.2	6.8	39.5	51.6		
宮崎交通（株）	イオン都城～妻ヶ丘・イモール・ミエル・都城駅～川原谷	・沿線の学校における通学利用の開拓をするため、都城泉ヶ丘高等学校の企業探究活動（路線バス利用向上について等）に取り組んでいる。	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	2.4	2.4	12.7	12.7		引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。また、沿線の学校における通学利用の開拓を継続していく。